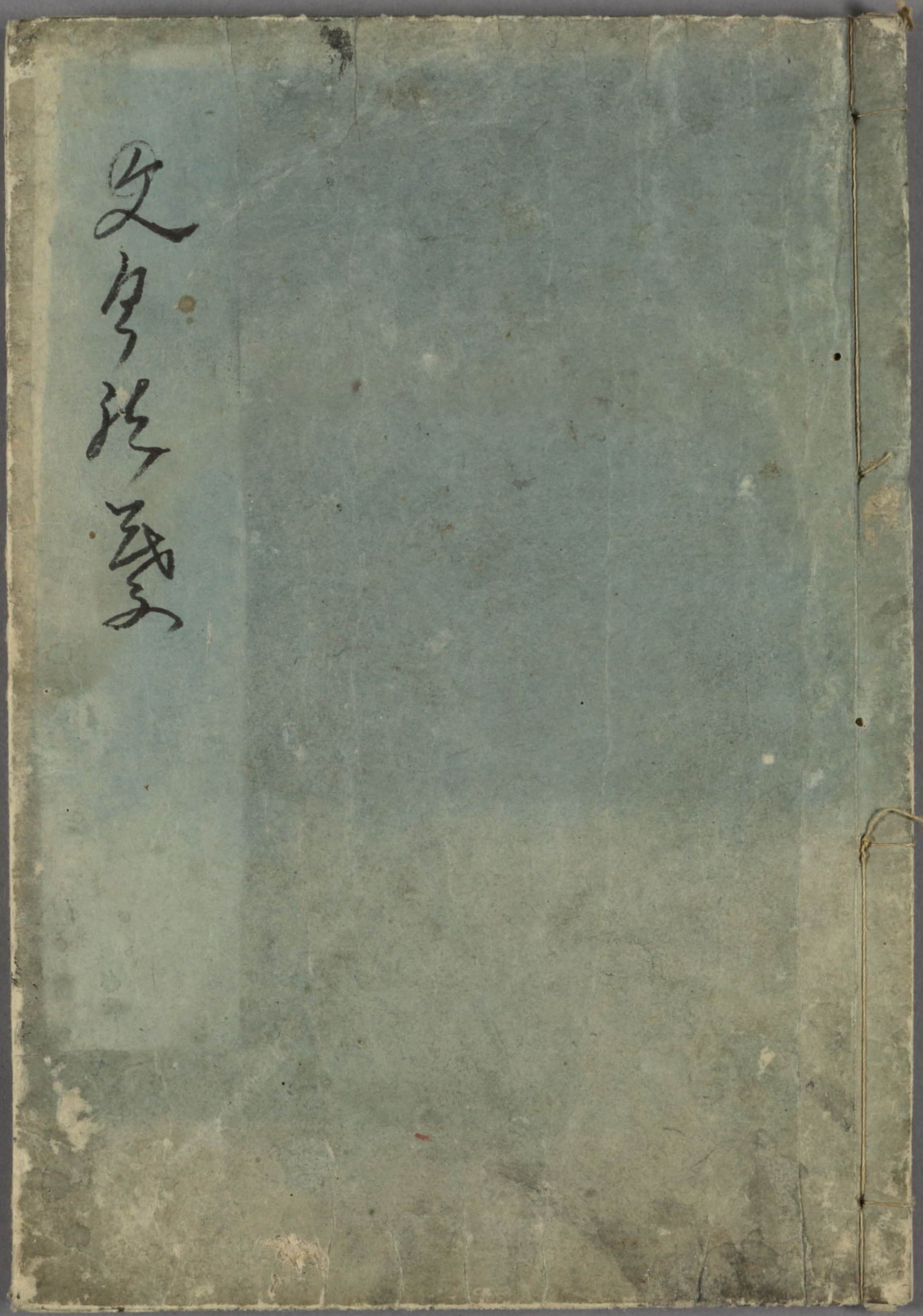


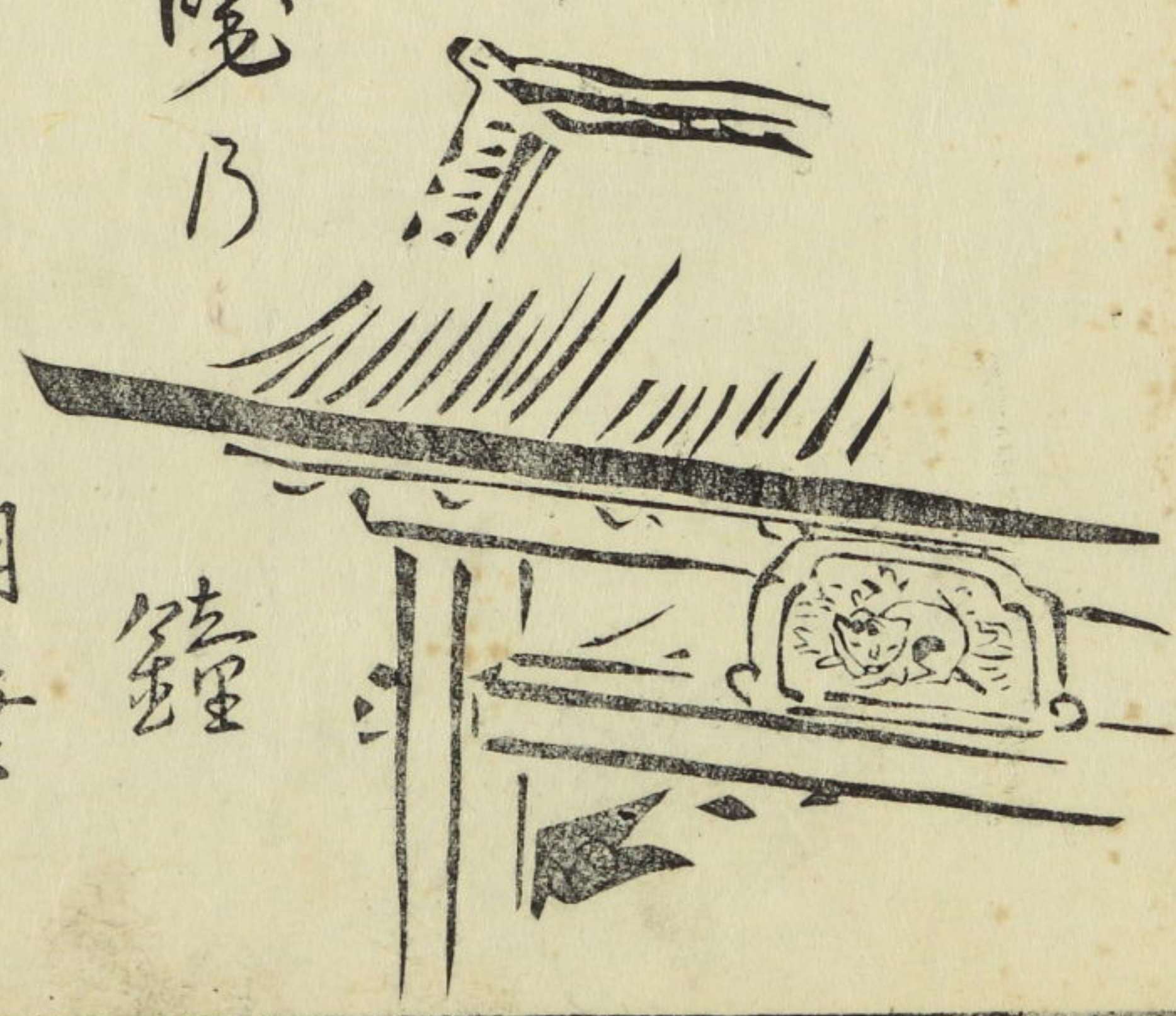


史記卷之三



風よ散る
今年の
秋也
白菊
乃未輝

元日也
 念
 撞
 曉
 乃
 鐘
 羽
 幸




牧
 殺
 會
 放生會
 一炊菴



昼顔

古の川堤

南陽舎
外川



古の

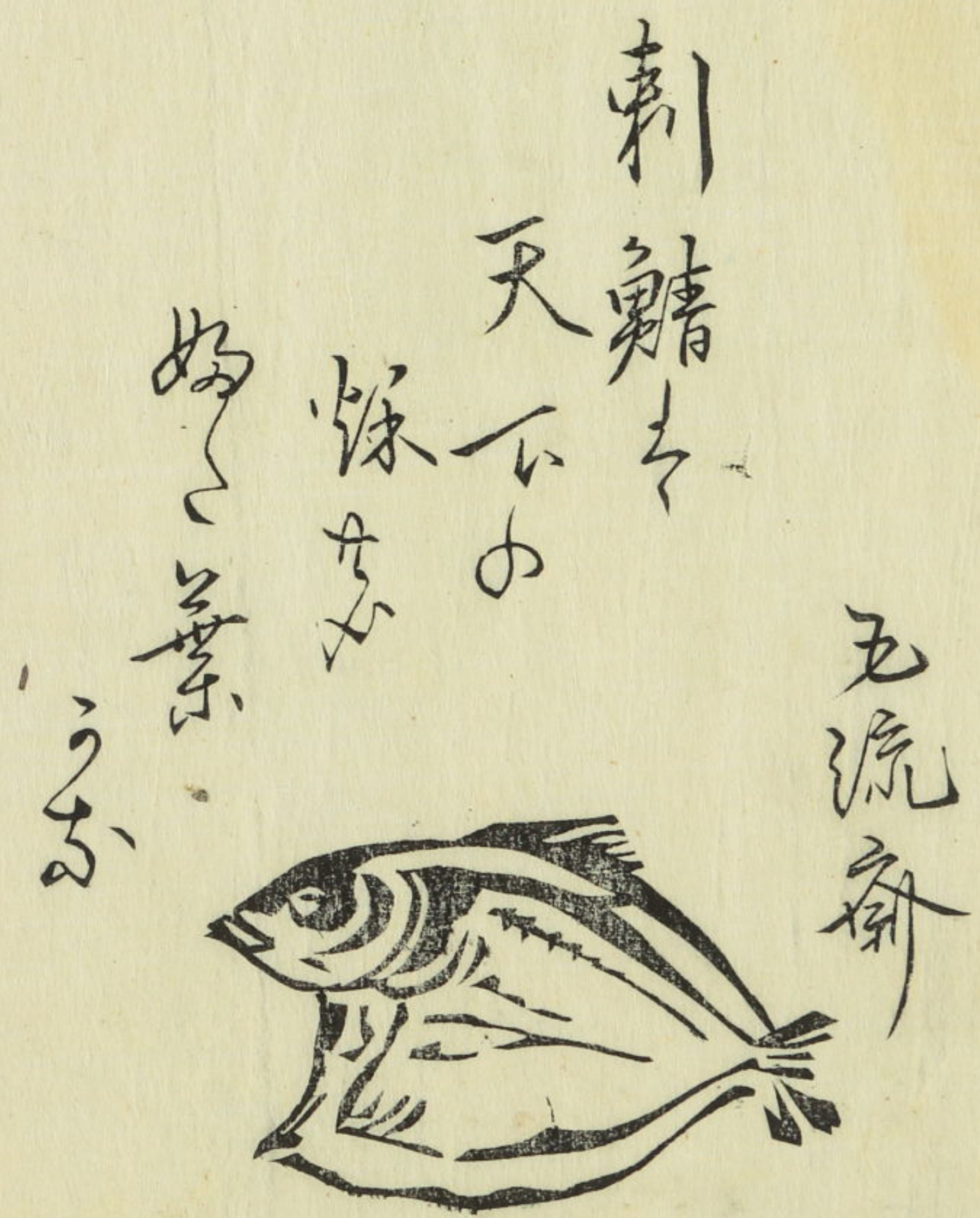
玉

糸

糸

那

蘭石



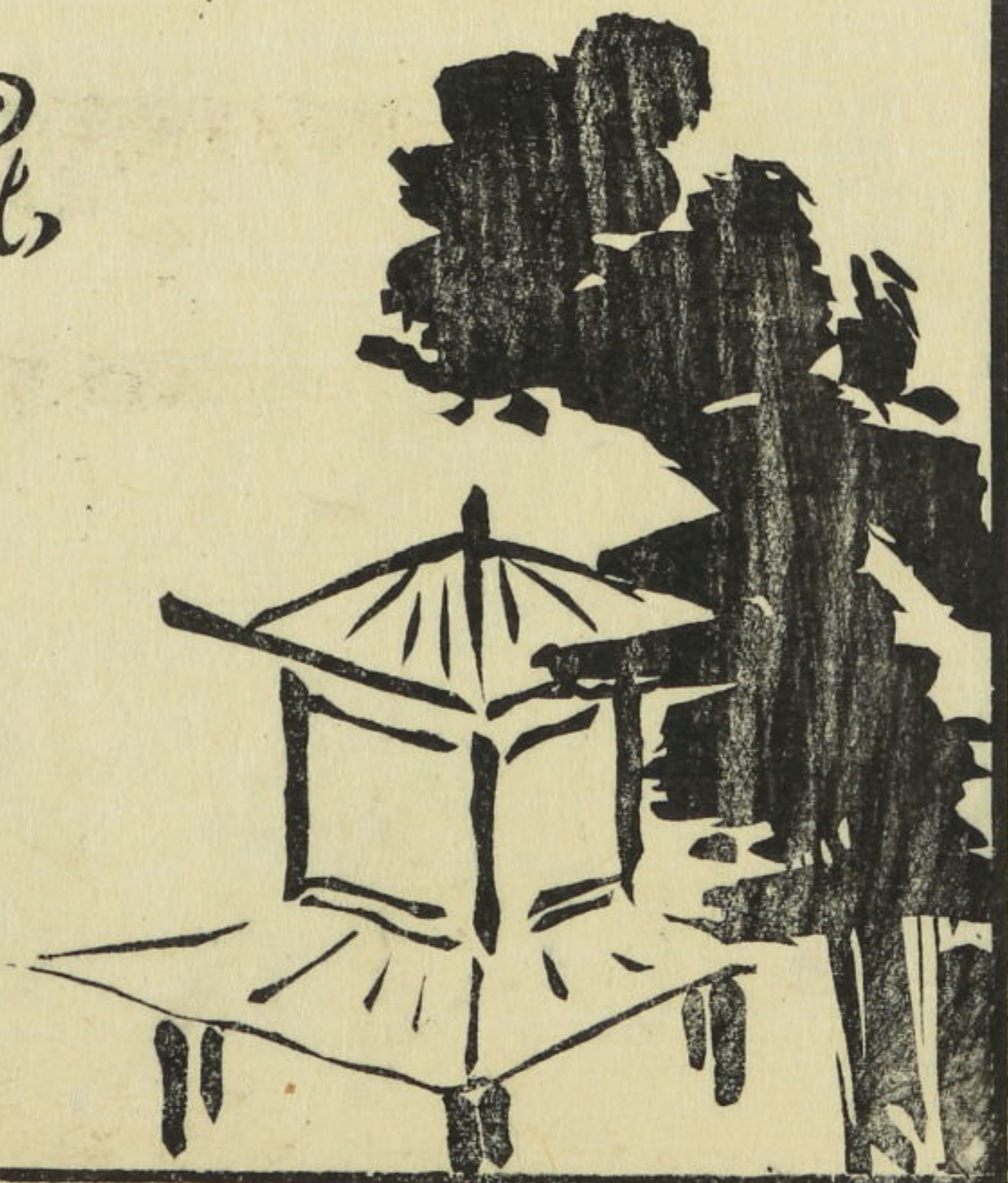
題定卿亭

誰の
うたの

夕せり時通也

夕せり時通也

葭城
醉中戲墨



雨聞て

もろり

寝る

雛子の舞

寒白

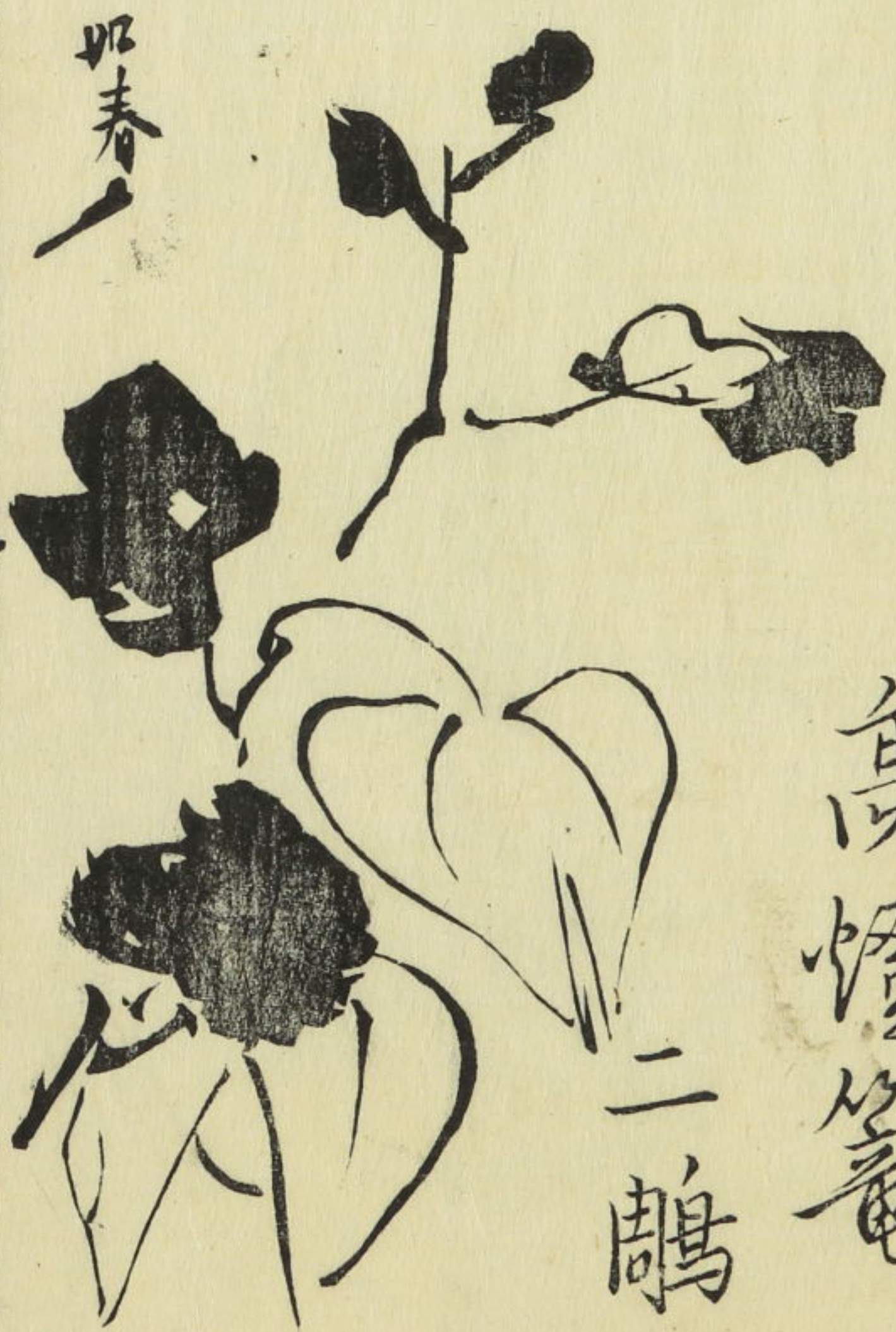


漁
さ乃

夕日
三

高燈籠

二鷗



如春

如春

あさか

南飛

夕日
三
の
亭



中秋清光

宴と出て

花巻

月こよる



林足園

此春

甘露熊



物の名も

取ふよ家也

吉野子



正月也

一日 善き 袖書 子

來今

報雀

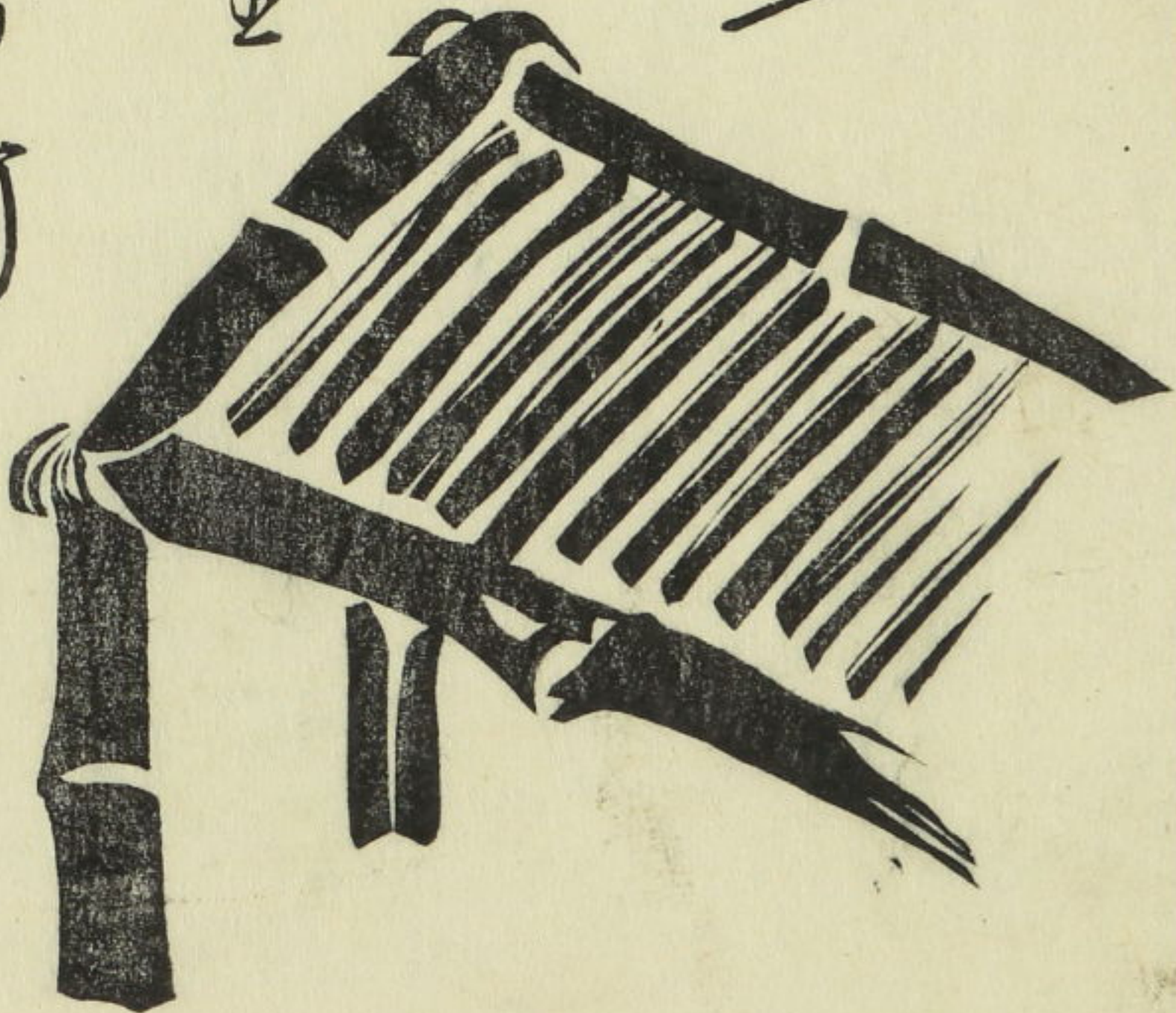
家

よる

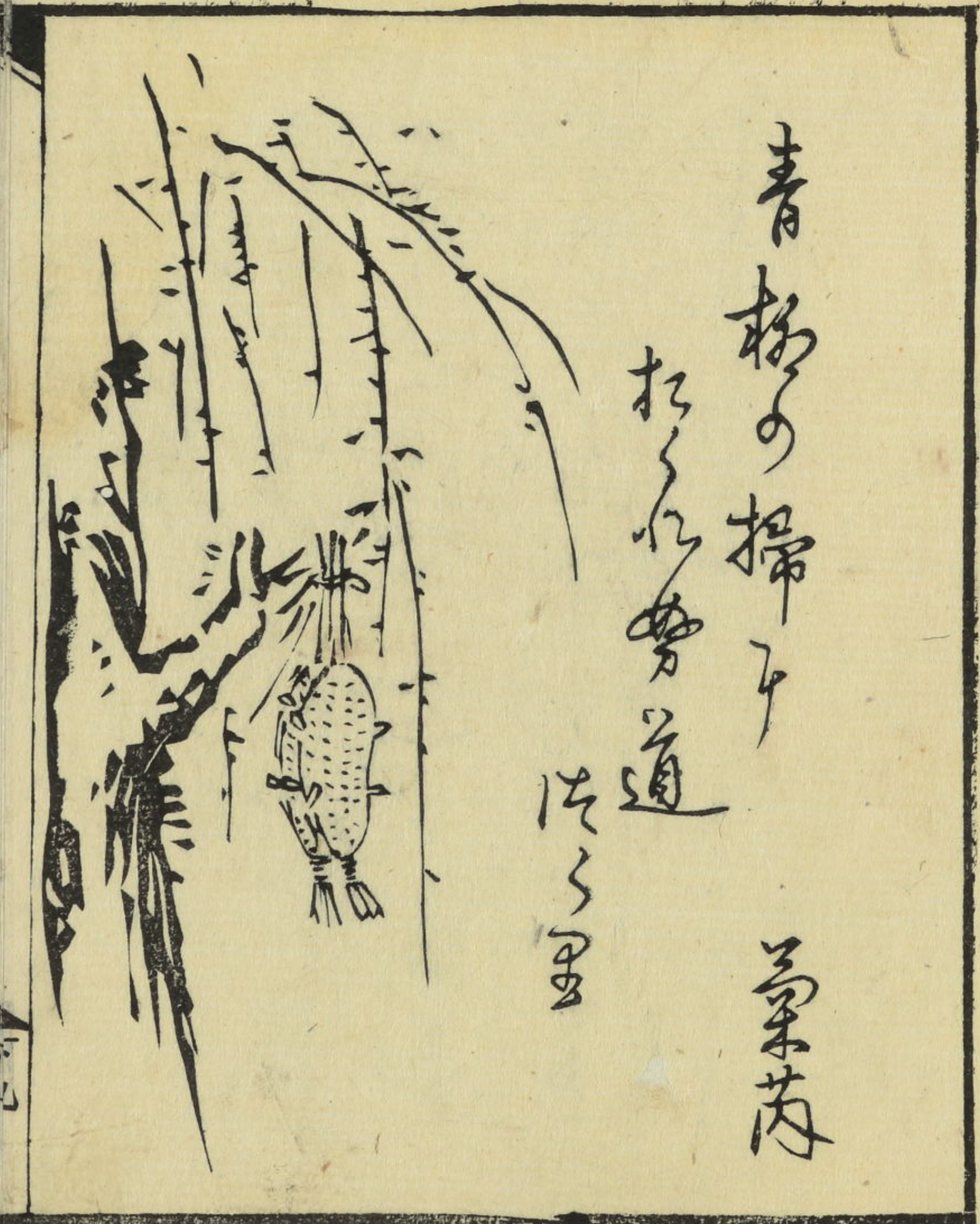
如香

先乃

異有可系



魏雀

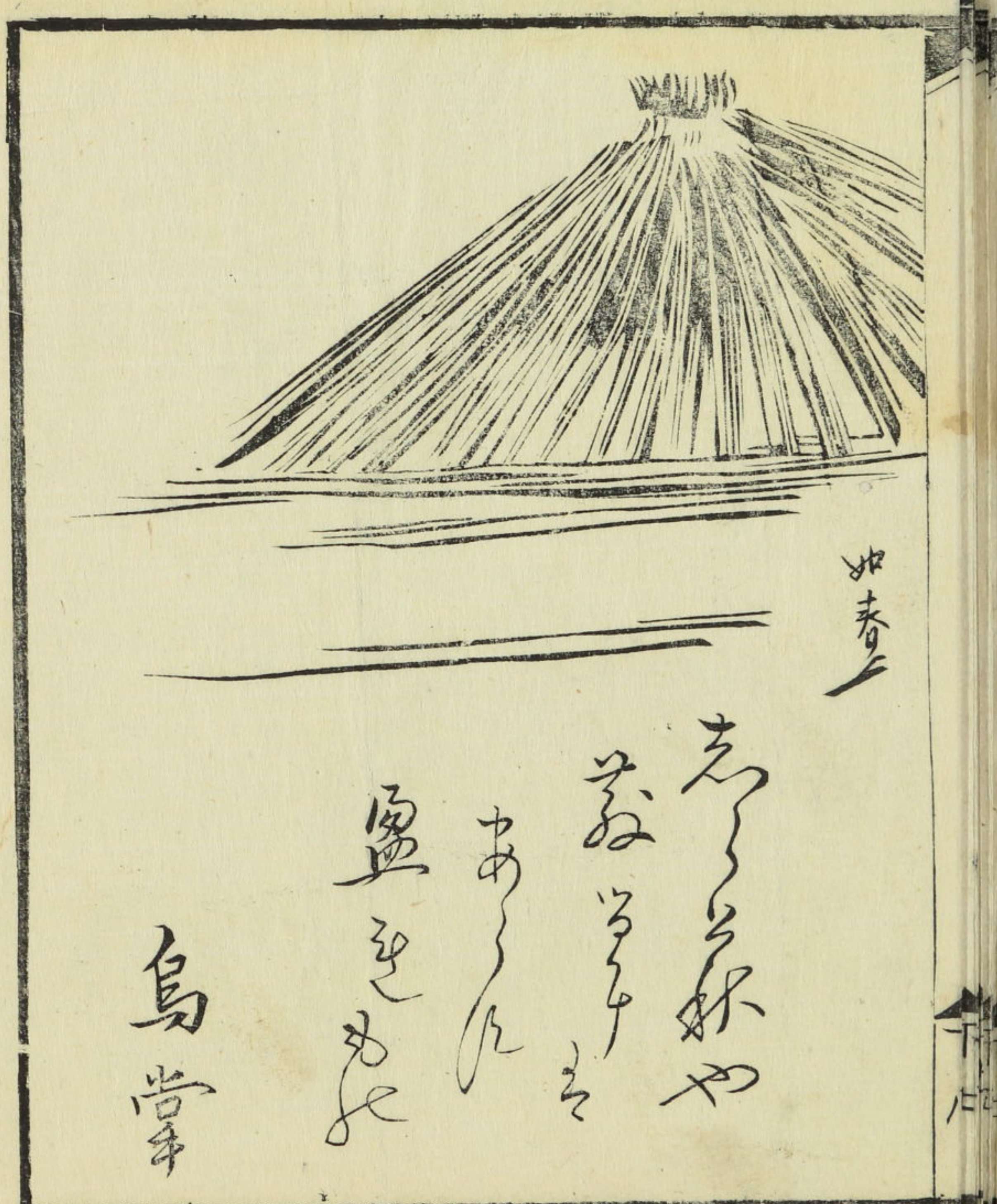


青柳の掃子

おろし勢道

はくし

菜花



如春

志々林也

おろし

あ〜ん

魚道

鳥堂

四季

種も成り候中子も出立春中の子
杜若池のま中咽くあき
女高き粟やとんを志おしきり
餅煮き何をいふくる人合し

十南齋
榮禪

七夕
在昔秋

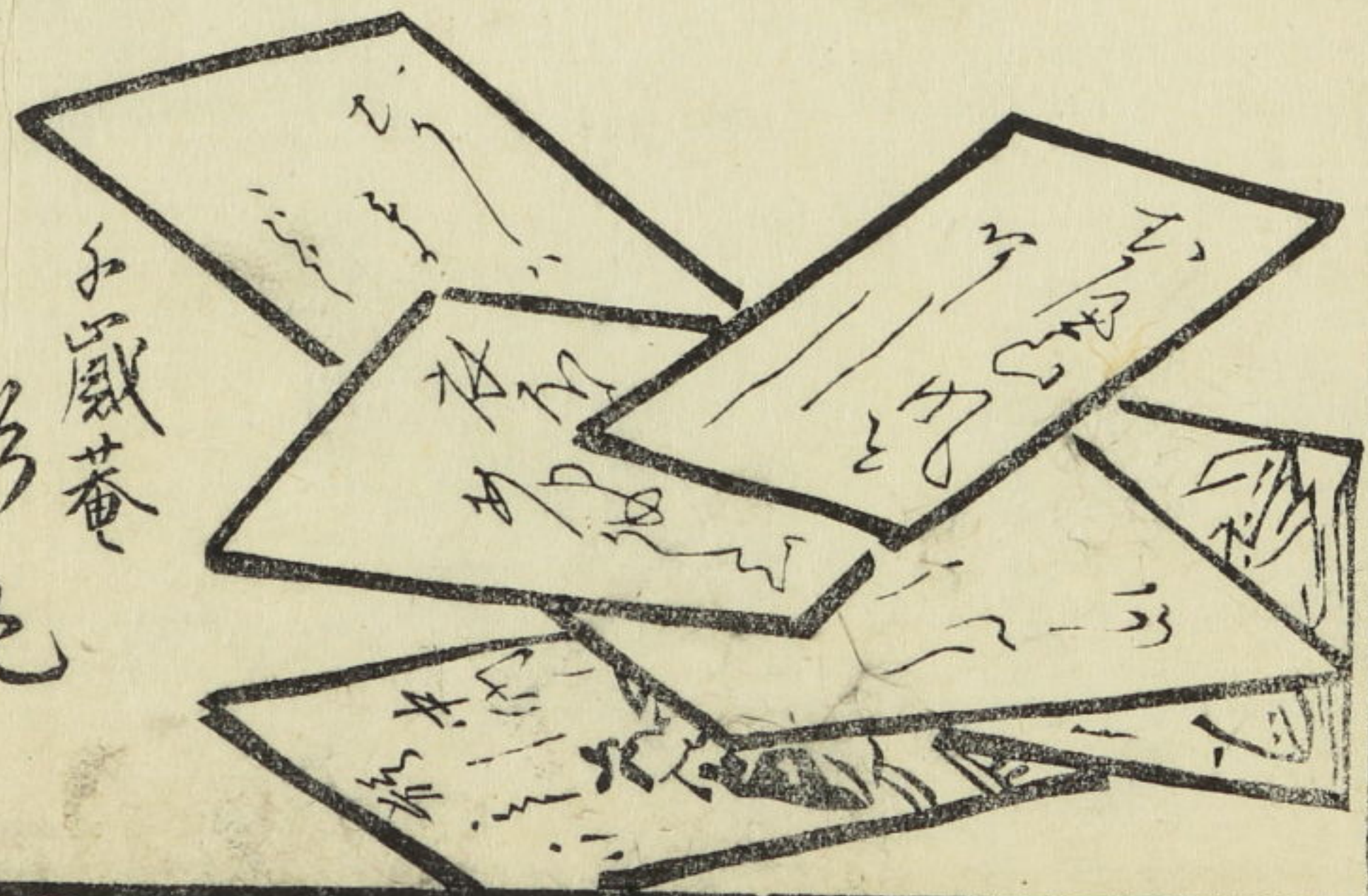


まの暑き
空のまや
七月
星
周木

春雨也

直字も
毛ぬき丸
呼子

小威菴
杉丸



旅中の
端午

我斬も

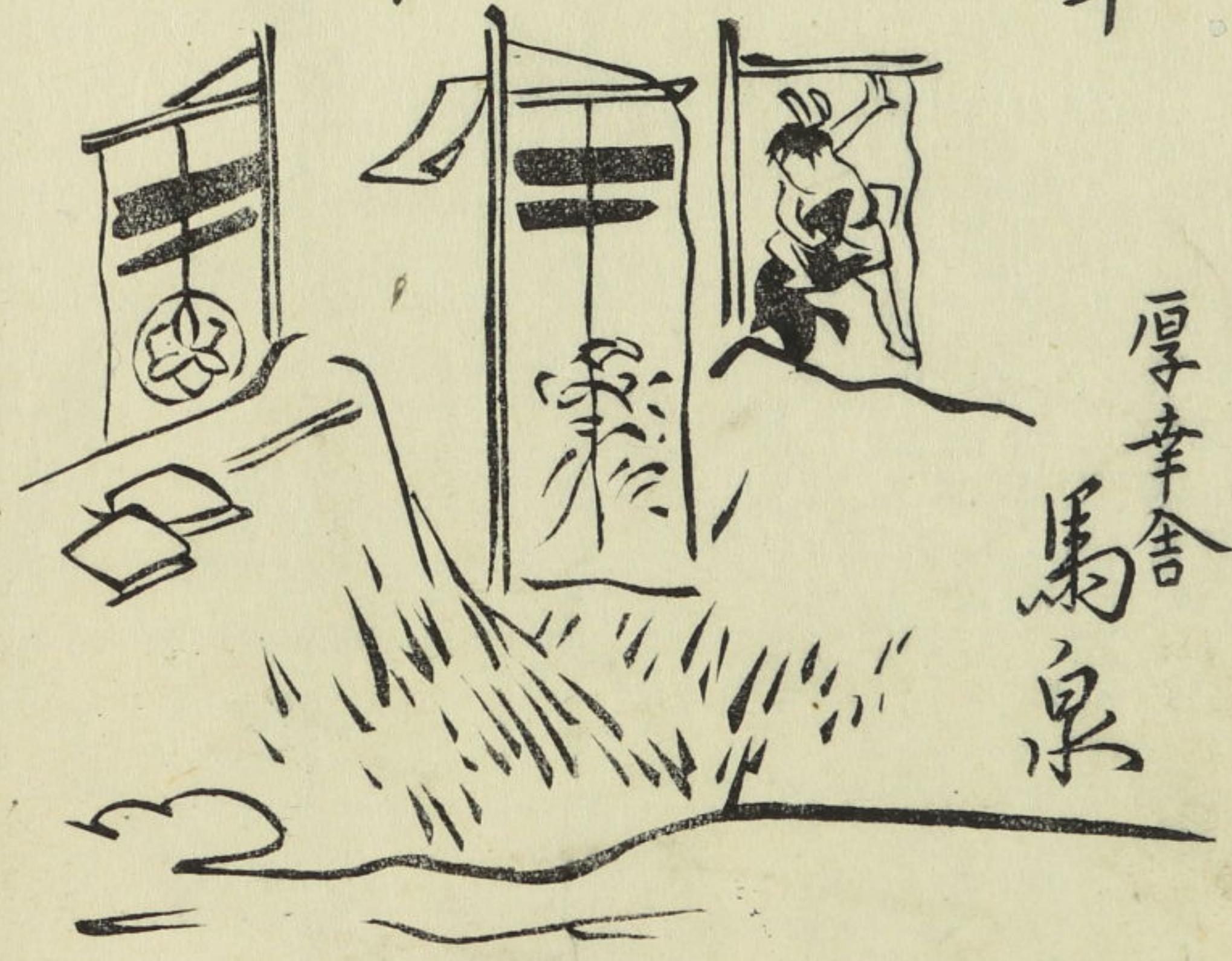
あやめ

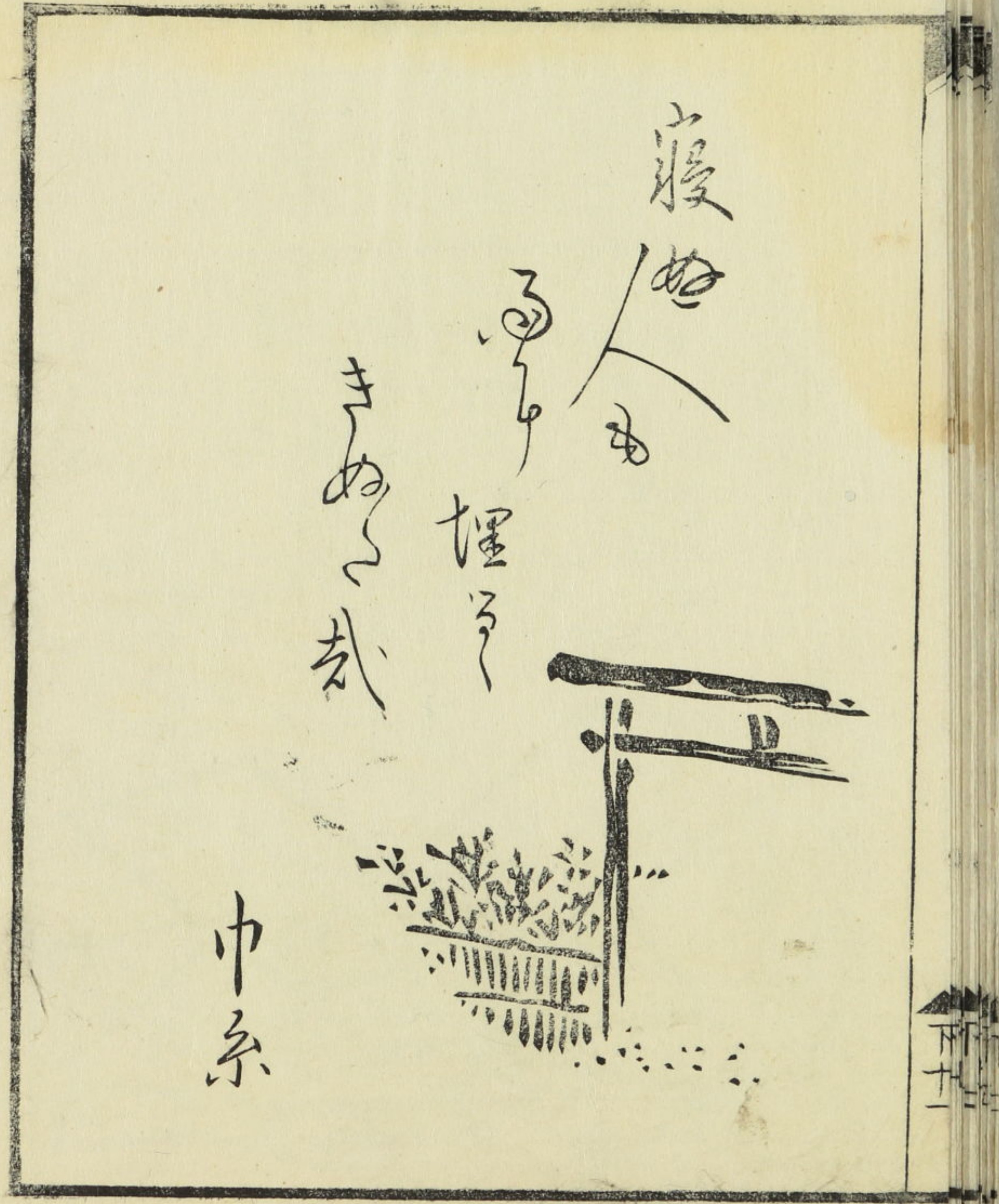
葺ら

三度笠

厚幸舎

馬泉





退潮

八千坊

うさけりや何國へ一市の長次郎

短夜

籠賣形も後さあを忘る所

十三夜

かつら男は後亂照るや保津虫

三白

たけの雪や雪を白夜のいつて

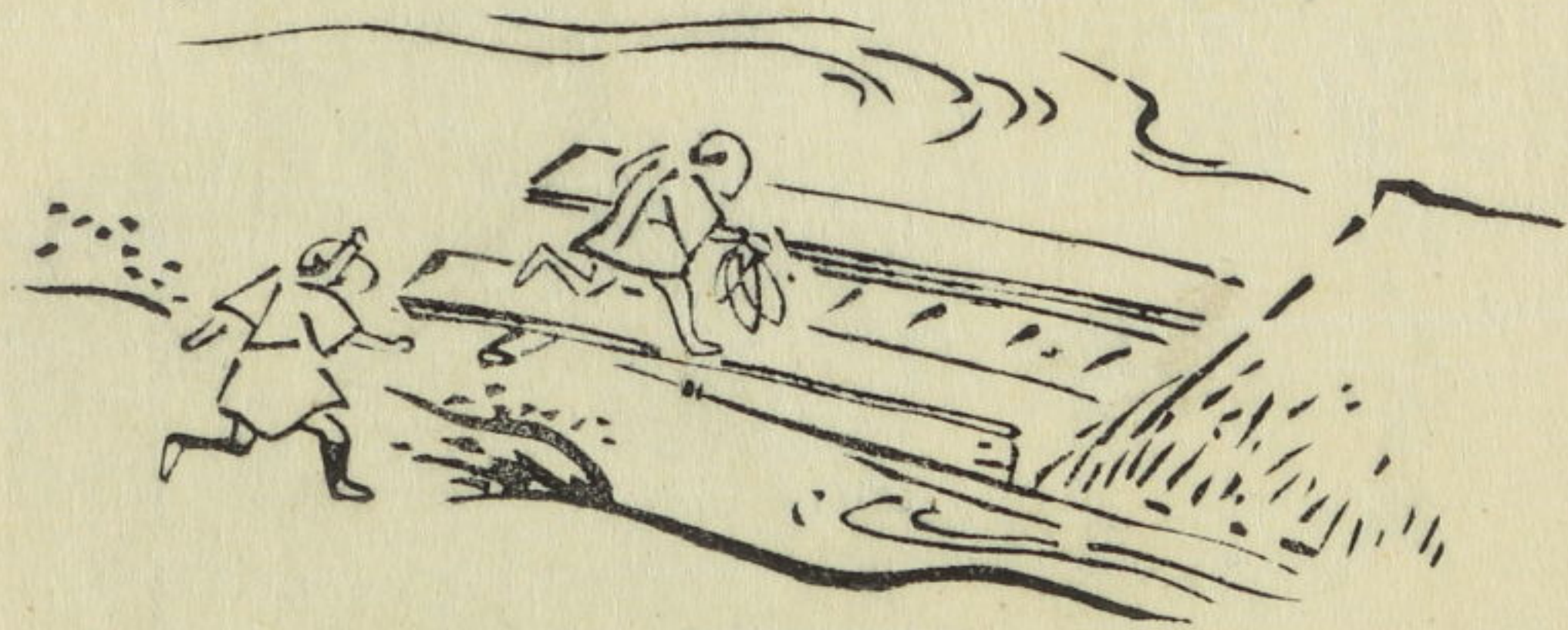
雪月兼

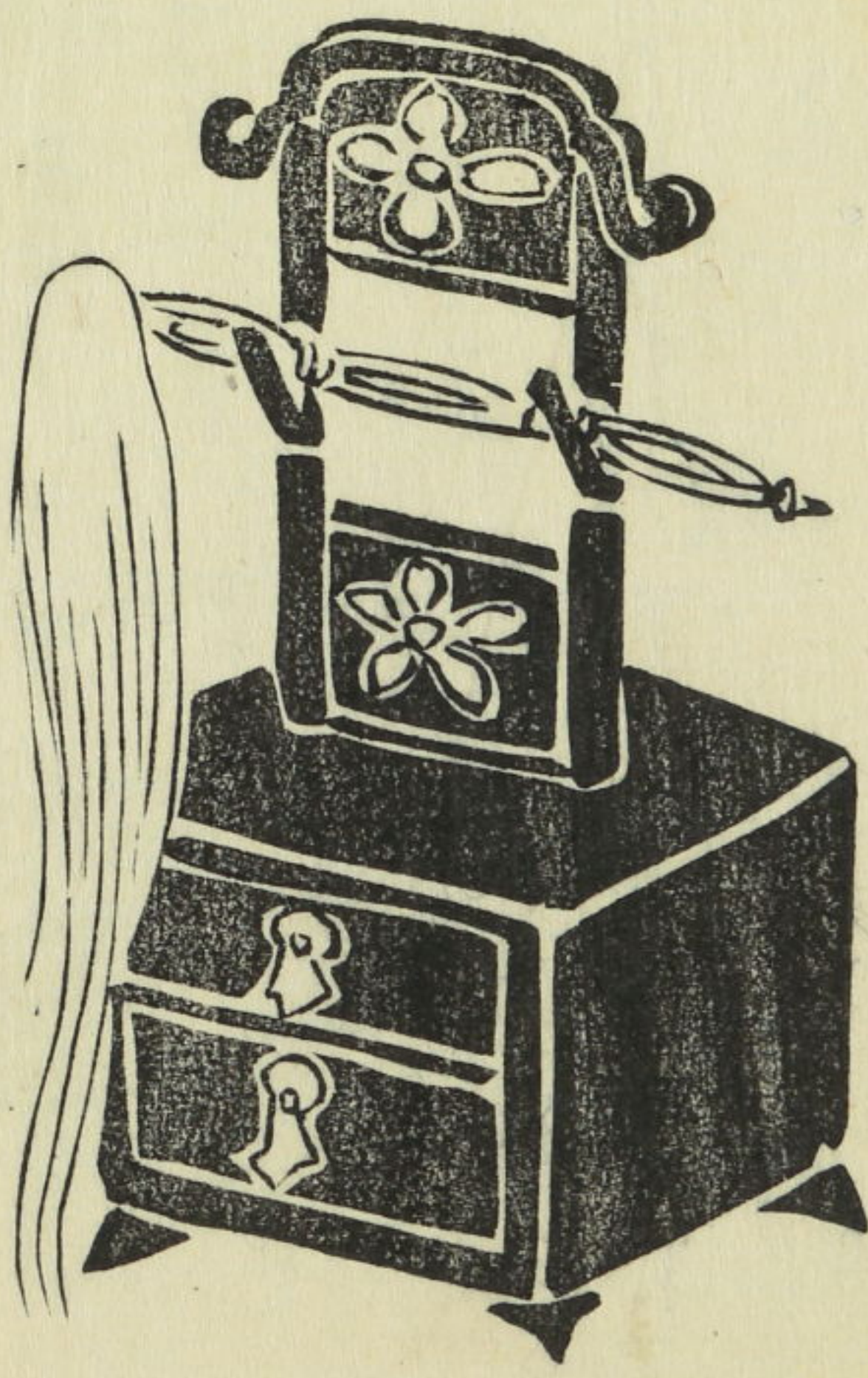
由條子

はえり

涼うさ

胡條





平治連人
東山吹の
賢夕改
守丈
善乃心雲

退潮

神川

住吉の海を

亞覽

淡路へ渡る日よか

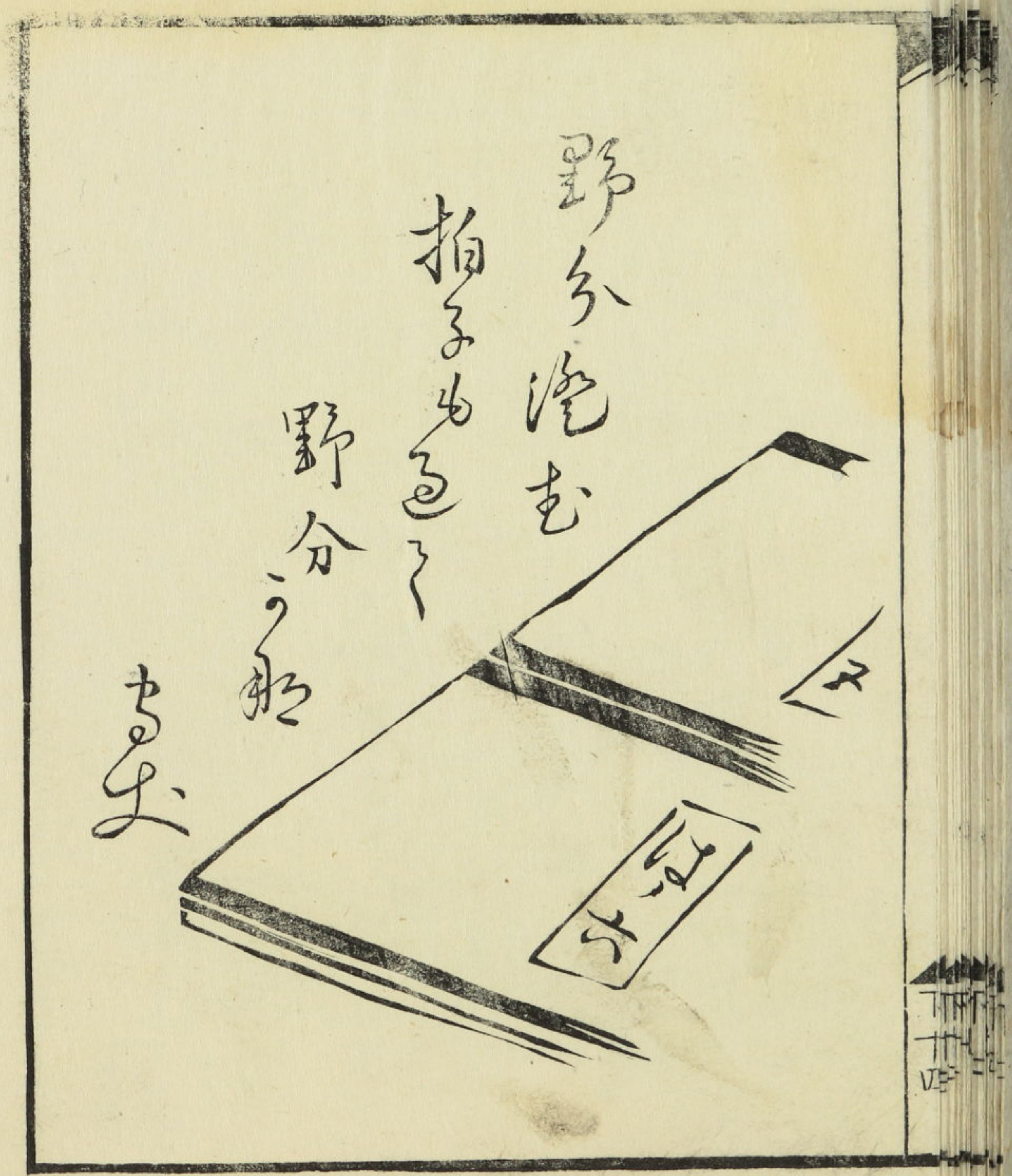
上巳

同

枕照る也

曦鹿

鄙中 都れおちり



佛生會

喜慶家草々

斬き

卯の集

うさね 哉一春舎

儿書



佛日

有き上はくちくちの川あは

六月望辰か川かた

卯の草や船千踏る夏乃お

八相

甲乙出け神象能能信え

又の系

夕の信成細志く家千多か

右

不二庵

巳雲

上巳

能かろいつきの危枯風情也
一翫りたり

何れも昔今、宮乃神の身

中秋

月見あまの月や東家北位定

郊外之吟

一多れあむを牙ひし川の葉のさか

六

清幽廬

真亮

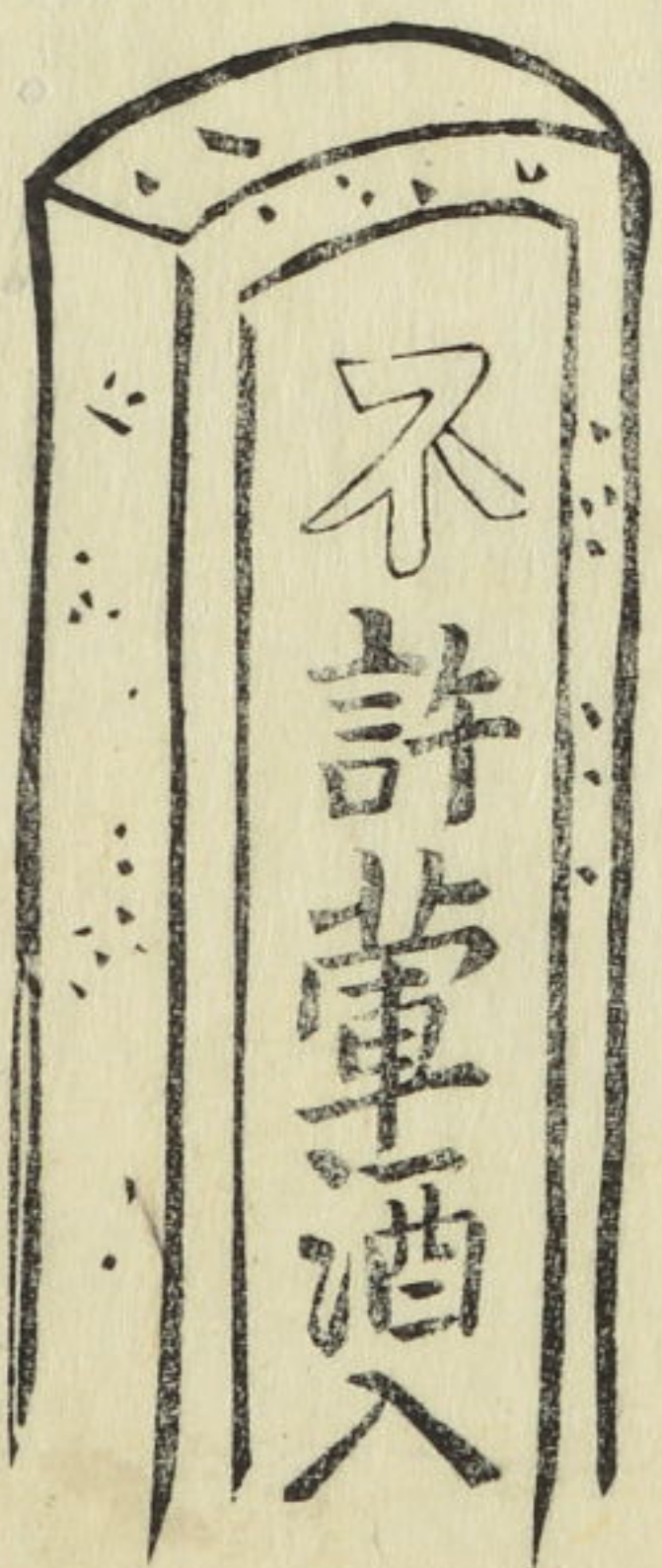
跡もやら掃

宇野

自画

志部川半生

もたき





又於部
 有芳亭
 兔石
 山曲虎
 壽



九輪

帆柱
也



有延閣
韻尺



乾
之
風

風持

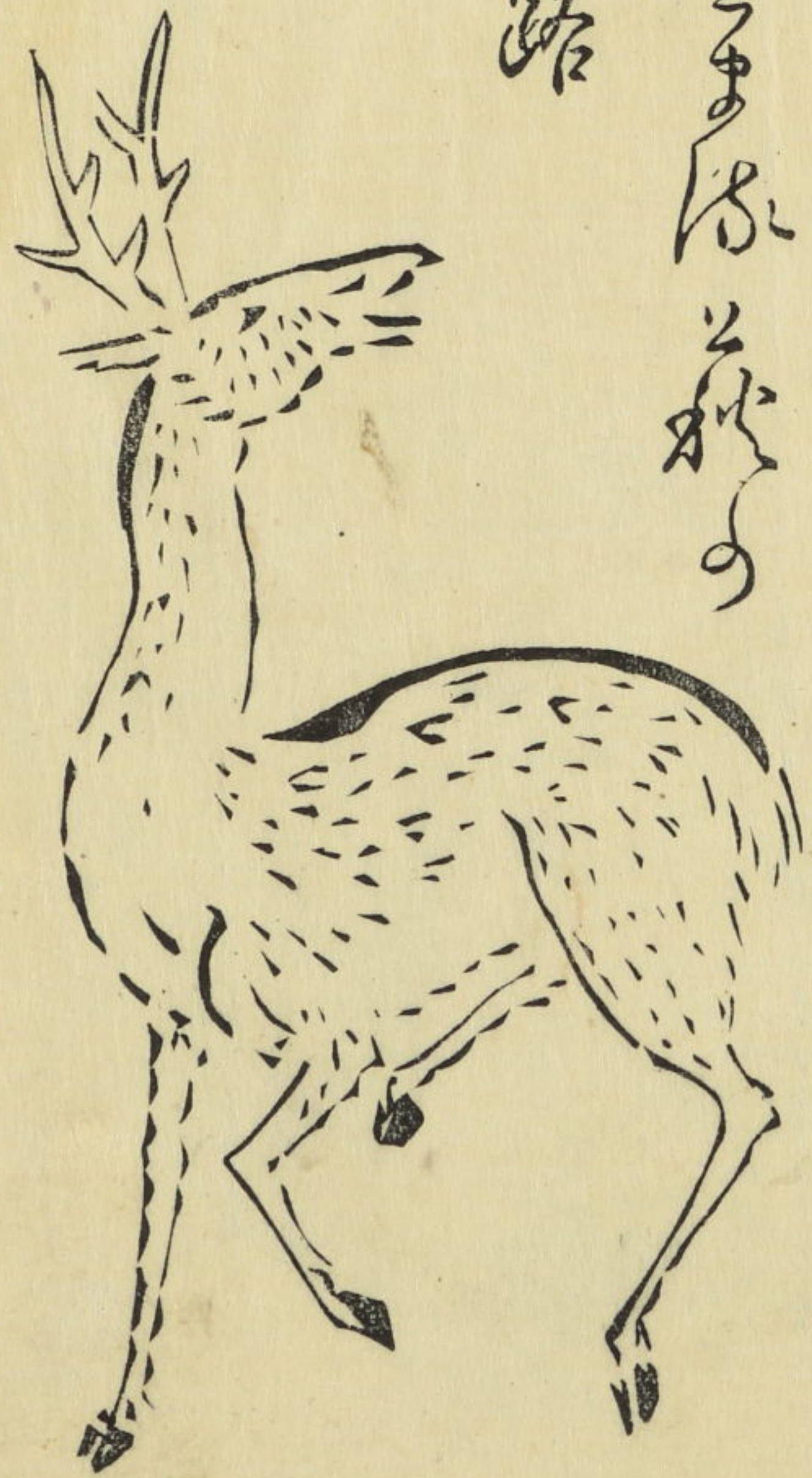
一

梅

棋北

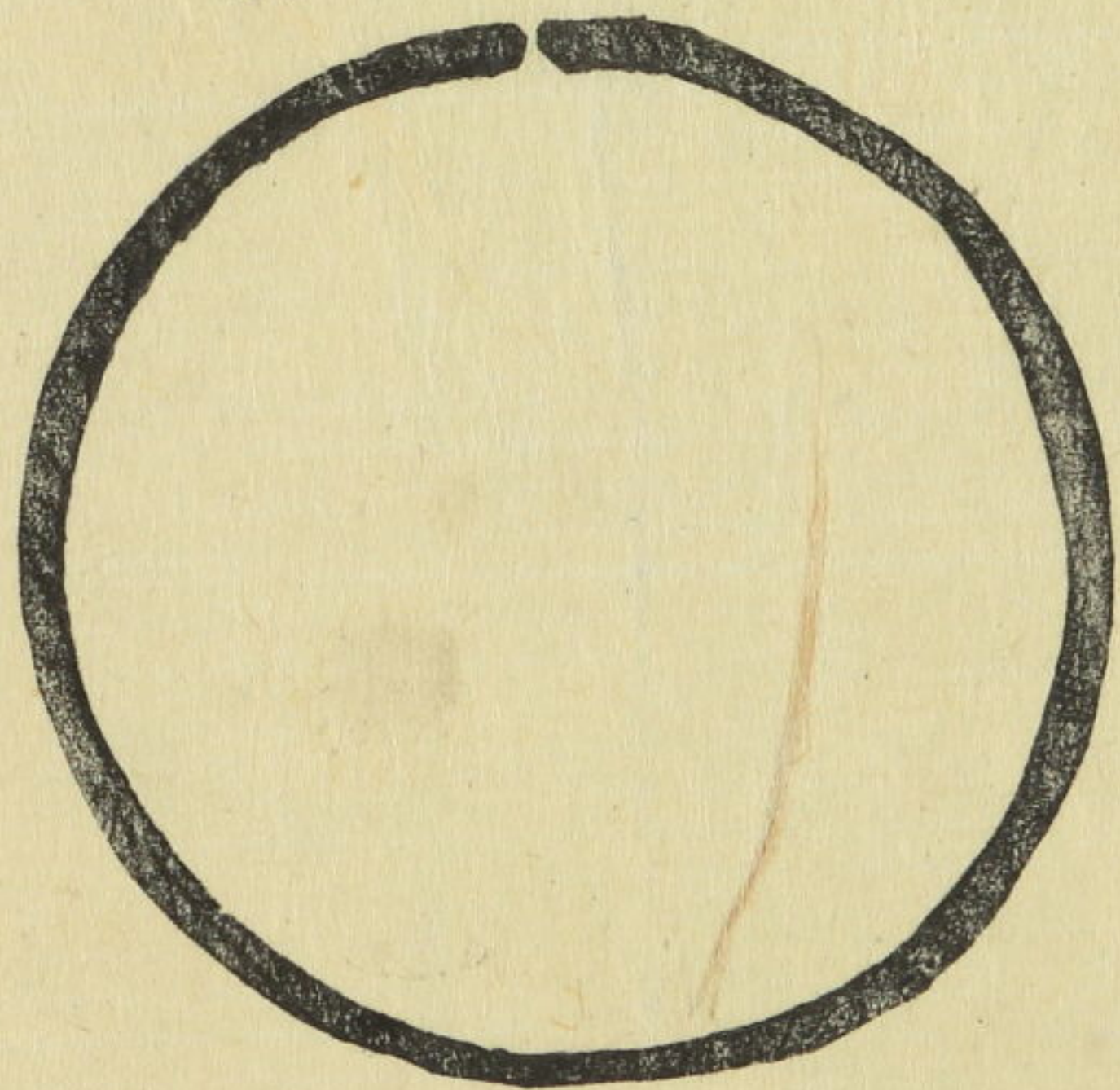


下
七



素也蹄子
 串中係於の
 正路

楚院



敵一
 夏世也
 子也
 子也
 燈籠

風粟菴
 萱子

丁
 十九



億

人

こ
そ
あ
終

桐

美

藍々舎

如
釣



山
雀

れ
か

流
の

ふ
く
も

谷
の

音

馬
陵

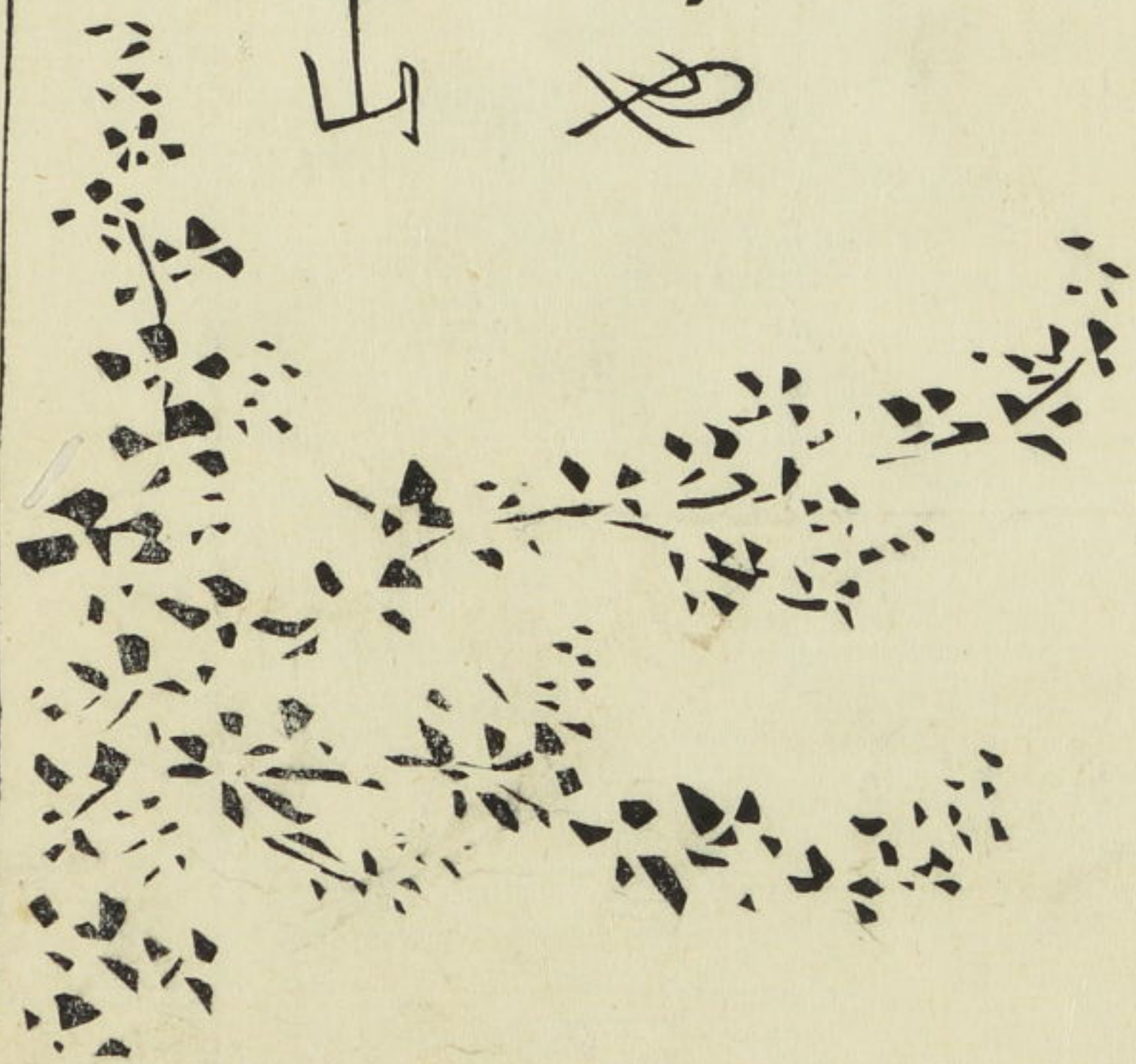
丁
大

其中不

月由

也

山



木瑞

子午讓

也

かふ

船



白葉

Small vertical text or seal at the bottom right corner of the page.

名月也
 比叡と
 括川を
 凝りて



敷津連
 永洞

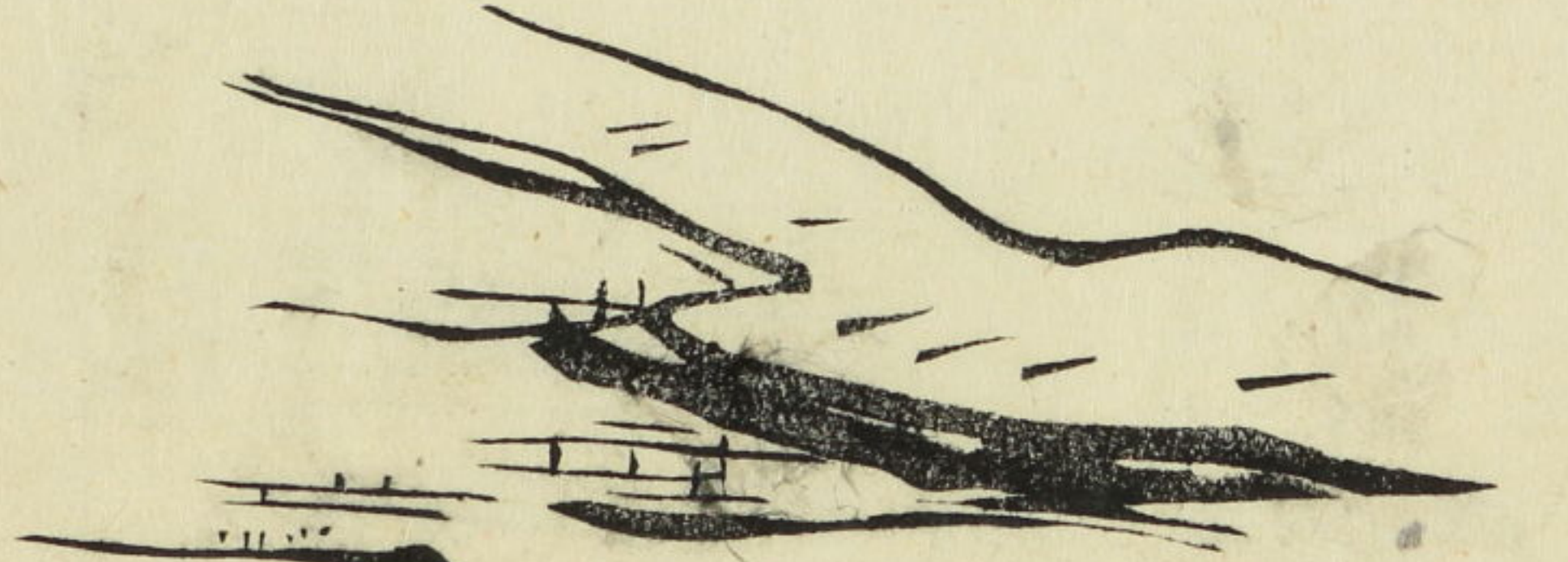
心とる小
 板の
 減る
 餘り

ふきみり
 寺如

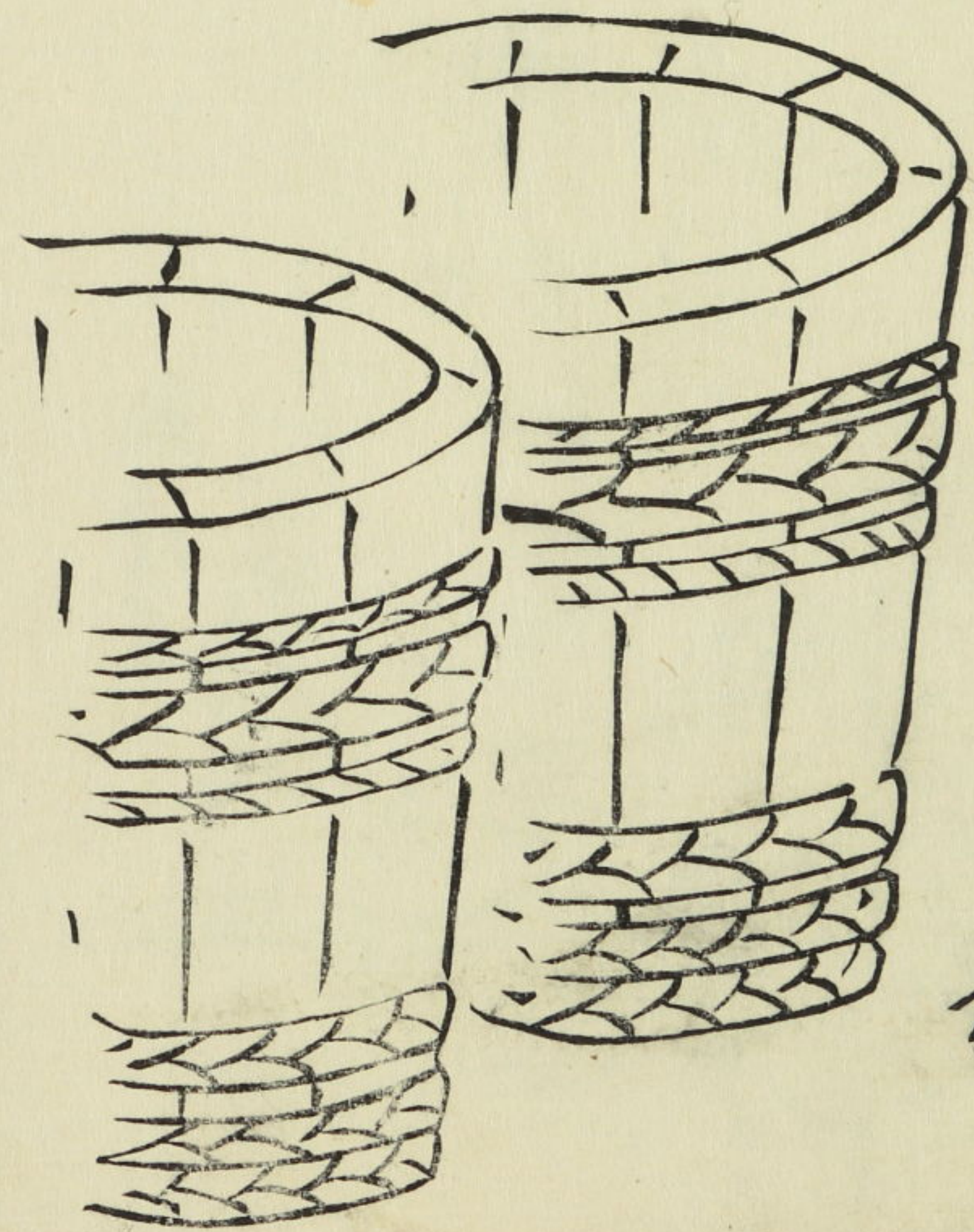


汝星菴
 句龍

今竹里亭
 可計
 舟也
 路多也
 山
 流也
 月々
 雪也



安
 名
 口
 二
 酒



彌
 穿
 改
 一
 梅

招く手如
 舟子尾
 安梨船
 尾总

全大峯堂

祇江



丁世四



名月也

源

流

舟

端

所

雞丈

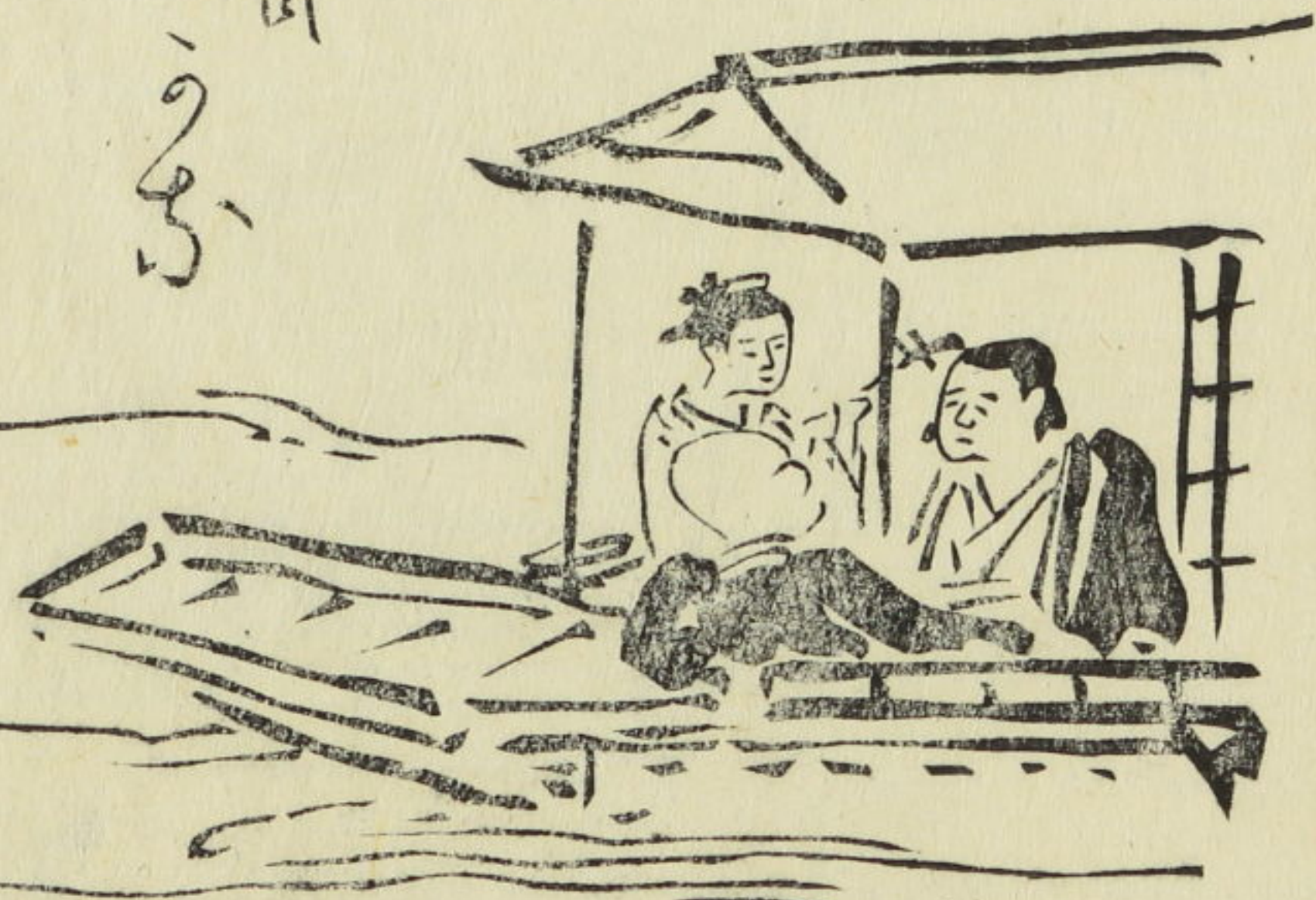
丁世四



樂天

瑞哥

雷足



香發送

梅乃
文使



正榮軒
里光

僧々々々

落台

峯城

まみ



保中

月の山

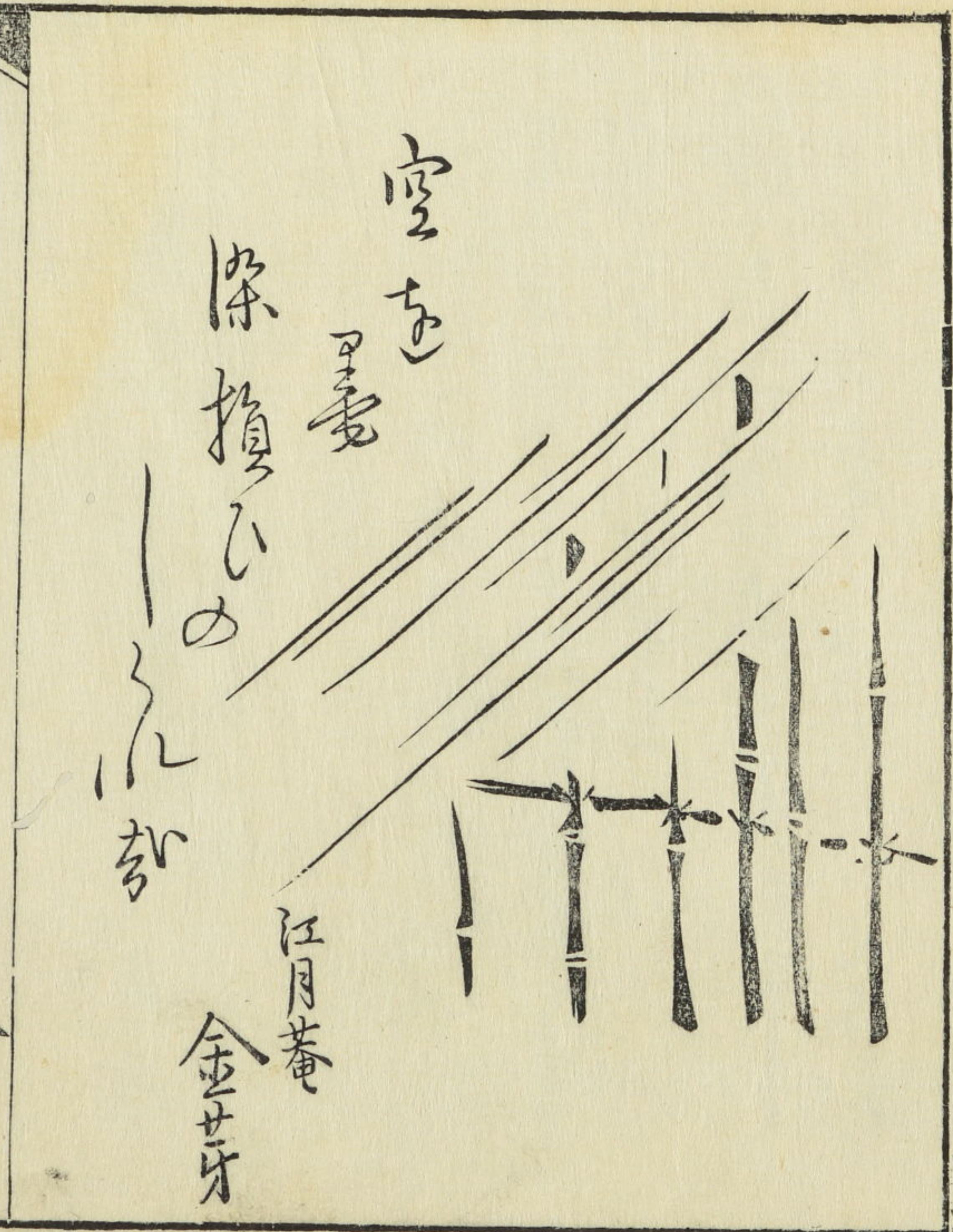
見か

昨日

得一

雨鳳





空を

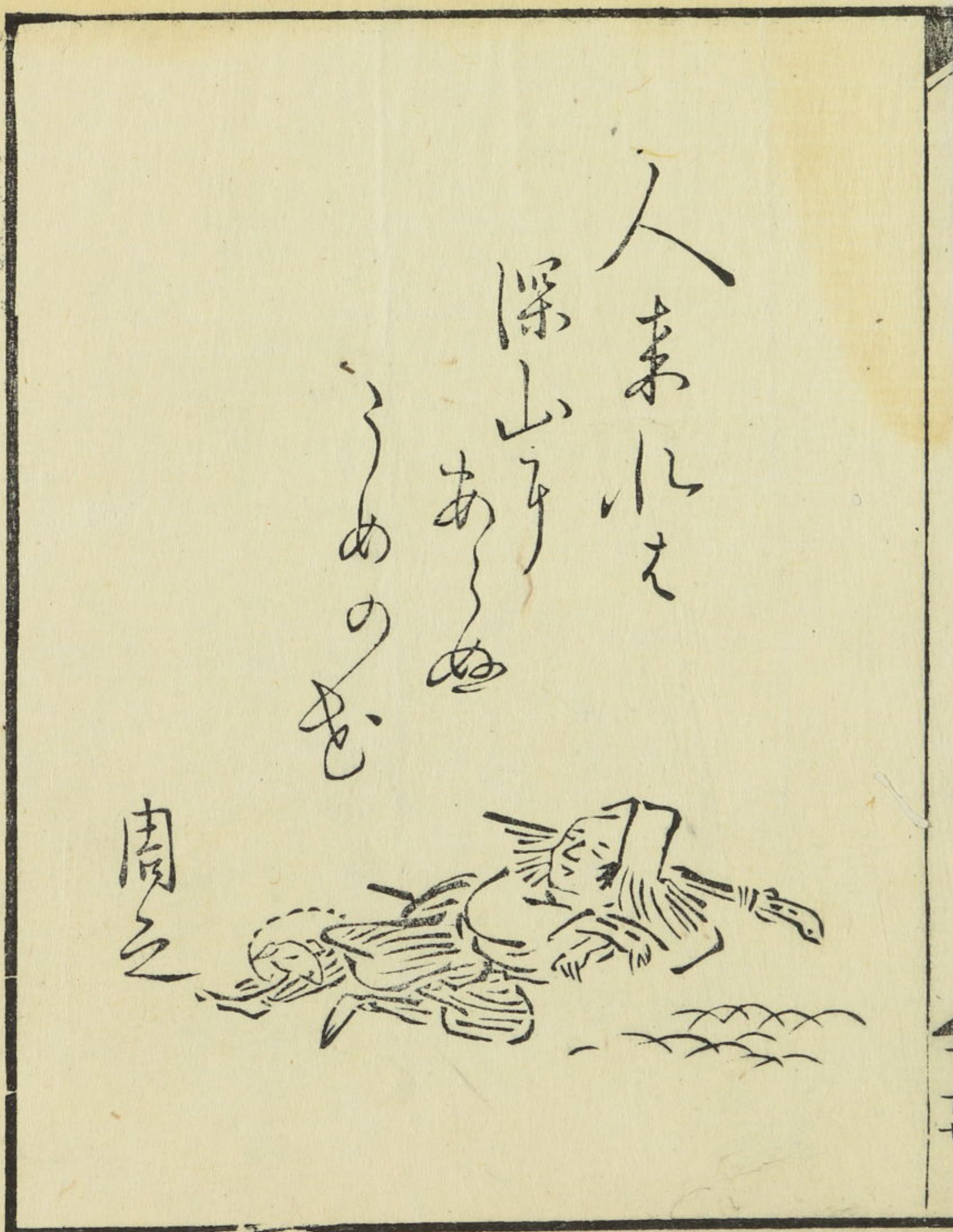
星

深指心

いん

江月菴

金世牙



人來水

深山

あゝ

いん

周

下七

二首 男 何處子
遊 ン ン ン ン 海 其雁

三五 東 遠 光

名の月此雪と云 揮也 富土乃峰
十の夜 曇 天

いさよふ 志 園 の 隔 也 義 志 一
夕 二 章 空 見

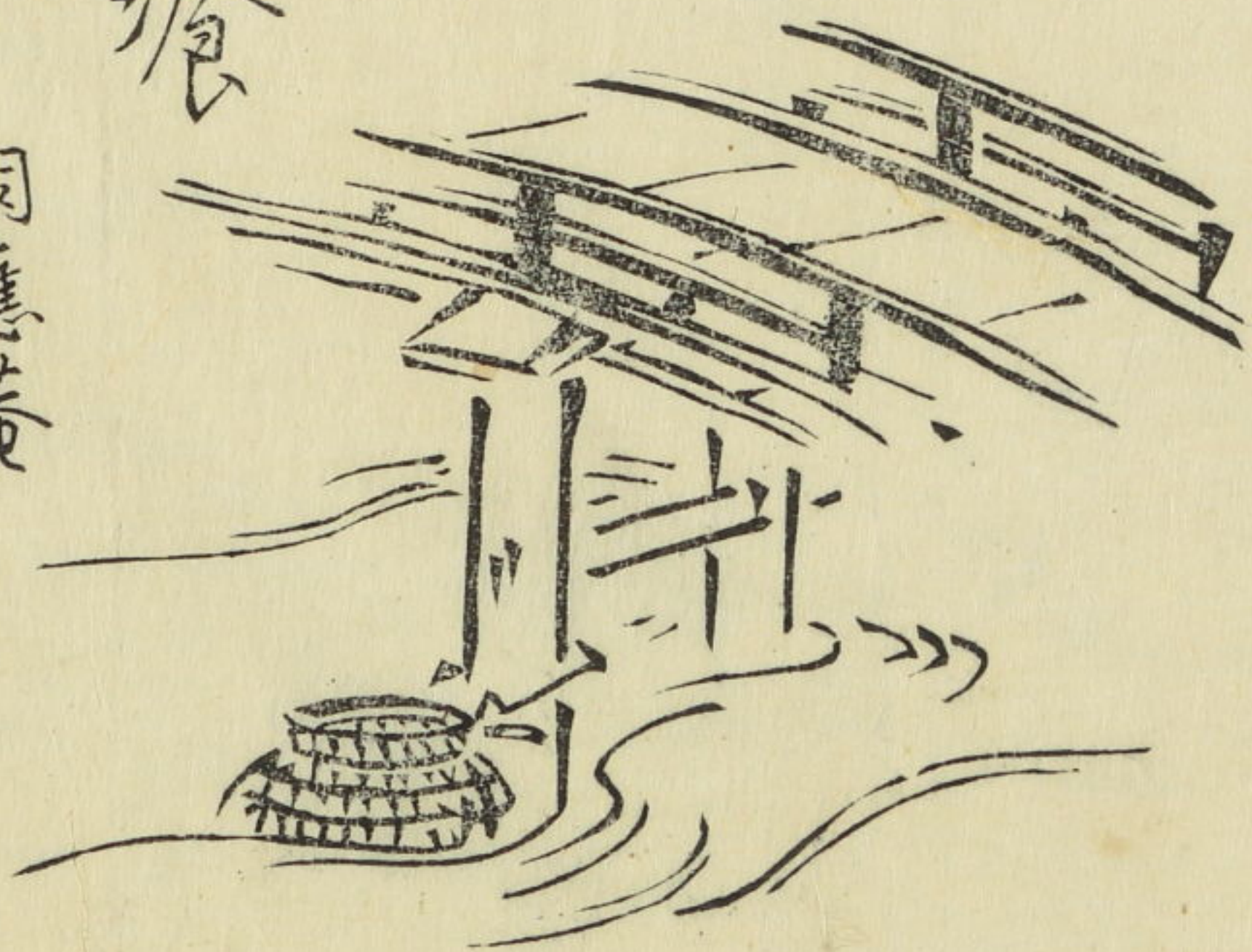
放生子

何 々

報 ン

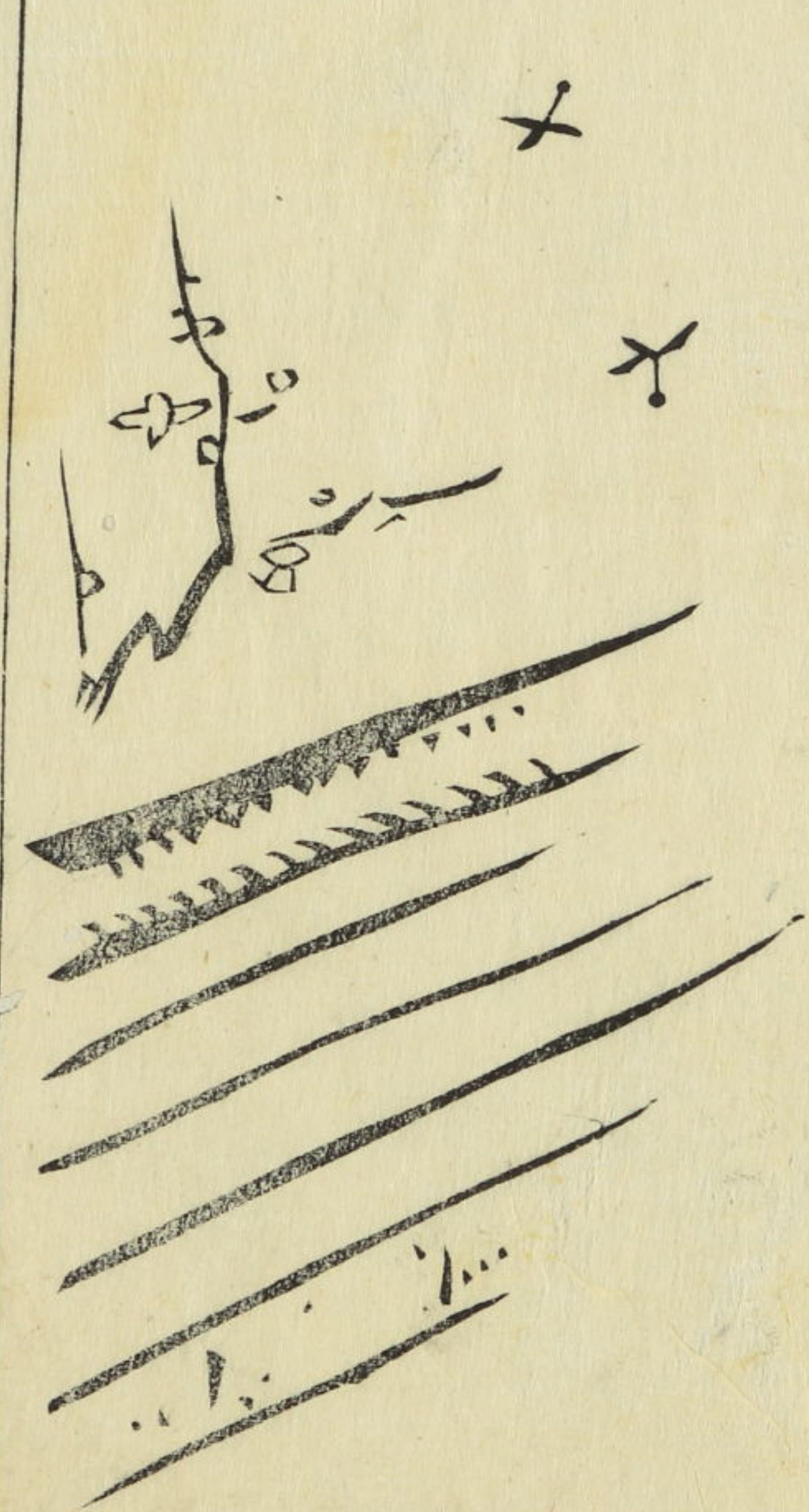
く 々 々 々

倉



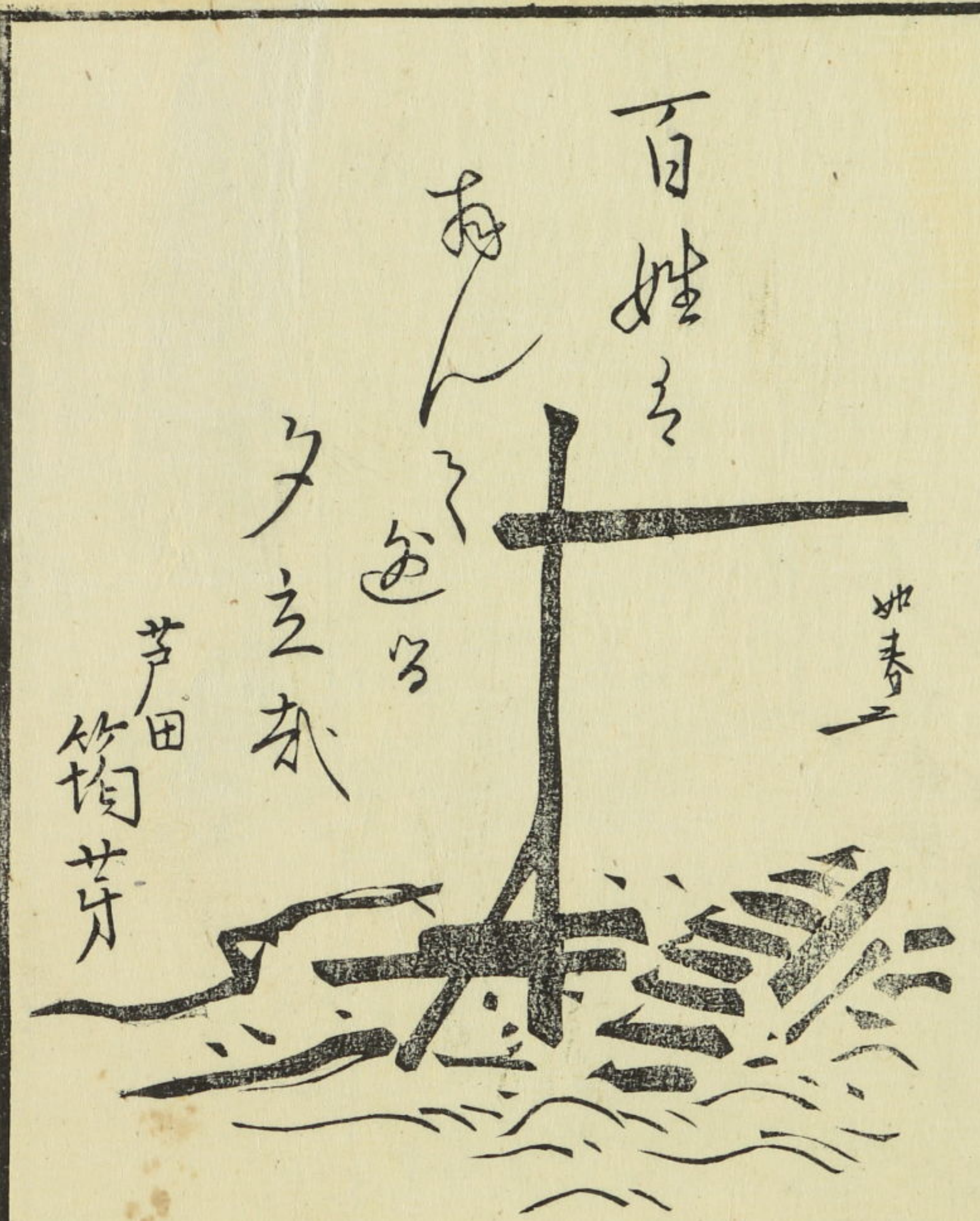
相應菴

巴 洞



や里羽子也
 紀乃有常の娘と也
 有鳳

草堂



百姓

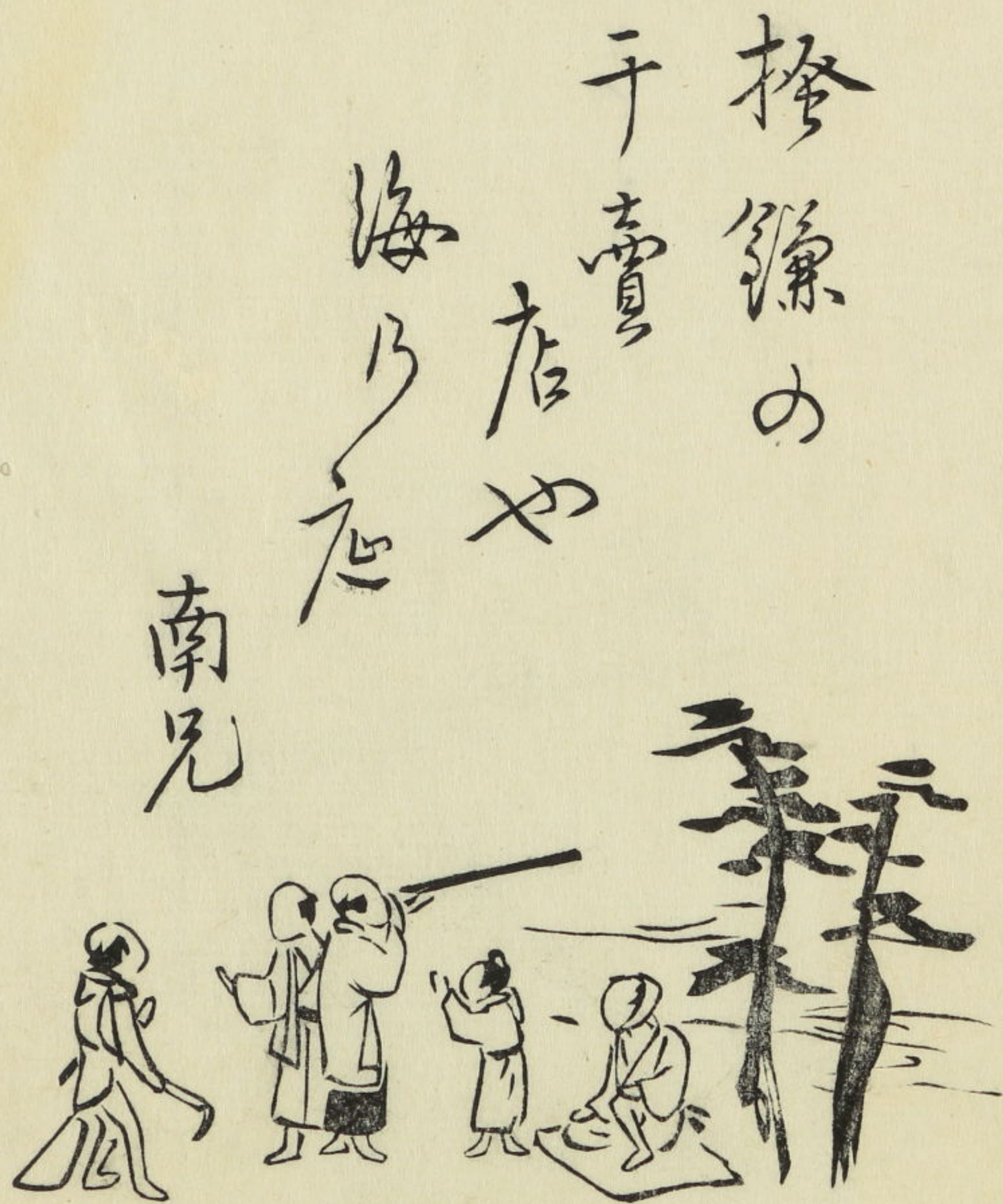
有
 舟

夕立舟

芦田
 竹垣廿

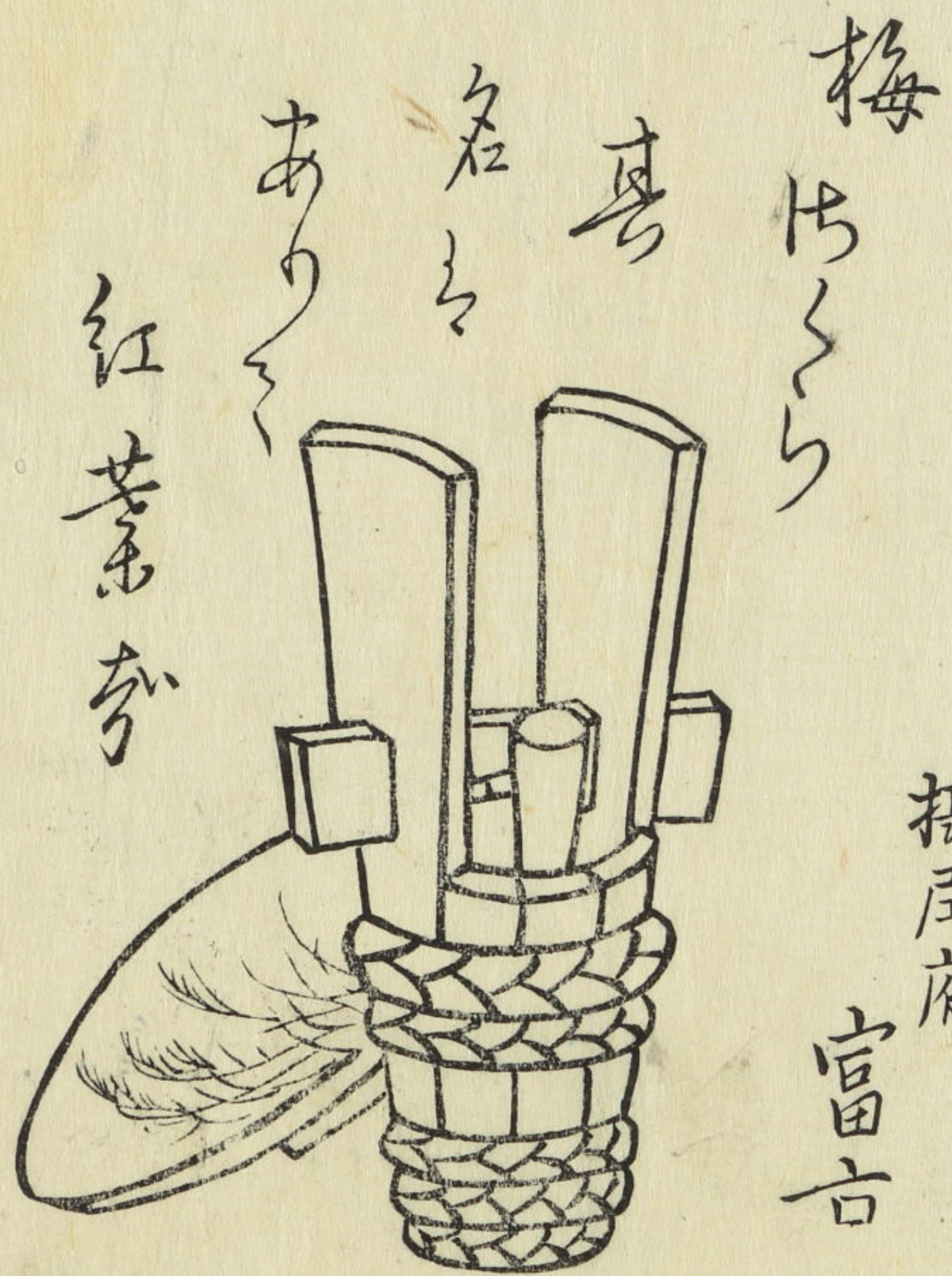
如春

九



御
 鉢
 中
 から
 む
 花
 の
 一
 ら
 紀
 部

春
 要
 齋
 對
 山



梅
はくら

喜

名
々

あり

紅
茶
壺

攝
庄
府

富
古



承
き
日
也

承
斎

ワ
シ
ル

亭

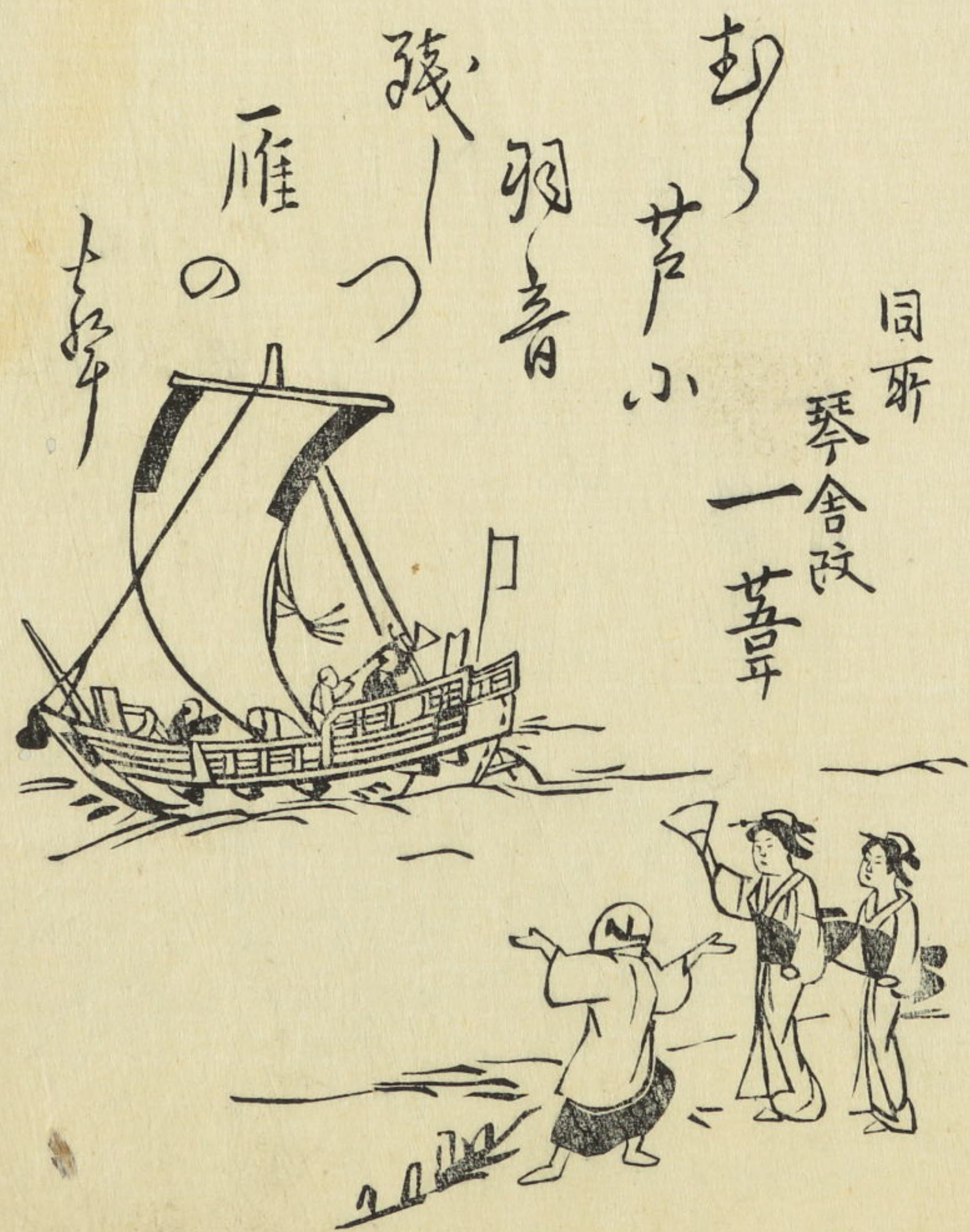
回

野
色

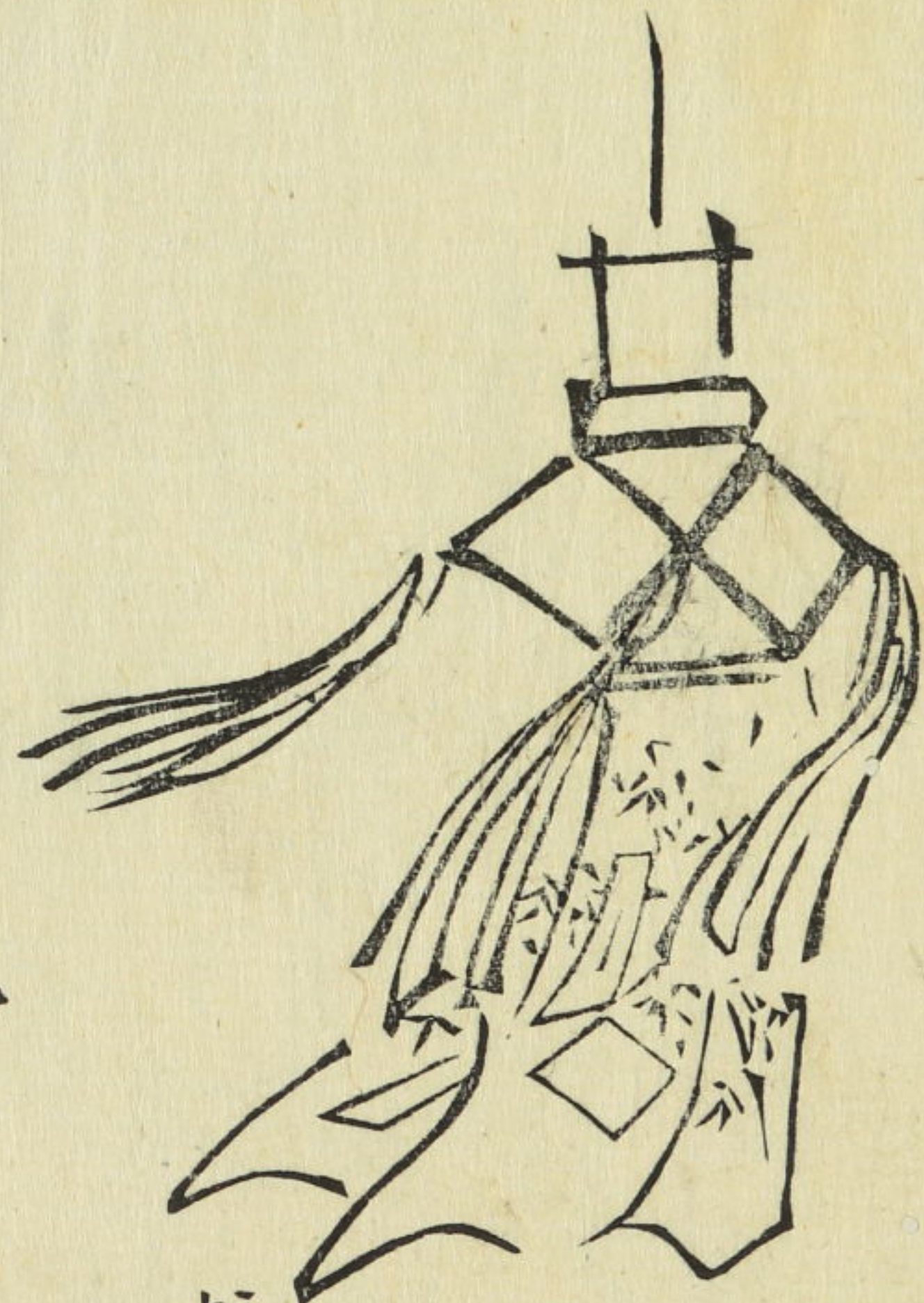
麥
甫



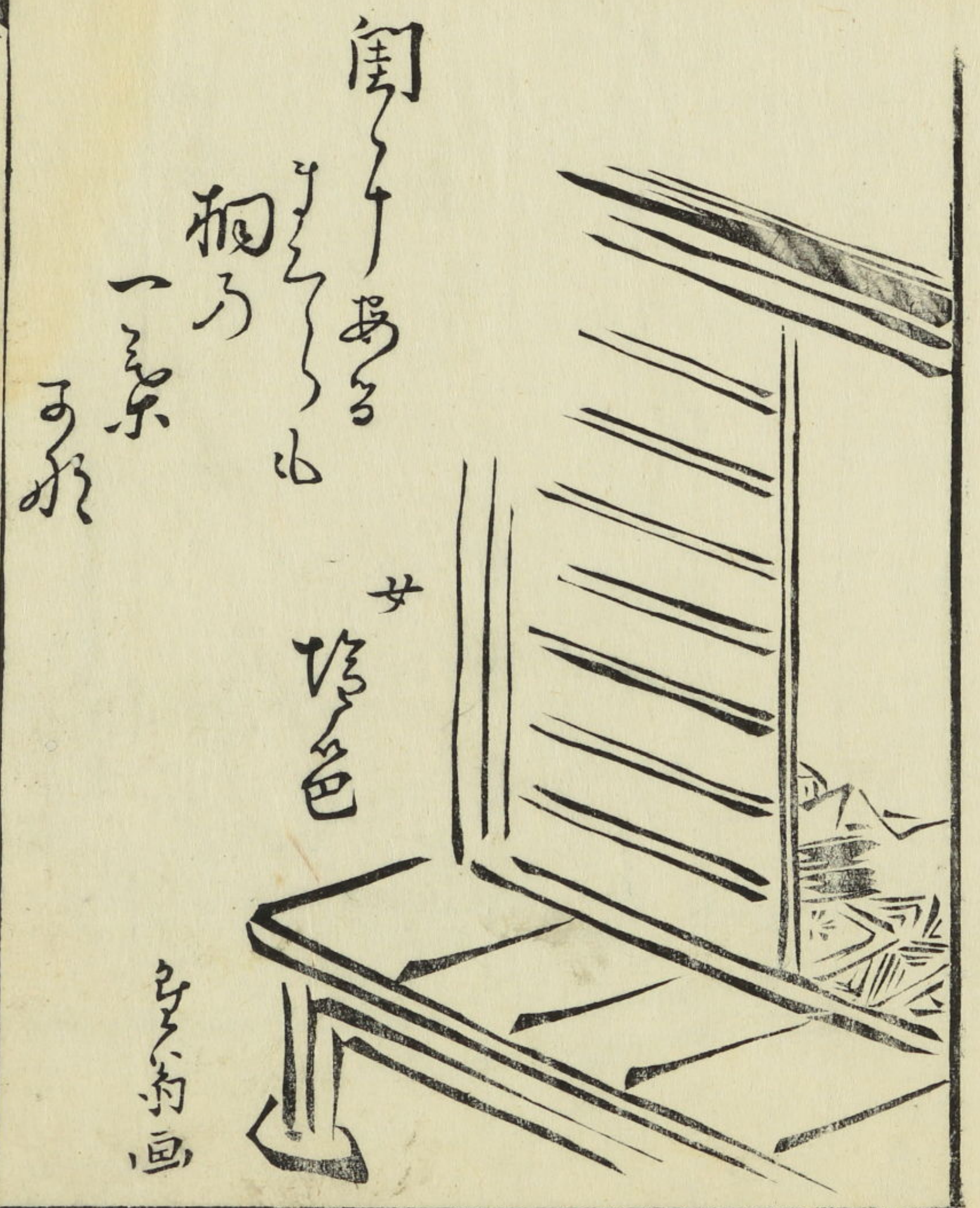
源



七夕也 接と
 中ふまろくひ



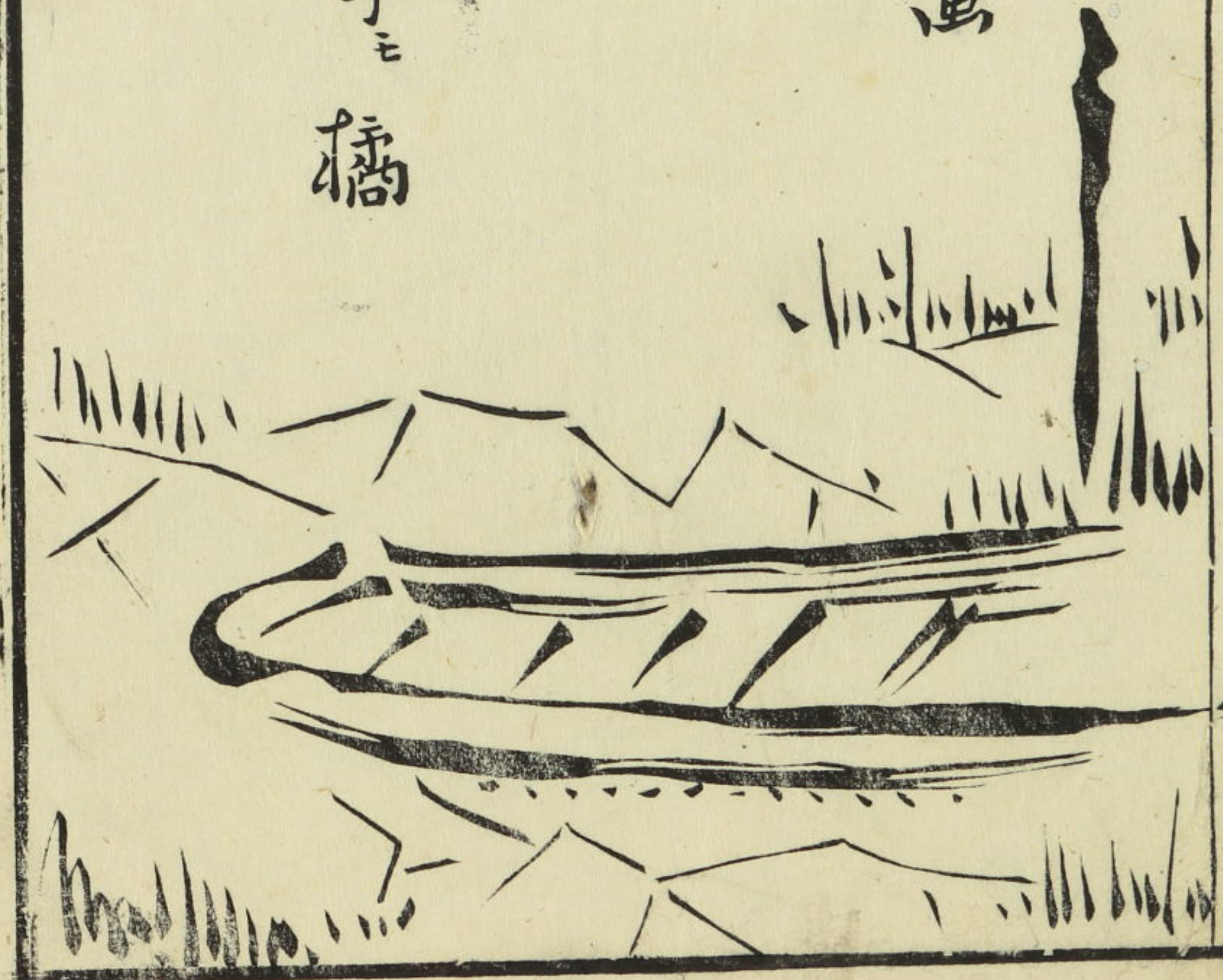
接尾層
 春嘯



法橋星翁自画

年三

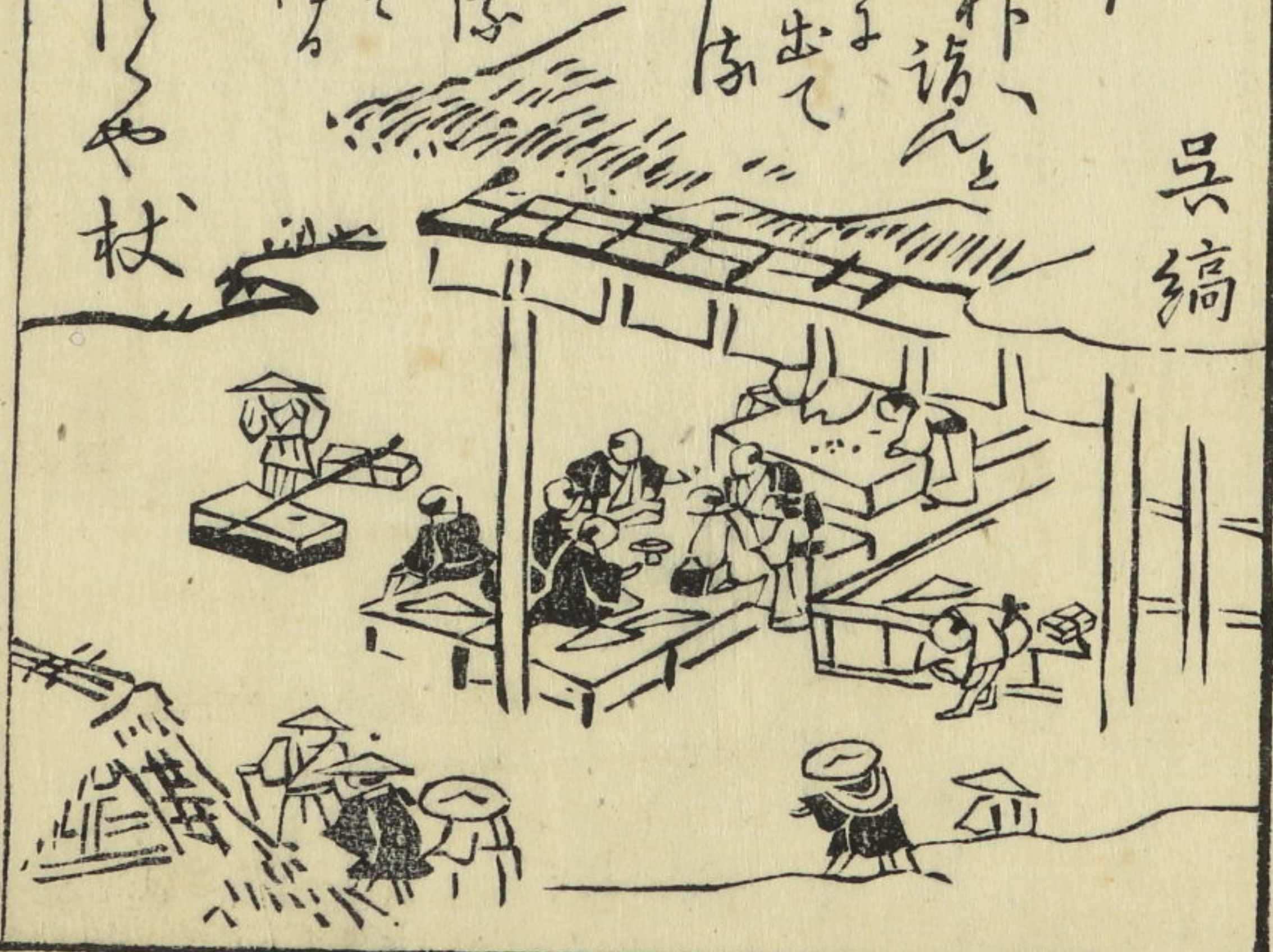
江北賣聲橋



伊勢路の記

吳縞

久吉の園姑杉人神へ
おろろといひの鶴鳴子
玉造とみよ屋より家
茗茶店よりりりり
東の方にあさしおは
はくおの玉を
あし子も
竹下の都路はや杖





喜丹うーいさの山は

栴檀うう

伊社に如うく

神風や方ホー家

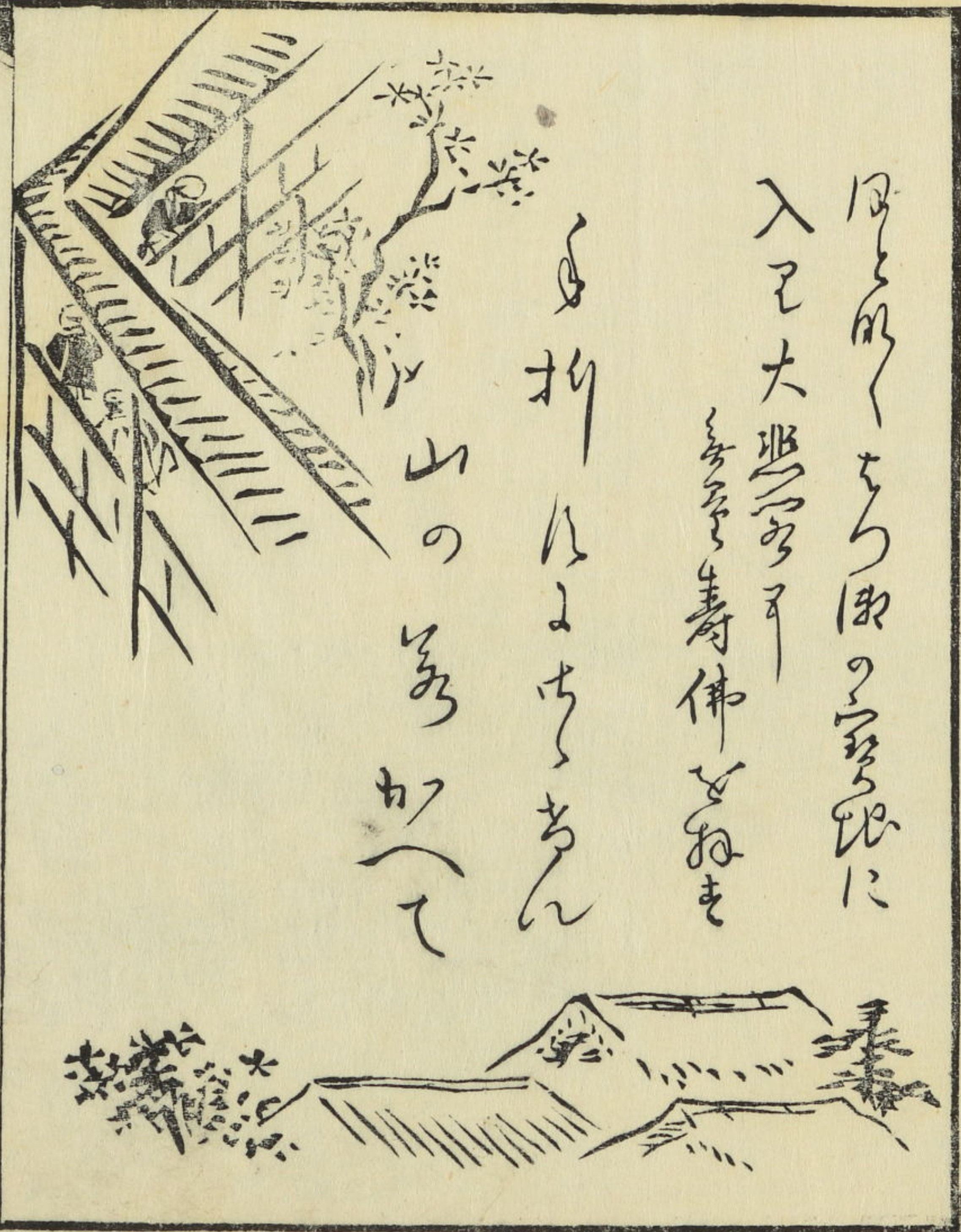
夏乃杉の契

甘りたふ言々荷一
あれハ三輪へ
たつた



行かぬと云ふ時
羊狗も神もあはれハ
ううううのまはら
想々の好い事には
甲乙もなす集るに
かたうの相も
いけいけや時節
やう一たうんき
きんじん

あうー
ううをほは部



月と明くちり湖の宮に
 入る大遊園
 多き壽佛とねま

山
 の
 名
 か
 へ
 ち
 ぢ
 り
 ち
 ん

山
 の
 名
 か
 へ
 て



三浦明神を祈るの
 水本宮を山を
 物も新
 其せぬや新橋や
 三つ鳥居

下
 三
 十
 六

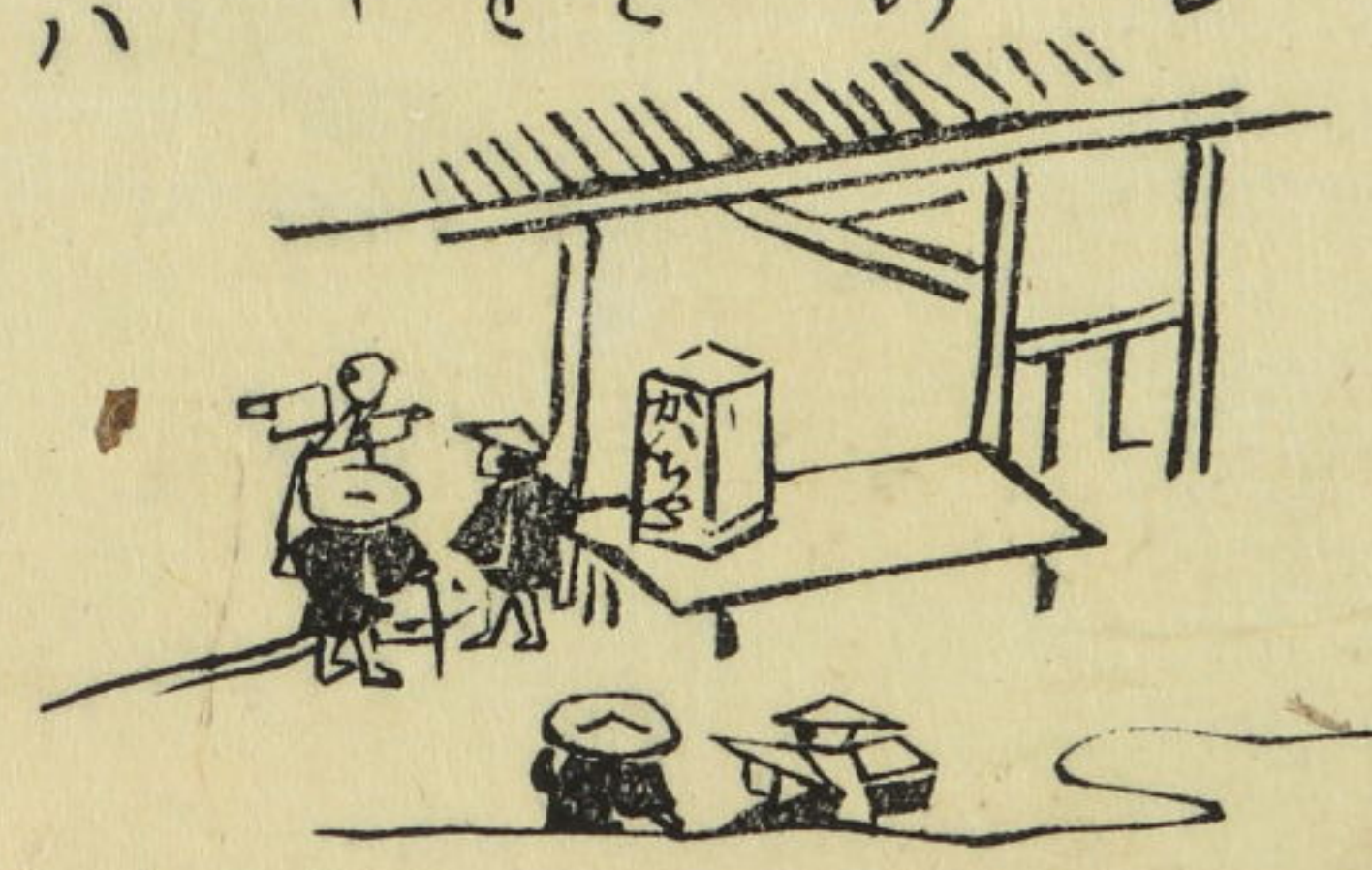


豆莢肥
肉節中
牙の感
新菜
酒

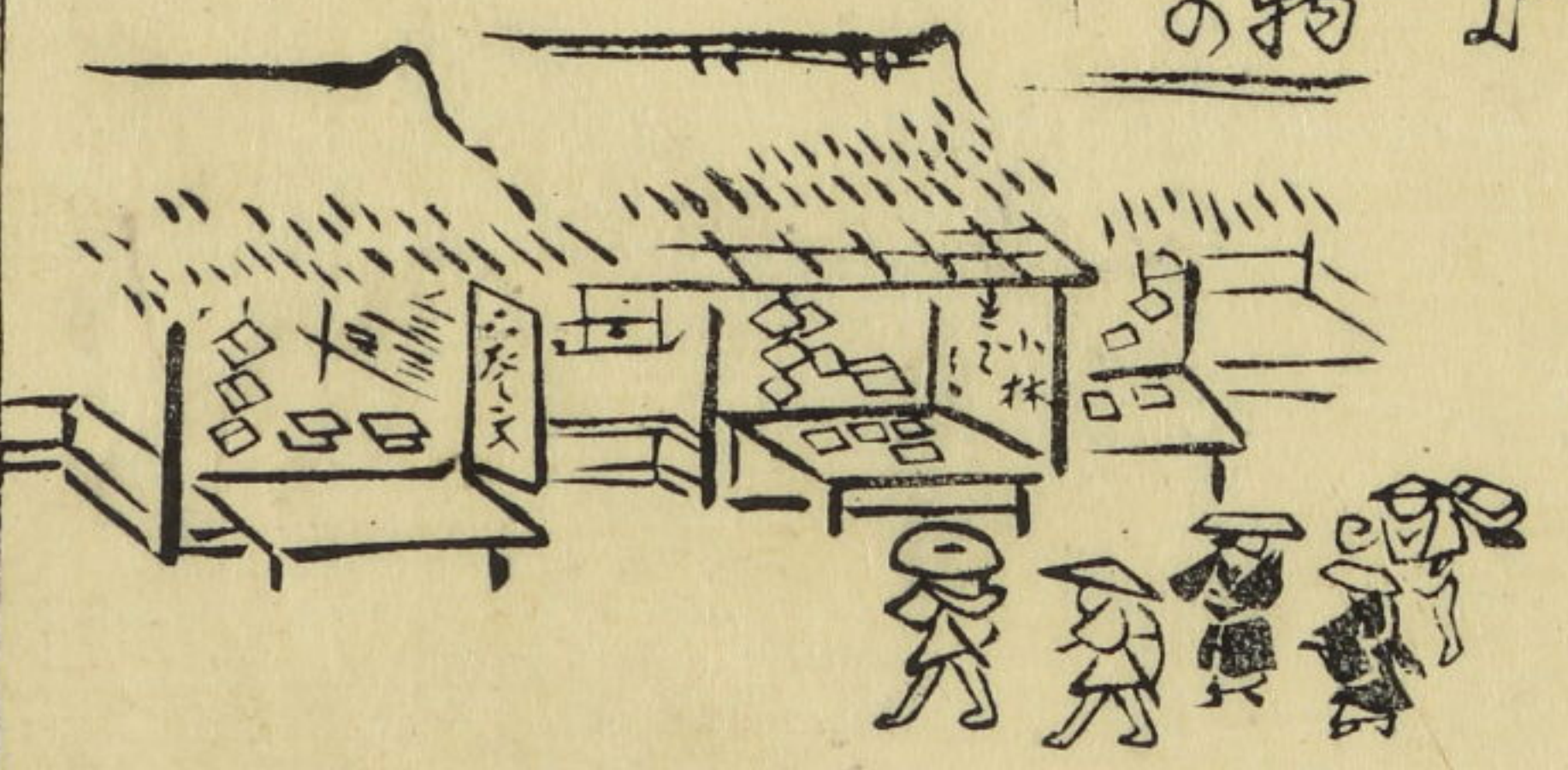


三里
阿崙山
雷福
莫嘆
積薄
酒堪
沽

山とくろり空坂をゆく新葉を
 此河内をくまふ浜田二婦の
 麗人行り姉もも姉を
 り角は舞妓の許ふり舞を
 召せハ時をくろ月を敷し
 美の終は可 ちんをの程あハ
 芝葉の緑破せし海のくこく
 穢穢中を待 脩短く度り
 うあふ昔子建と拵ちん
 せらふ



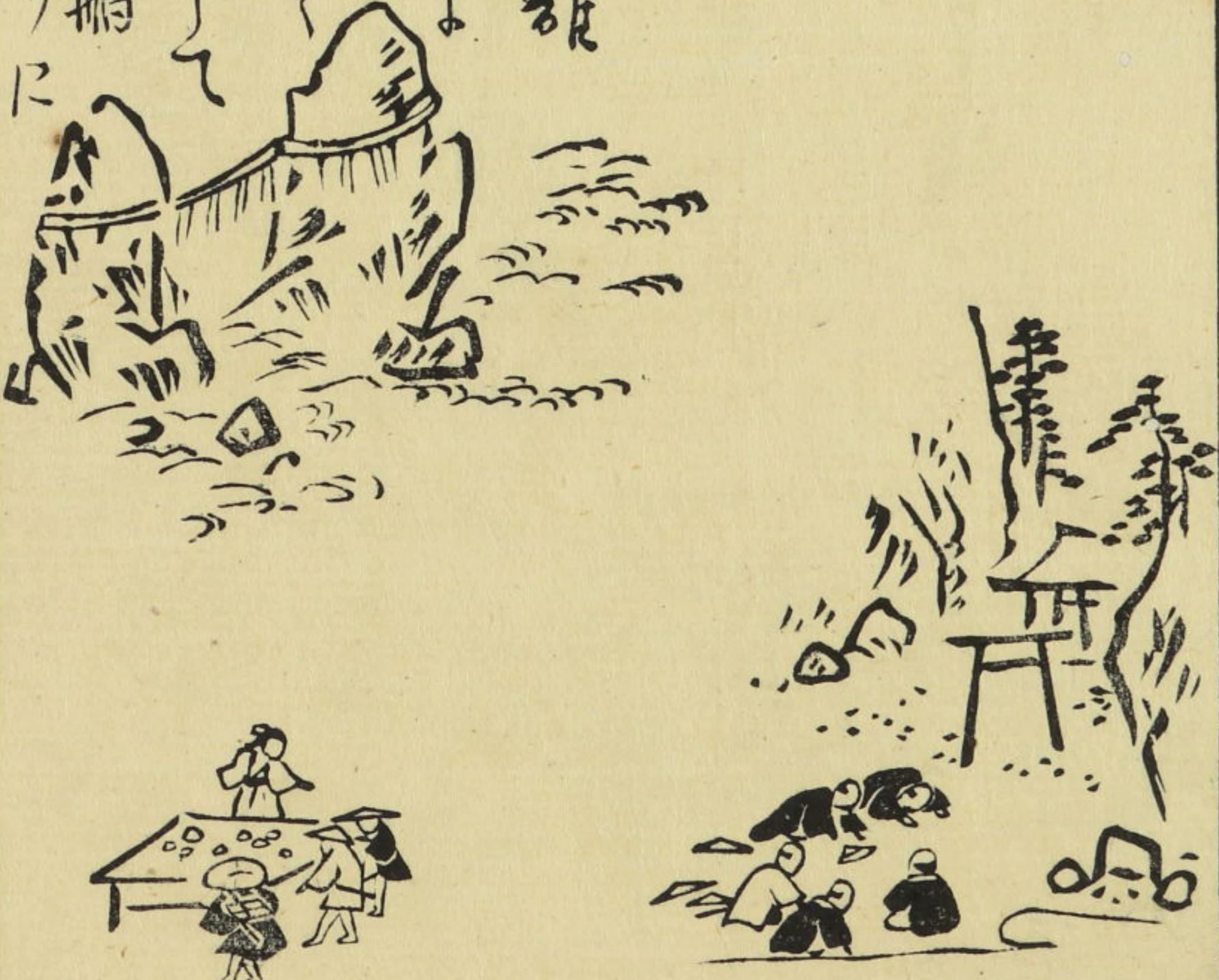
心成りやまはたのこもまを
 志うのありとも舞しは海へふ
 意欲をもんえんき 所賭物
 厚の唇にたふさしんり
 出女姑あき
 みー、あ
 山うは
 狂



帆と何くすあまの凡ゆるか
 鬼のさみりし
 おもがらぬ柁神のほまや
 福井代のちり子母を
 杯を引て好刻よ
 松より河上張橋の
 誰やう常子か
 月ついで若々



おま言川も垢歌
 二見乃浦よ
 出家系里
 洪波切やふ
 くらや川の雪船に
 休休休



下井九



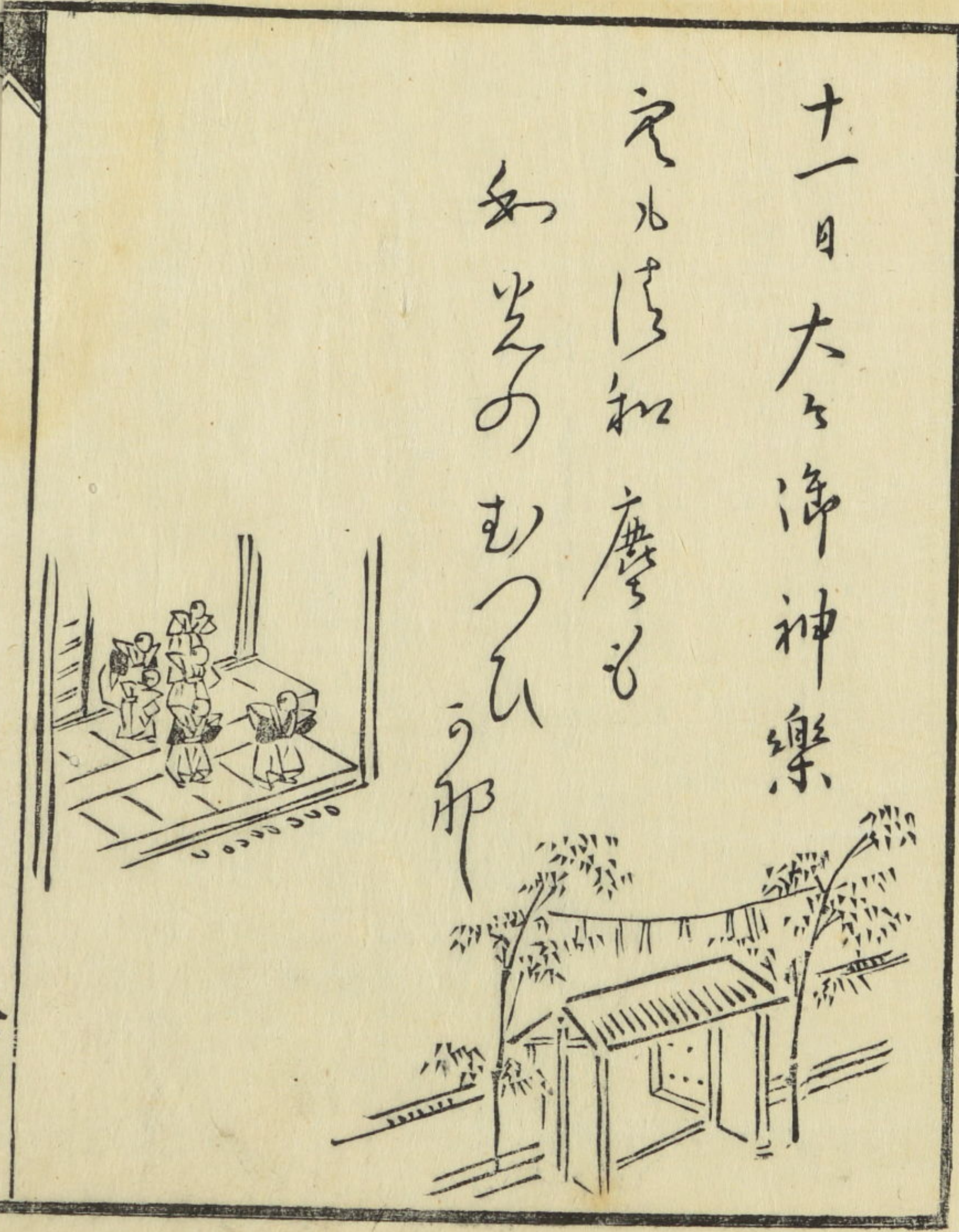
内外の御社よ
 千々
 祈る百祥

まはりて

雨の

まはりて

夏は

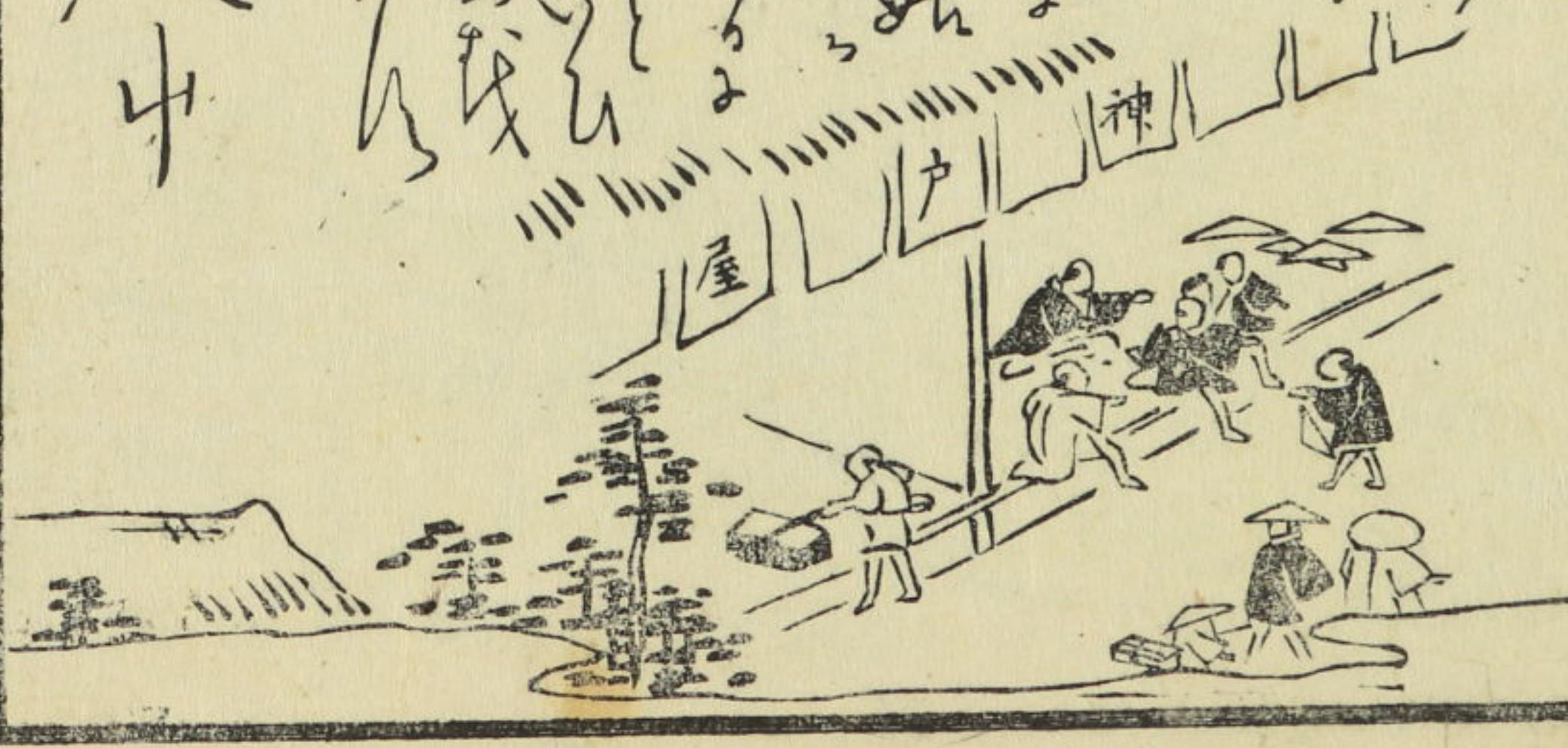


十一月大々神樂

元九は和麿も

如光のむつと
 う那

帰路に心ゆくまで行くと、高尾山
 明神へ参詣せしむ。あれ、津守
 津守殿も、身をたてし極治所
 あり、に思ふも、遠くより、
 万々、回つて、なつて、
 瘡を瘡、此活物、
 四輪、旅の憂、
 笑つて、
 云り、あ、
 人、中



け日、く、
 道て、
 古松千株、
 身、
 カワ、
 雲、
 かし、
 鳥



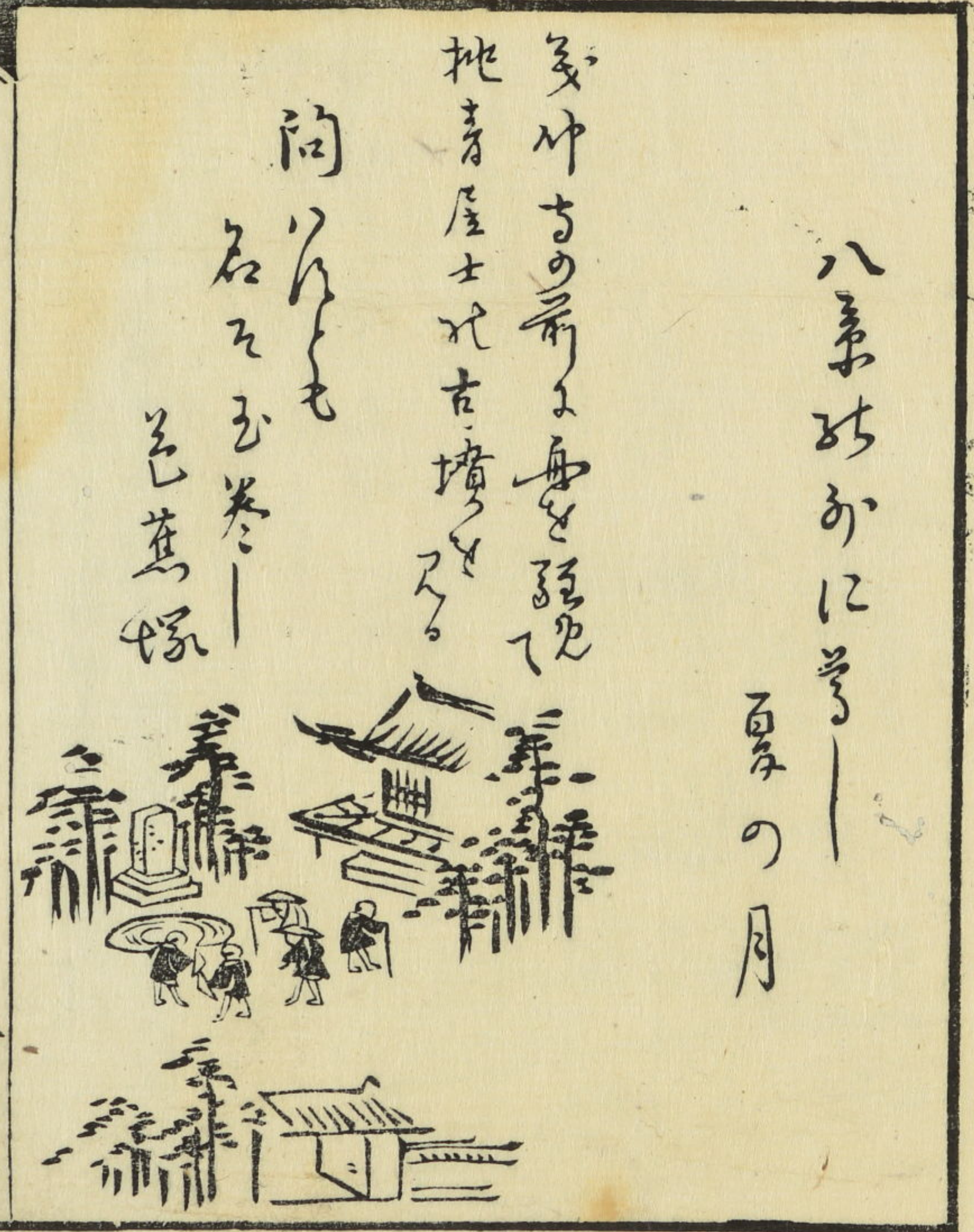


美はふちのき田舎にゆり
 野政村せきり玉川を
 舟のりささり玉川の
 湖の眺め
 西山の峰を家業揃に
 舟のりささり玉川の
 湖の眺め
 舟のりささり玉川の
 湖の眺め

下野

八景かにかき

夏の月



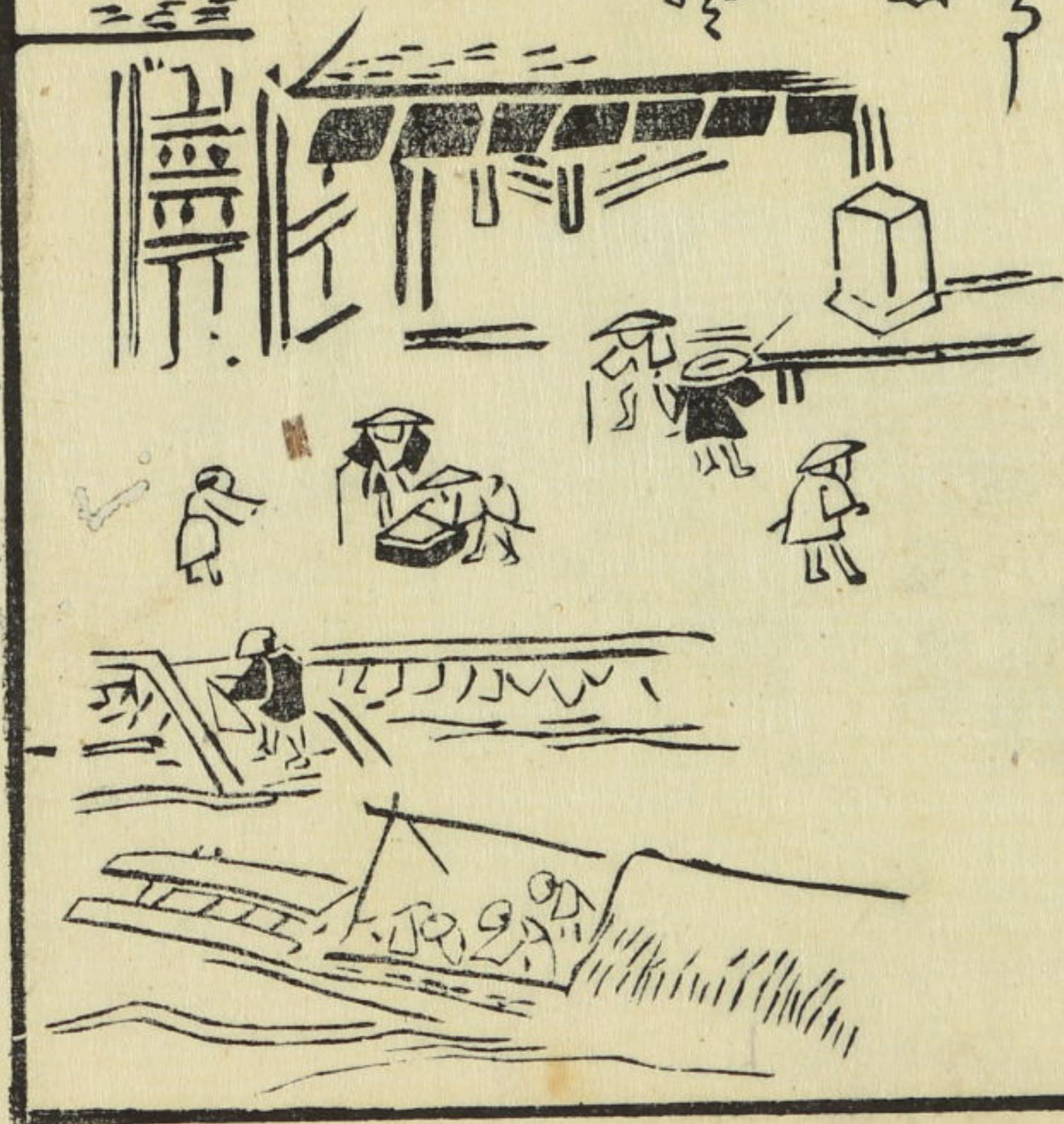
多竹方の前を舟を
 桃青屋士れ古堵
 向
 名を玉巻
 色蕉塚

國緯亭より夜更しく舟をこぎぬるあり
 家より一軒あり湖とわきまぬ舟の
 舟一とくよりきて舟をこぎぬる者あり
 暁の中より舟をこぎぬる者あり
 浪をたぐふ舟あり

風をこぎぬる舟あり

さくさくの舟あり

安永三歳甲午
 夏及中院吉祥日



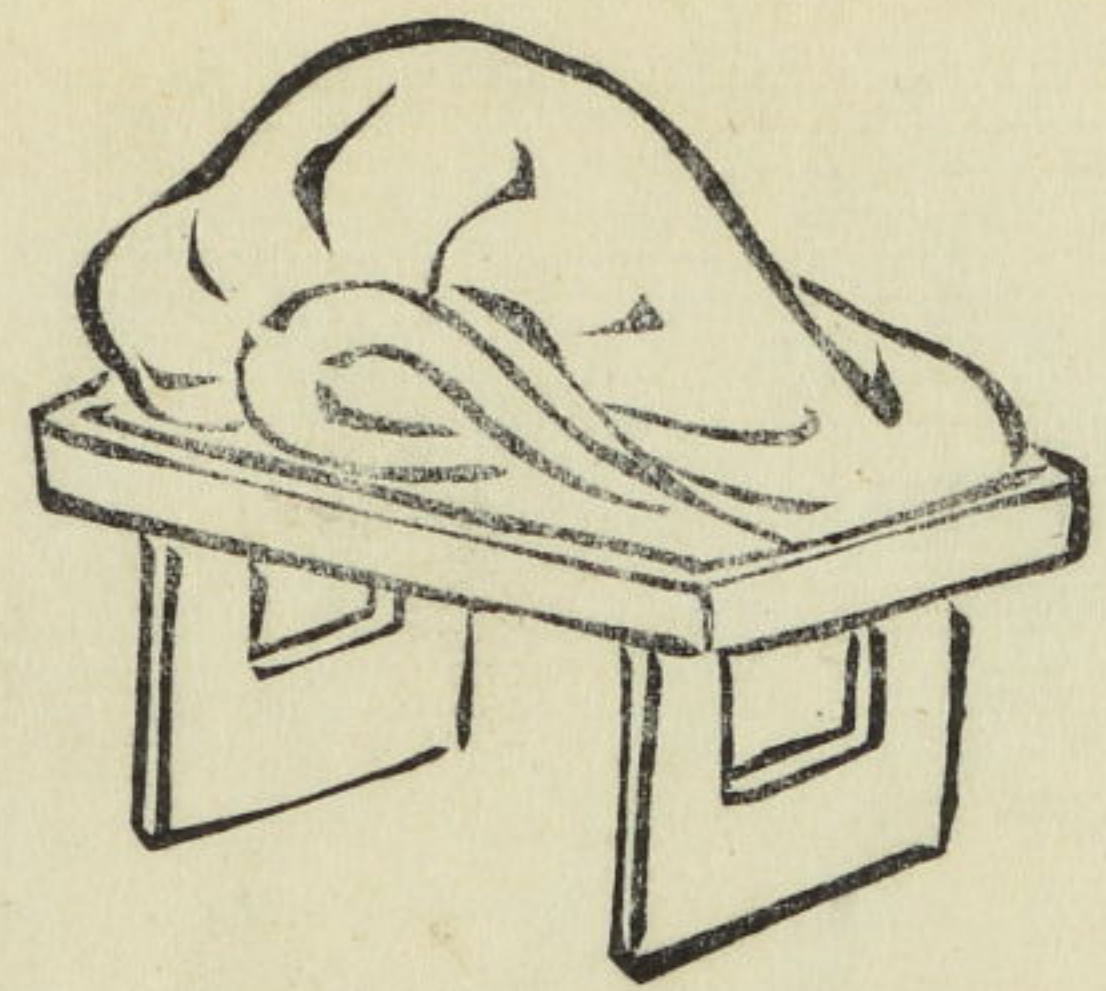
古稀賀

津の國々村

引替や

子代乃友

帰厚堂



七十賀

此翁



勝也

為平白富

全

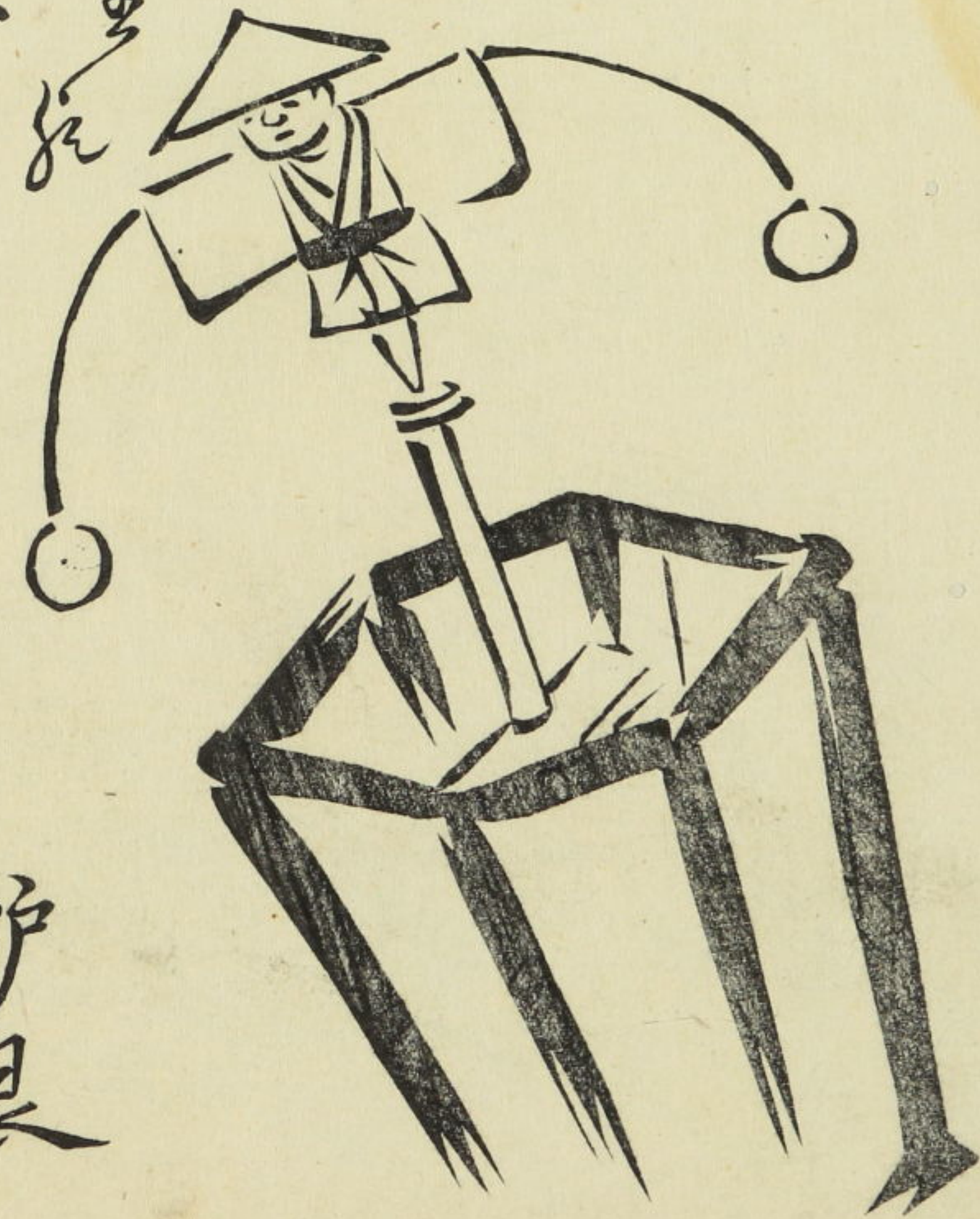
下四十五

日の

神也

崇里

人
走
去
以
裸



炉良

下四十五

雲助説

勃々菴

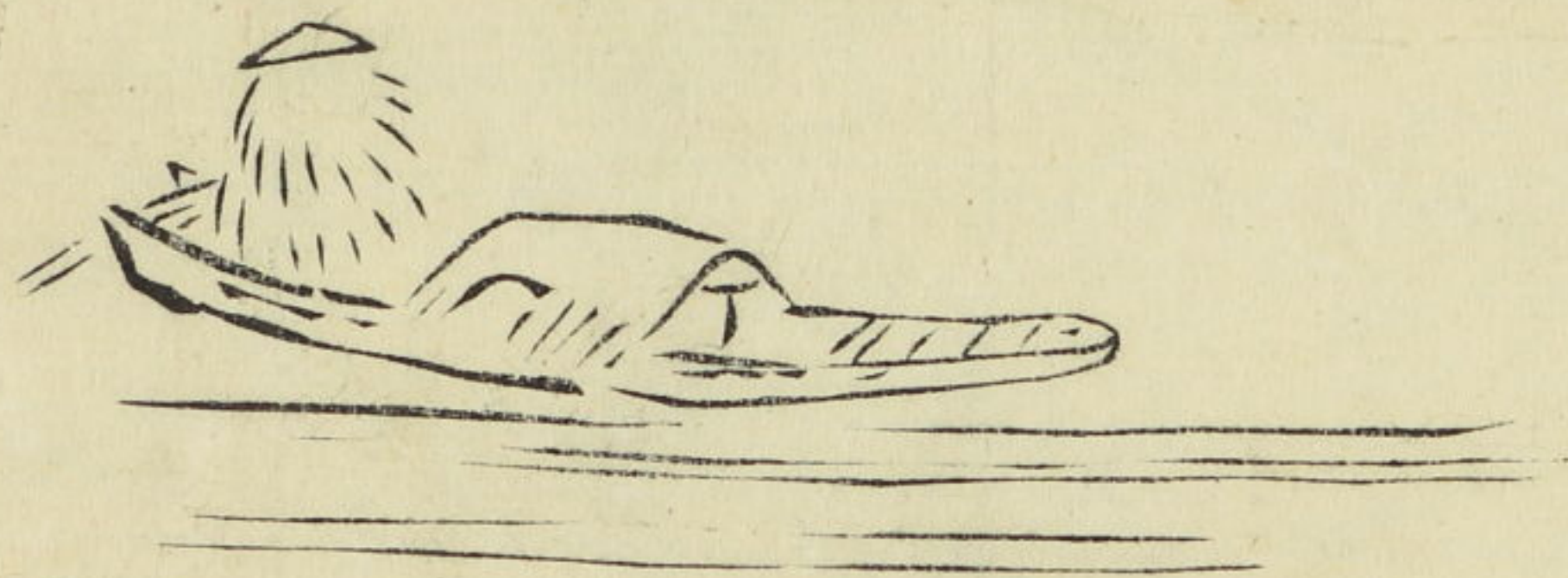
漂々きり有ふ一河くさり間の宿樹下此
年膳濃やうま玄おの多裸はやむやの
鬼一口の玉餅息解此一杯酒ソク
カレソリ夜酌ニタコロリの座下とて
系人とたやとを編む以て終成とて
相持中とてさる事おこし一忍納く
時くたりとて事おこし一忍納く
や一カカ名集々一世の甚ちる何と謂川原
流を風靡の也風靡を流乃多ふ一その中
能花とやと一物おこし終く
浦山一うくさる

川はらハ

とらえり海

極の南

甘風白画

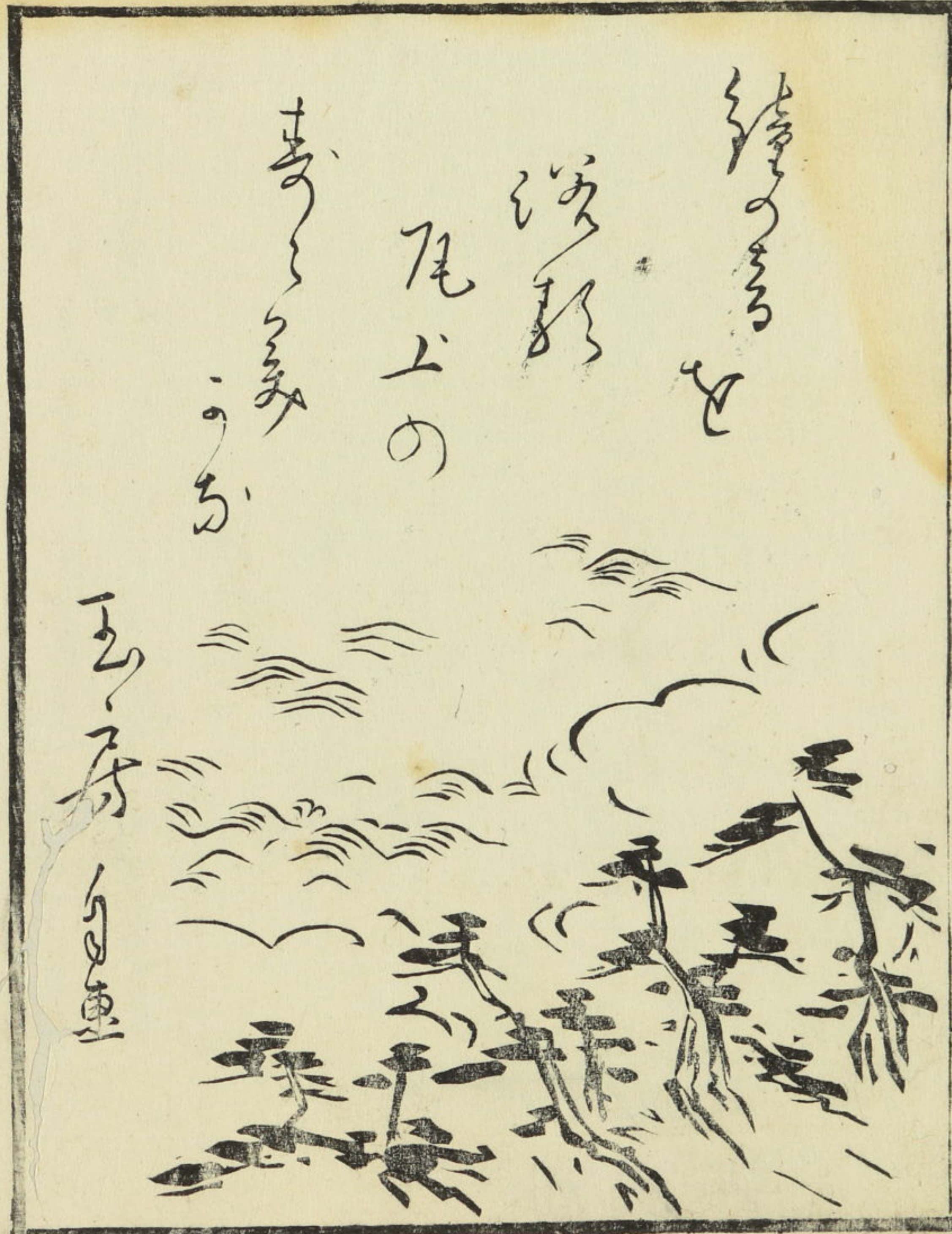


舊橋跨澗五雲新
 元是通天聖一禪
 藍水奪霞流雜彩
 丹山映日勢如然
 橫雲閣道豁千仞
 苦景領頽詩雨驟
 此地壯遊何可玩
 半醒半醉欠簫絃

遊惠日山通天橋
楓林

玉房

中



玉房
白蓮

清のまろ
 と
 海影
 瓦上の
 春のまろ
 のか



樹

奥

涌

流

河

放

生

會

素

魚

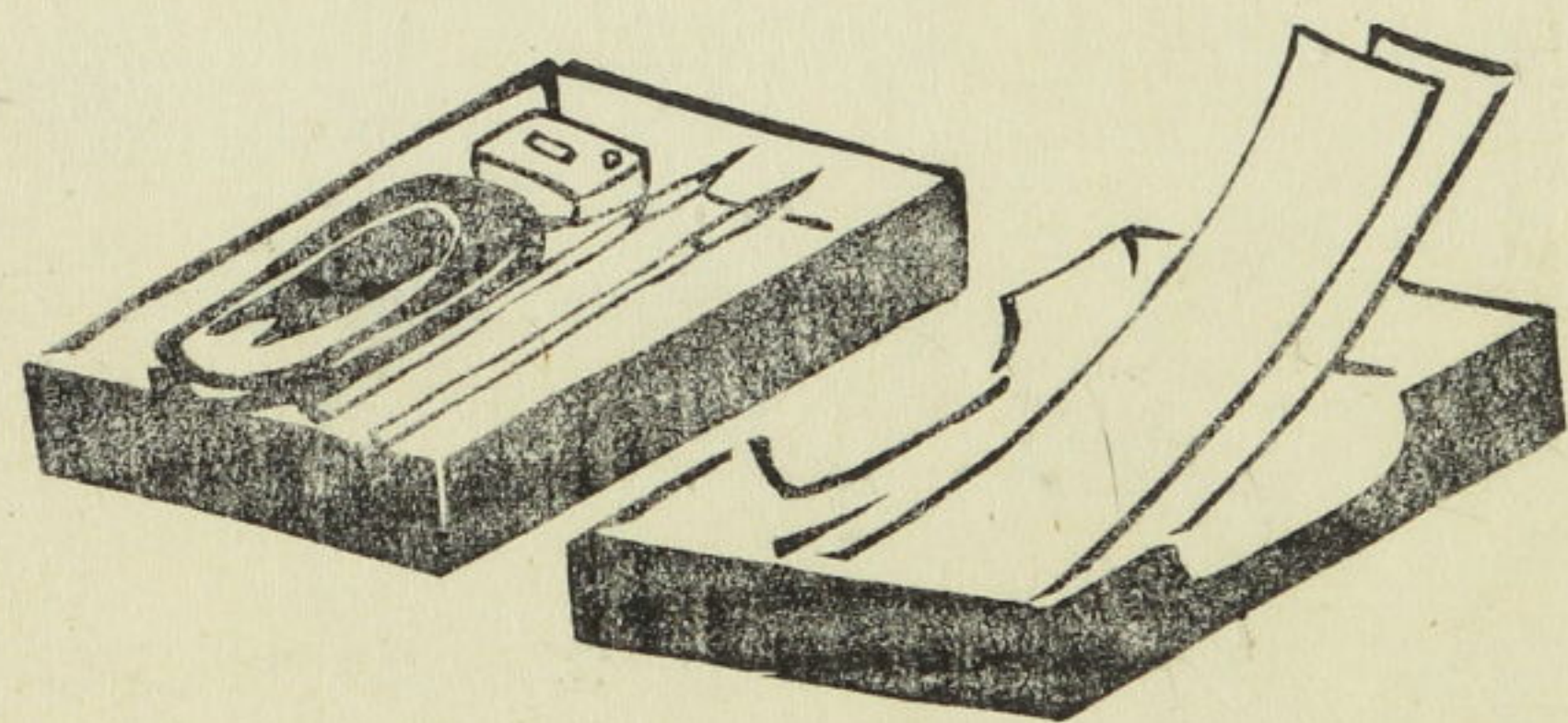
四
乙
方
々

入
り
の

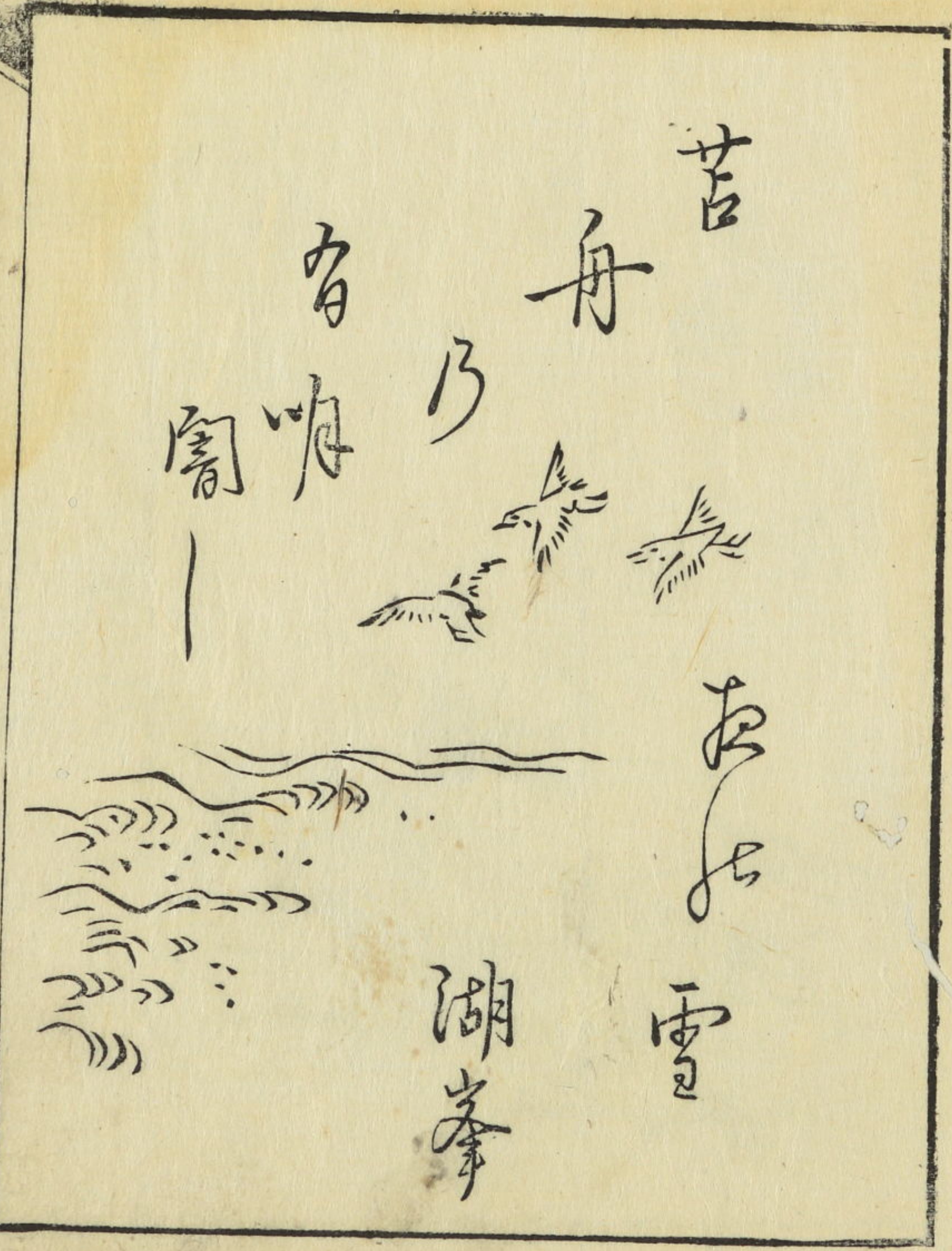
一
生
の

山
々
々
々
々

子
羊



下
四
十
八





三茅野亭

子厚子

相乃

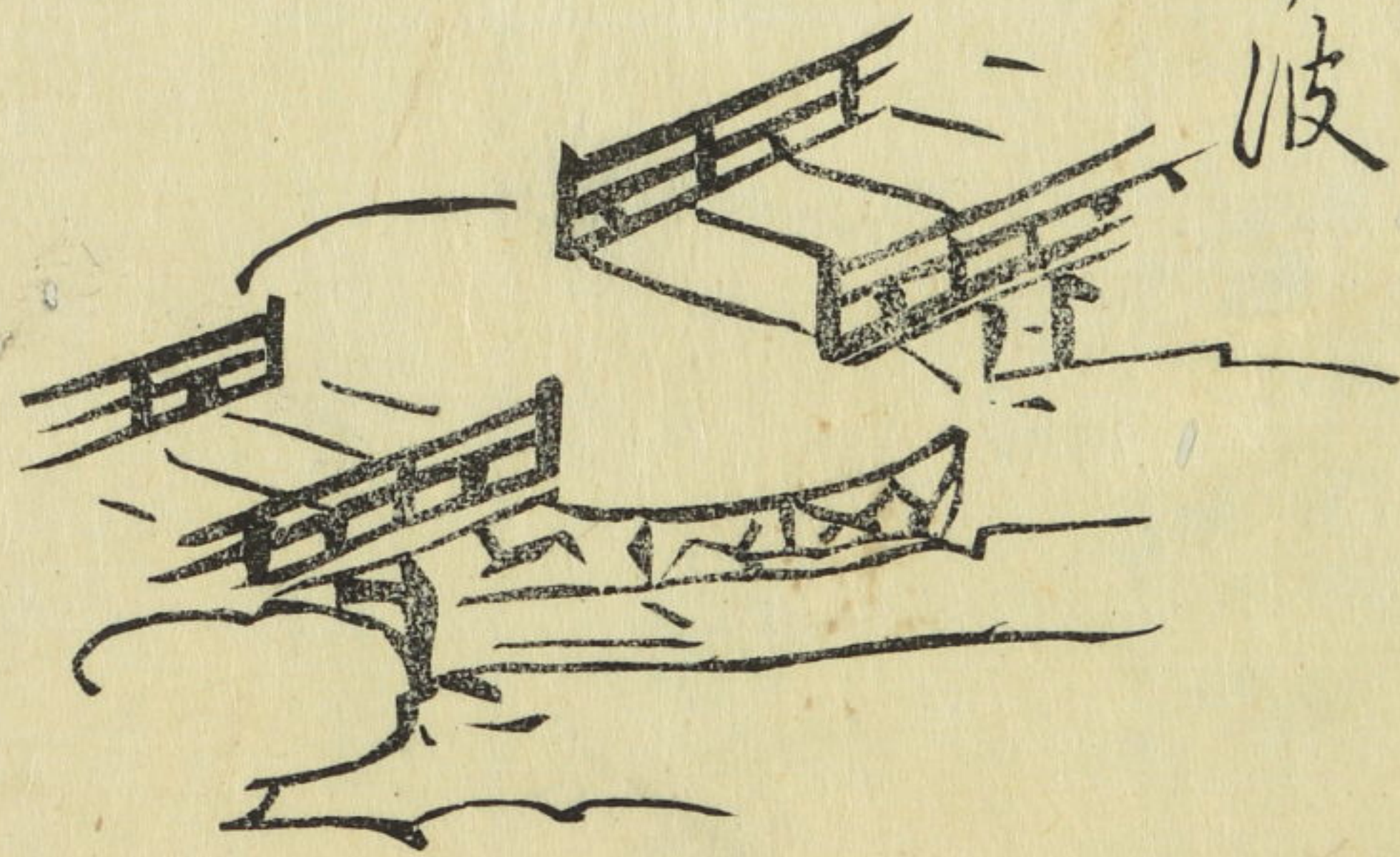
雪齋

子厚

鳴雪相

火
 火
 綠
 中
 新

南波



五

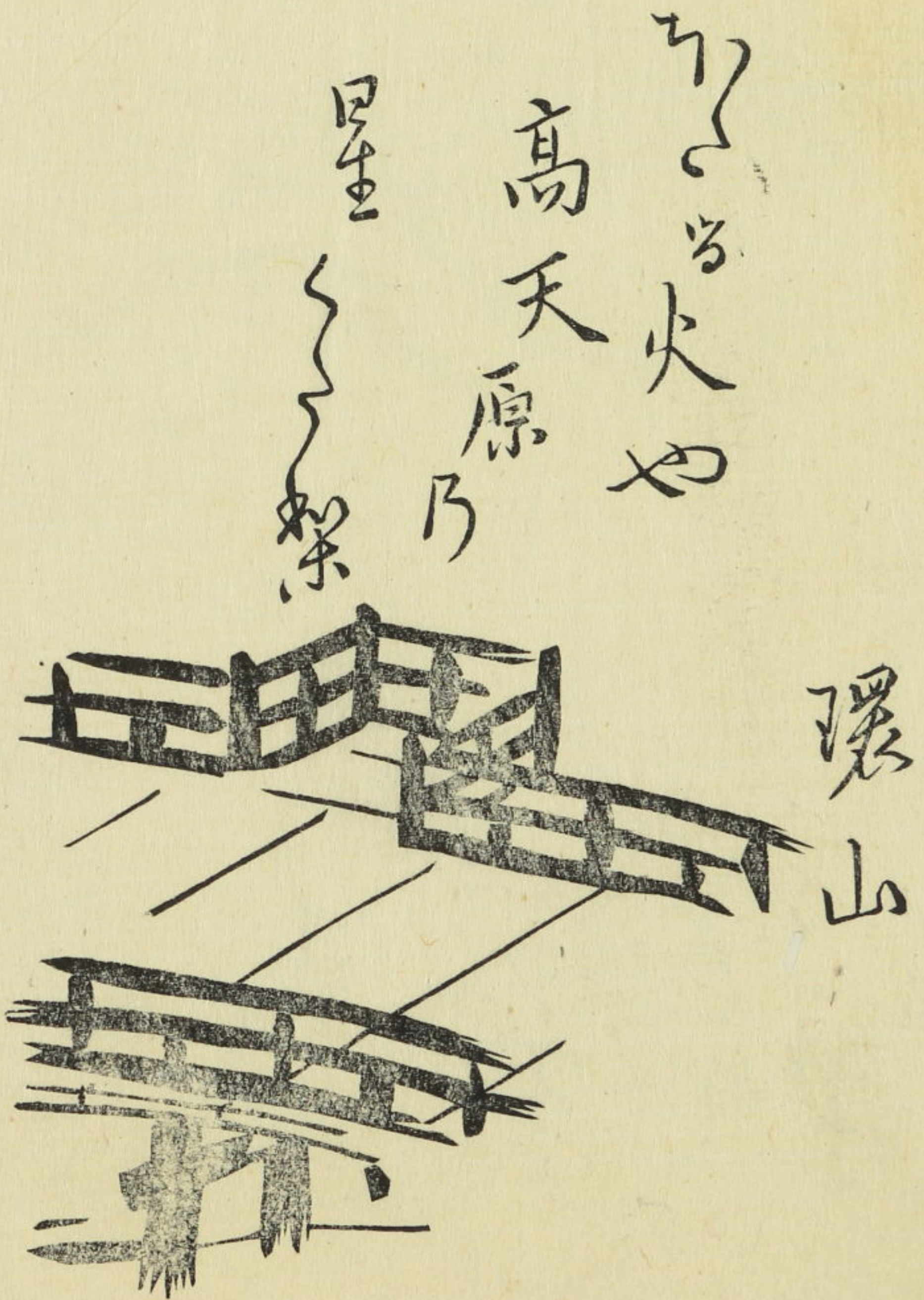


其子象也雪
 見ん女乃

五臣
 燧

方兄

五
 十
 年



高天原乃
 星
 火也

環山

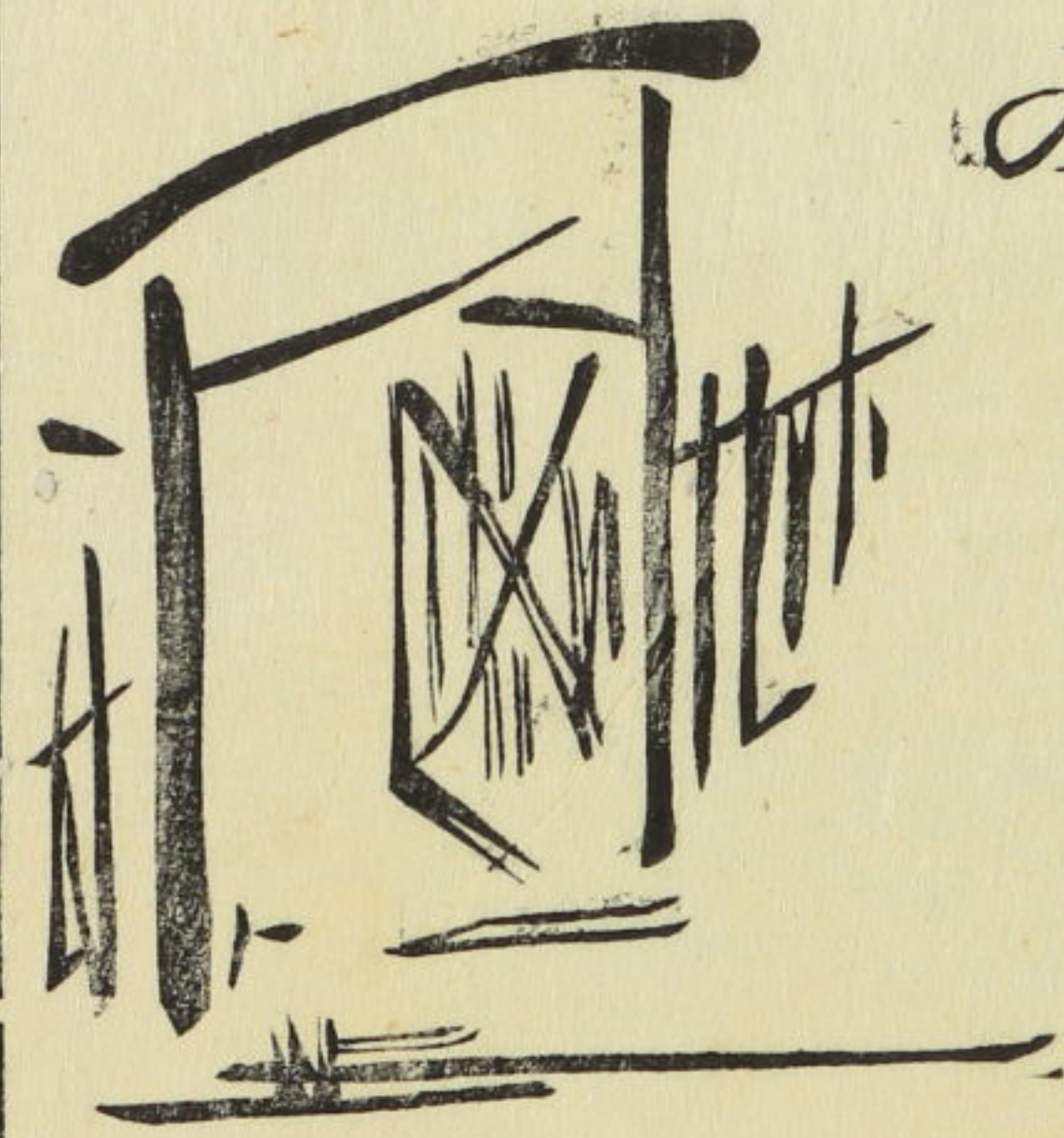
五
 十
 年

菅之丞 季雄

鹿子

毘菟の

一
流
系



画友之志

おまは

錦乃

字心

吉



鳥角

附
金爾



月夜の
跡乃瓦
空
月下庵

附金爾

附金爾

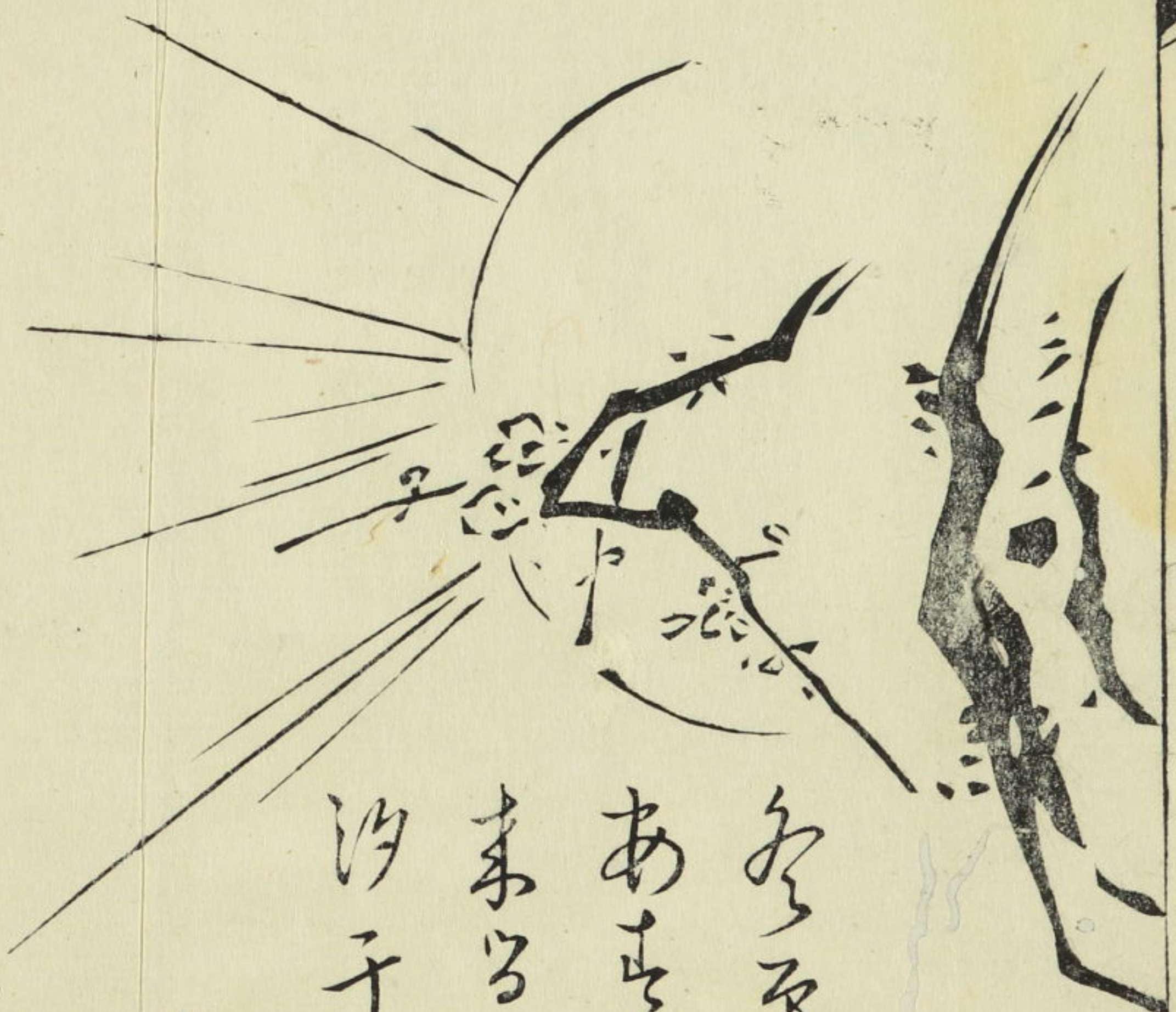


餘の多き余乃樹子 舟船

よまの終人あは 兼

長生館

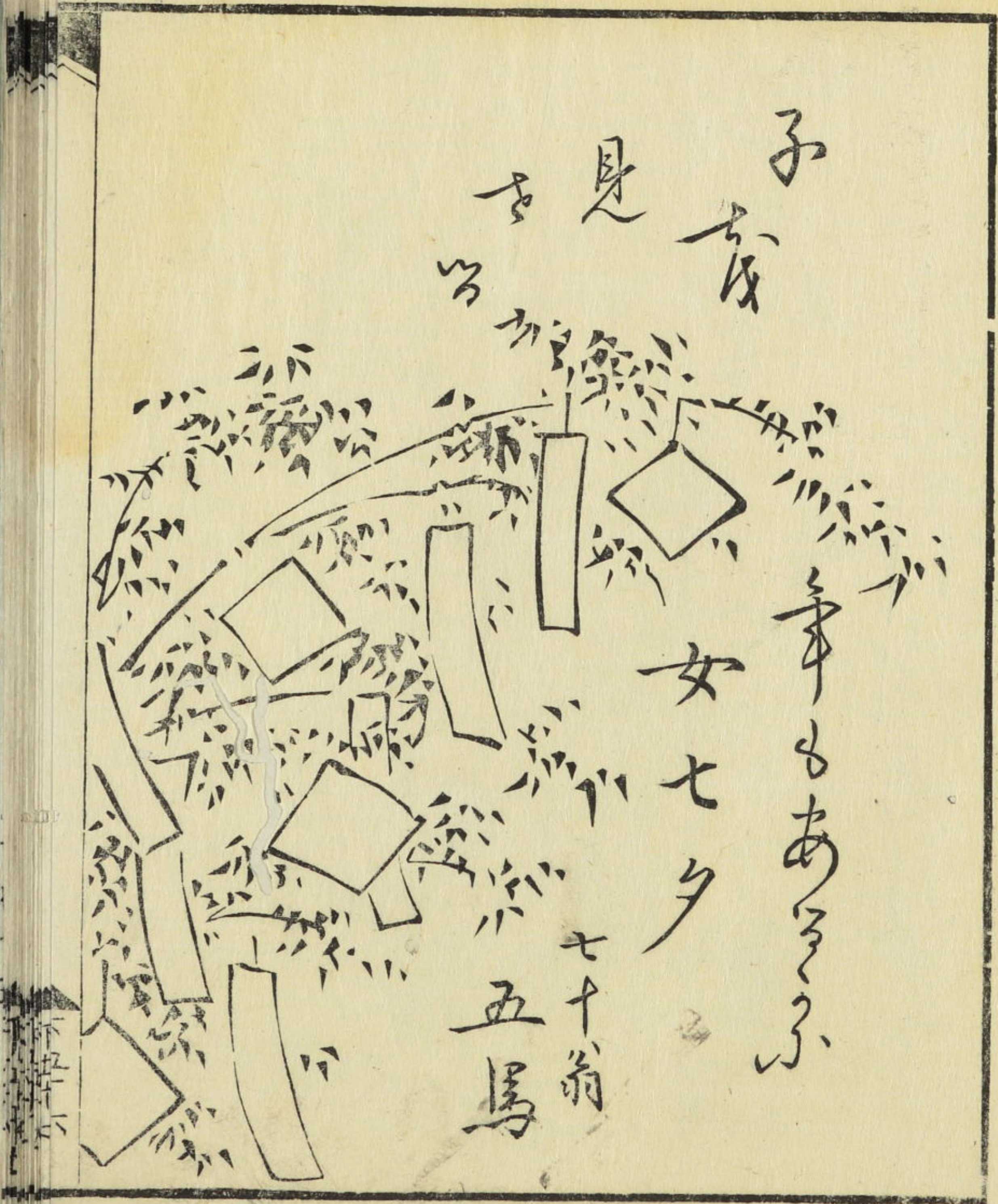
下五十四



あまのさし
来日必
沙干

凌山舎
亀真

下五十四

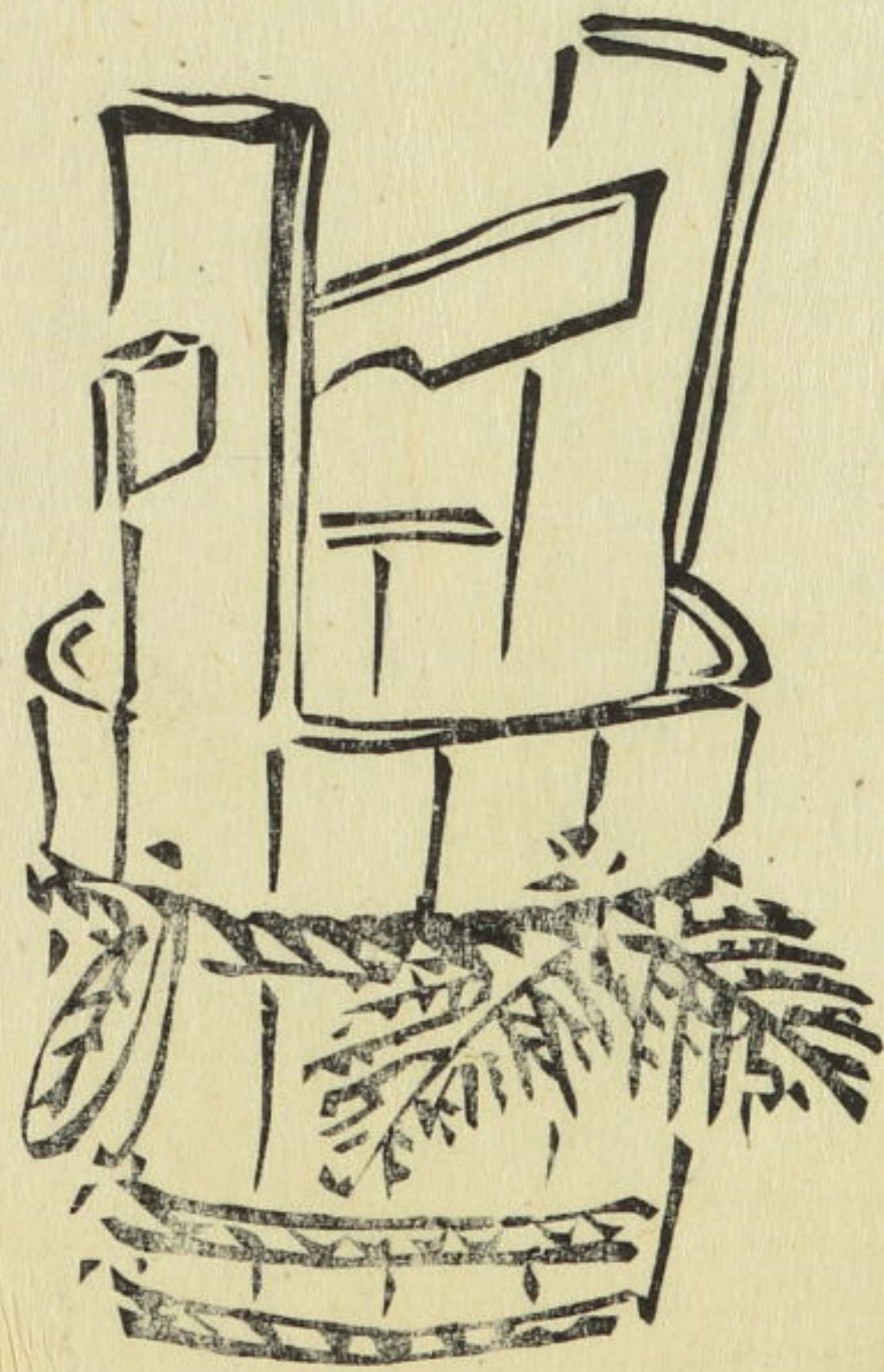


歳旦
 下物
 横雲の下こそ古郷へ花よ
 丹五
 人形のかしり番屋を川き
 堂那さ
 妻堂も庭の立よの平家も
 せん
 申く船は青は敷板や米の
 ち

美ノ水也

手取石月乃珠の端

曲尺陀
青標



鸞同

一
く
く
也

笠
七
成

か
き
子
乃

宿



仲殊雨あまき
霽後いささ
不得清光

火とも

以おや

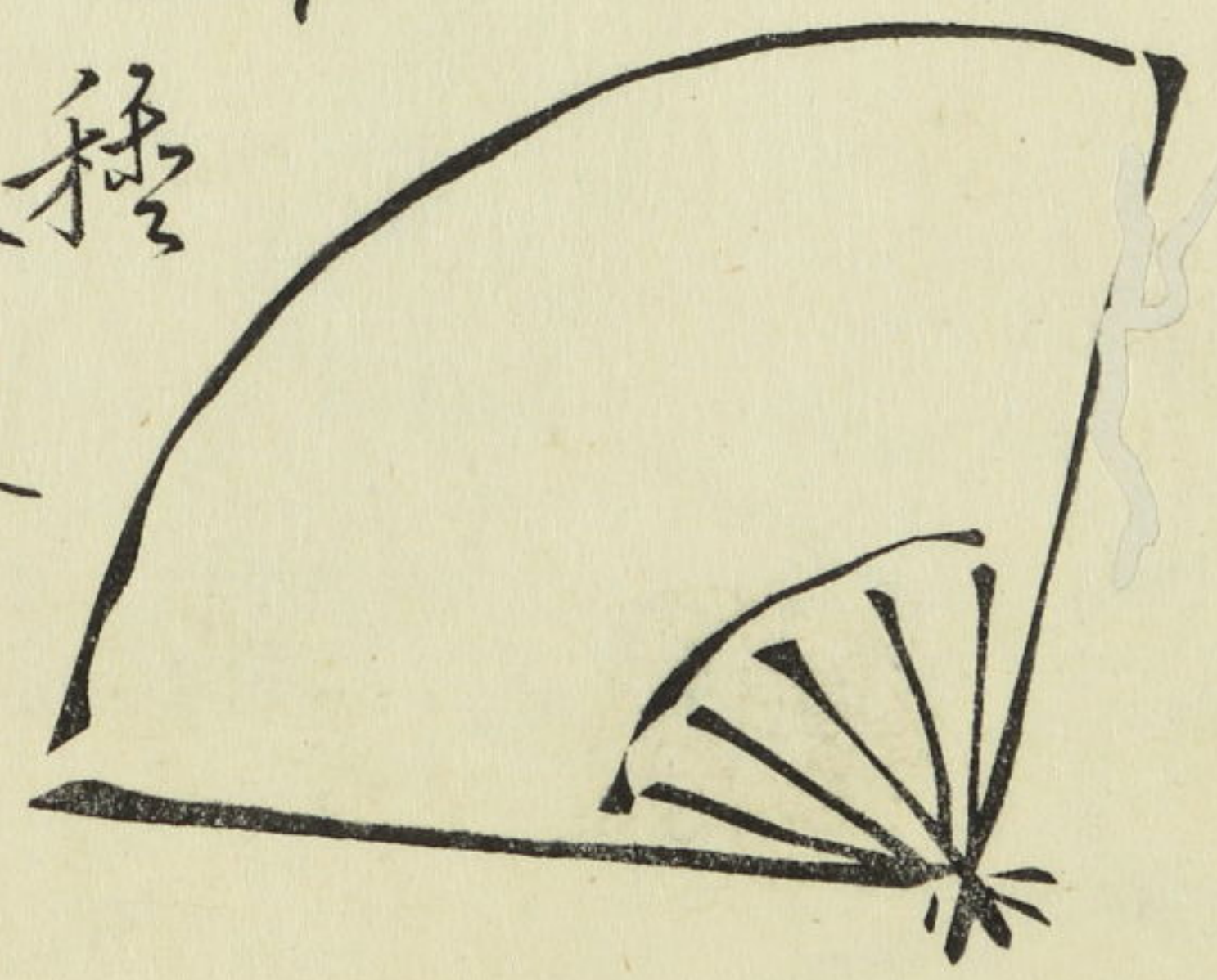
藤ん

嬰粟の

種

大虚庵

菊今之



神崎也

江と毛

石のみ

冬は月



臨野

君竹

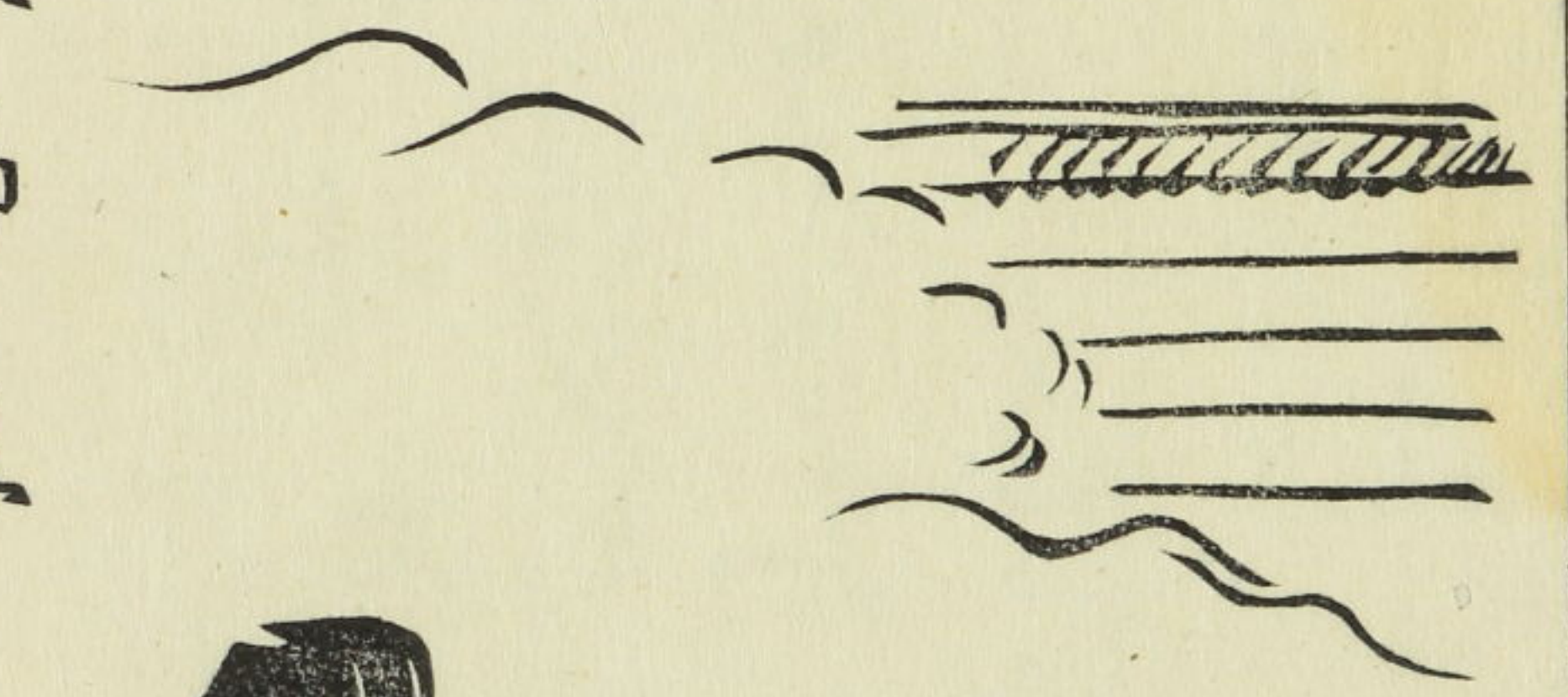


秋津洲也

木鼻の長清き

酒
奥丈

大師禱



朝雲
忘る一蠅の

鳥黒改
有國

子姫ふ口
ふ

下五十八

春

月宮小見ぬ

道多き

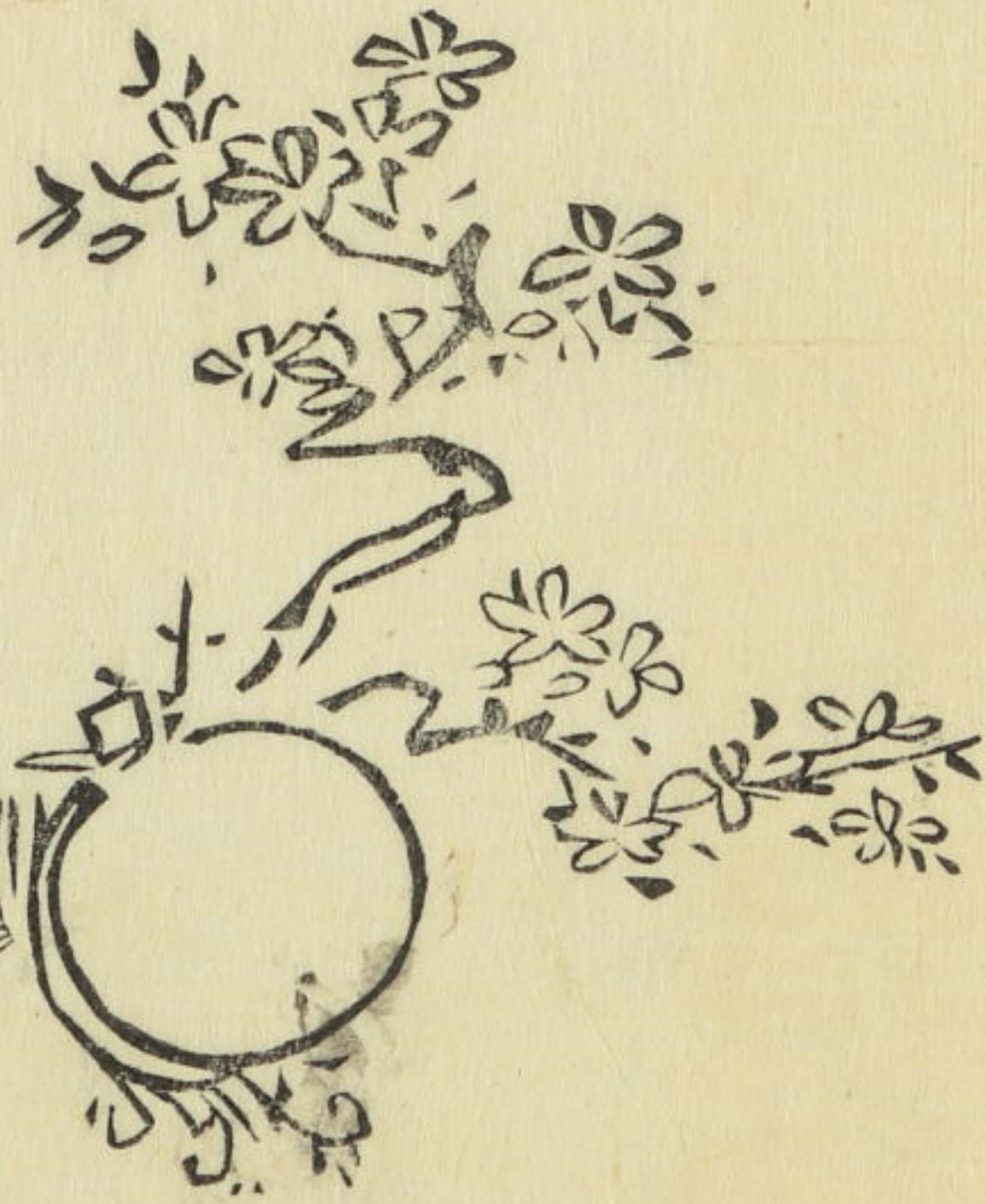
去るも

秋

むし 誰か

草中此

小夜庭



砂長

自画



飛入る

めし

古活安事

蓮乃寧

魚文

水窮如
初日
乳

南柳舎

朝見



夏

卯花

ふみと

月のけ

秋

関守の障子

流るや初

ふみち



楚亭

良夜

金英

名の扱恙々

三十二相晴りりり

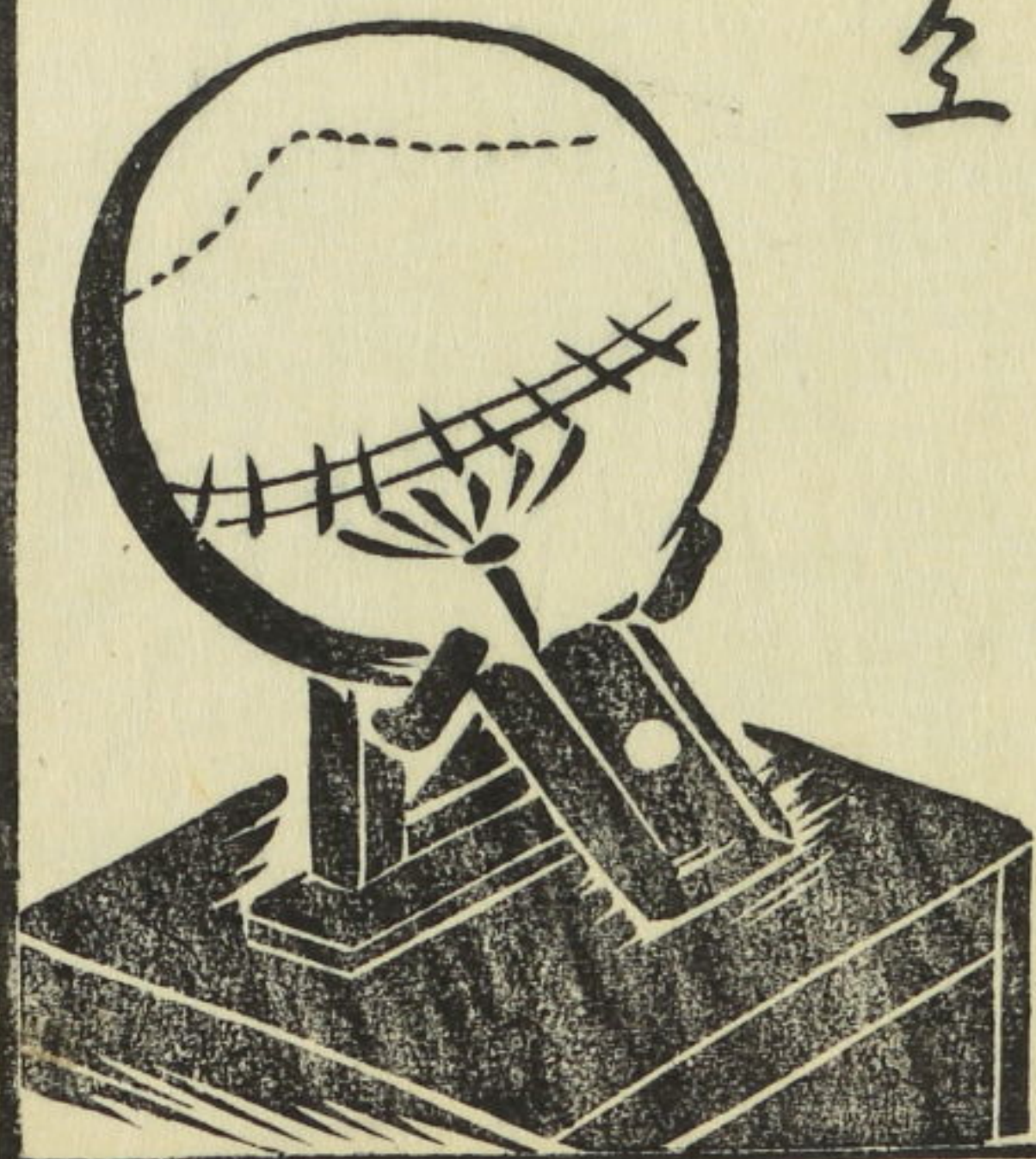
靈

立

よ〜抑気や

寄よけの寄

島のさ



山おきぬ終片

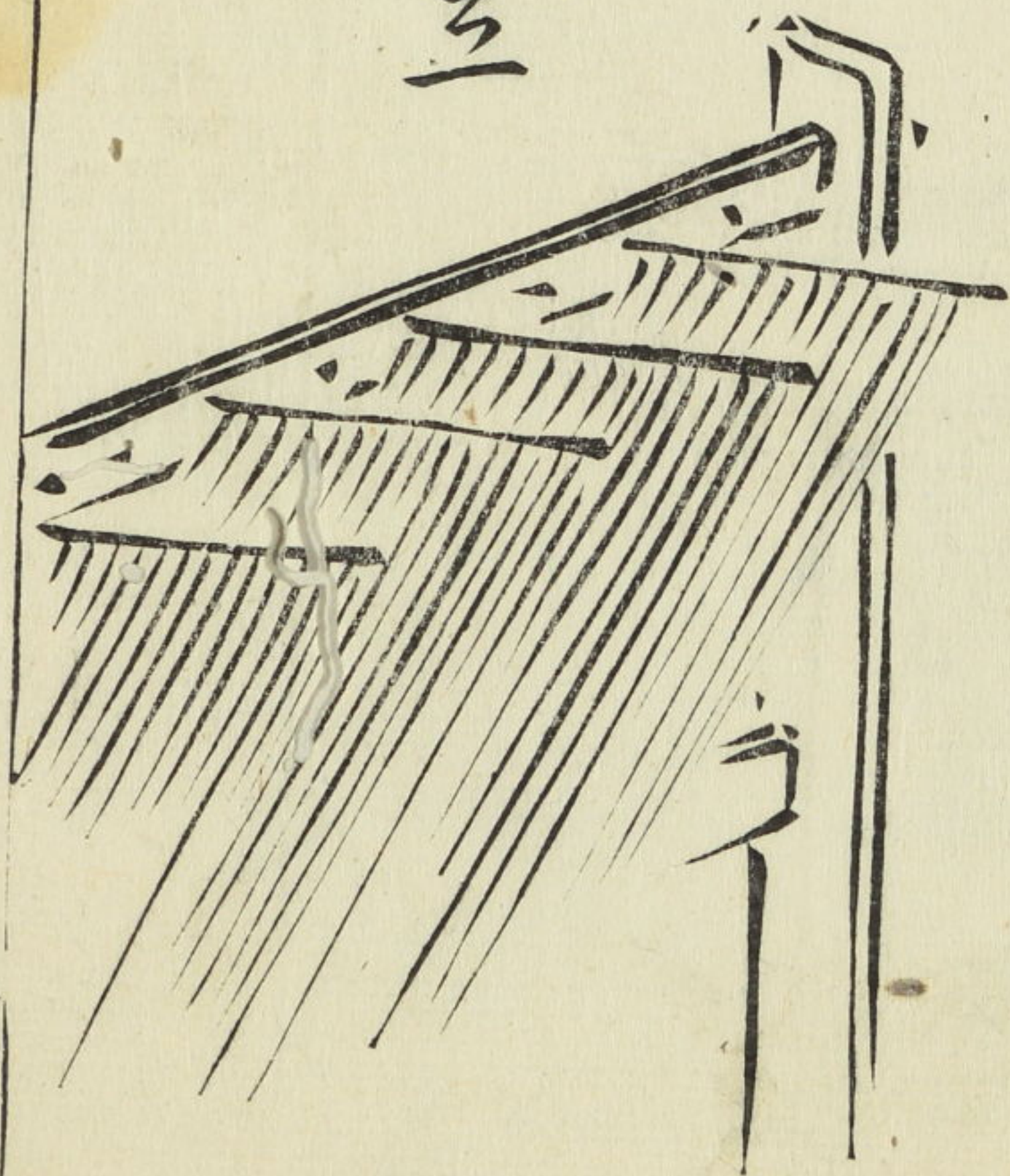
梅里

三輪

夏

未

立



浪打亭

かゝる亭 花乃雪

秋橋畔 釣徒

君里



下六十二



竹立之藤
杖竹林風雨中
雨り 仰み送
及又雪 堂

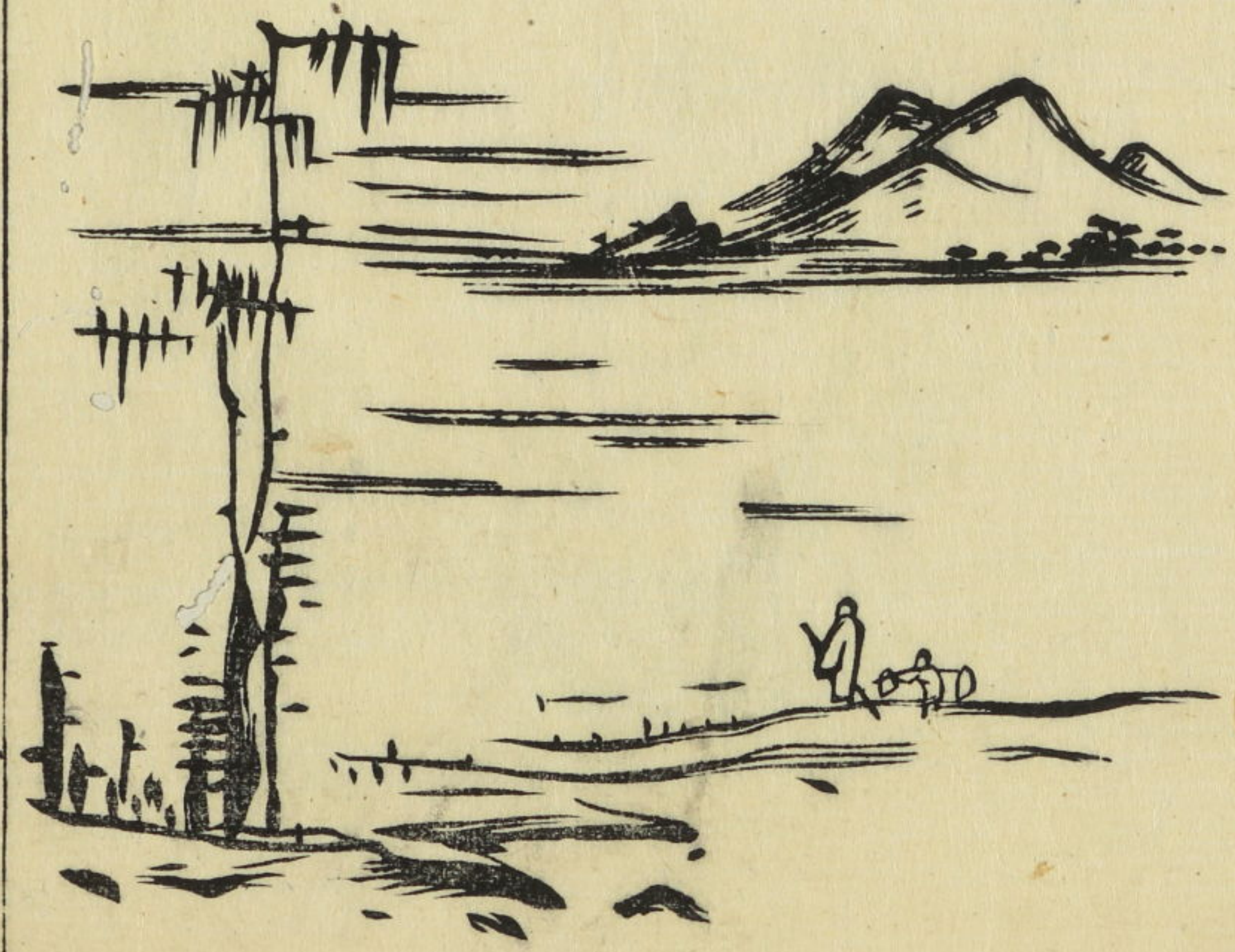


五乃高乃并題

五乃高乃并題

江山霜樹夕陽
 低寂寞惟聞
 宿鳥啼多少
 行人欲將急
 至
 柳遙在數岸

五芝圖并題





五芝圖

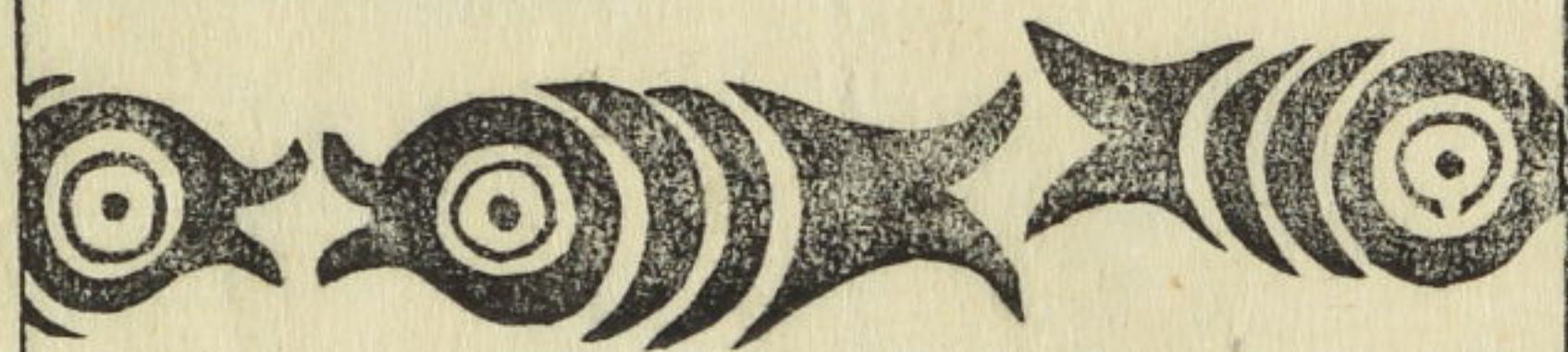

片急比
 去通
 一
 夕
 能

蛙水



下六十三

梨勢本



年の内お

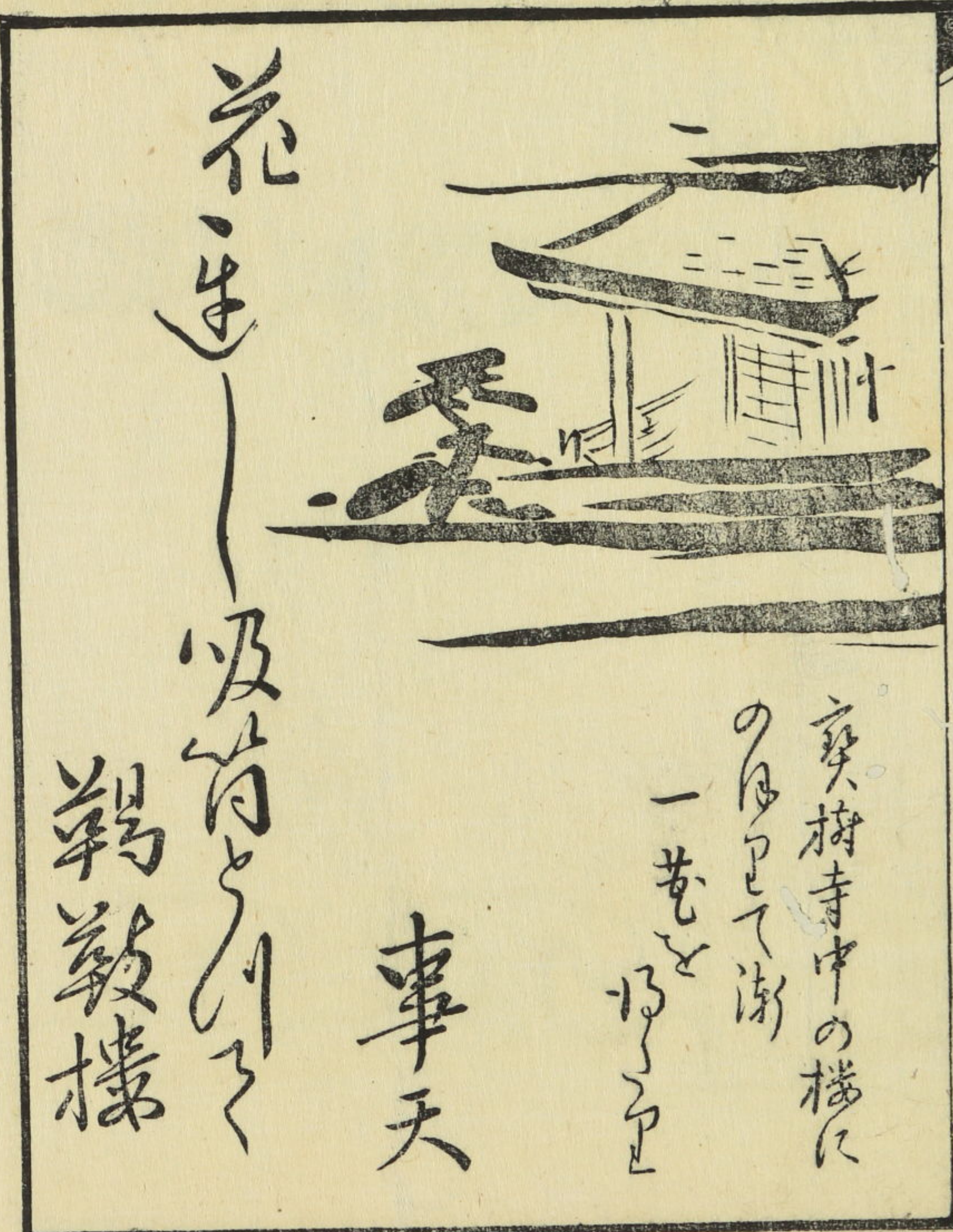
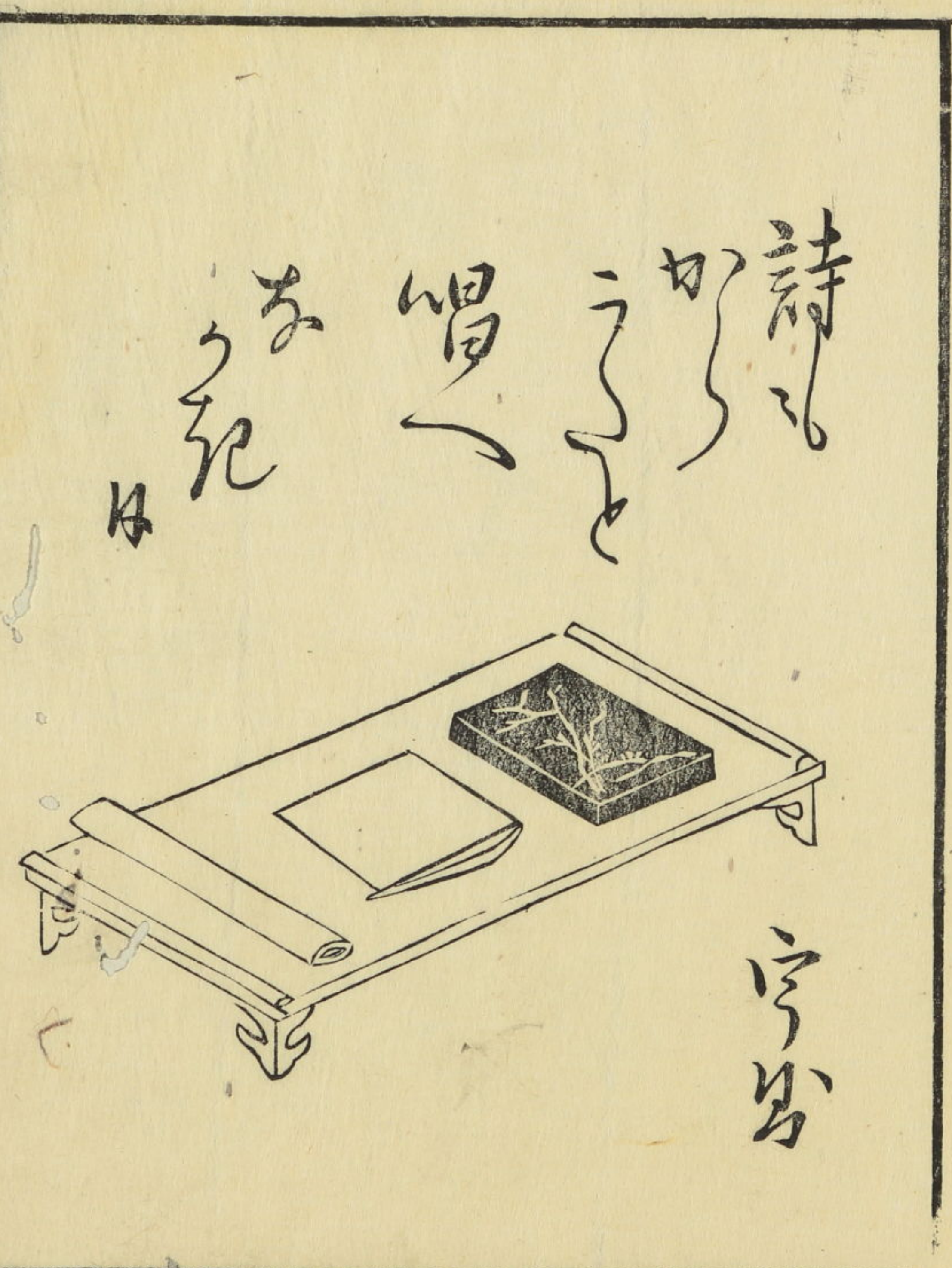
海老

嬉

万子

五字







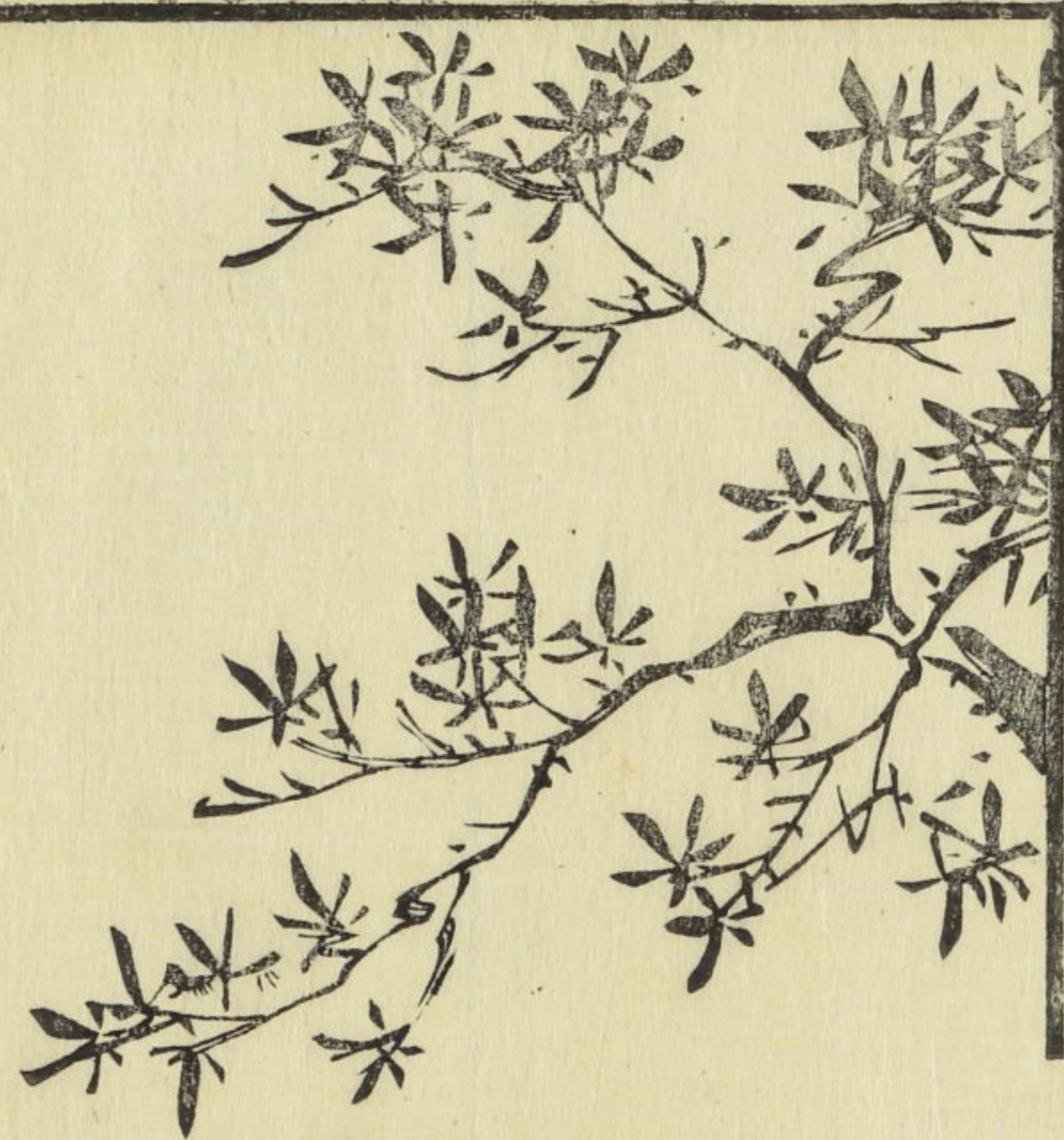
穀うに
 ちうと
 岩と
 こすのあ

馬常
 自画



引玉錦小
 志留
 あそふ
 若心
 特らとく

吳縞



楓
花
の
実
は
赤
い
と
す
る



秋
景

十一
八

清
正
と
す

雲

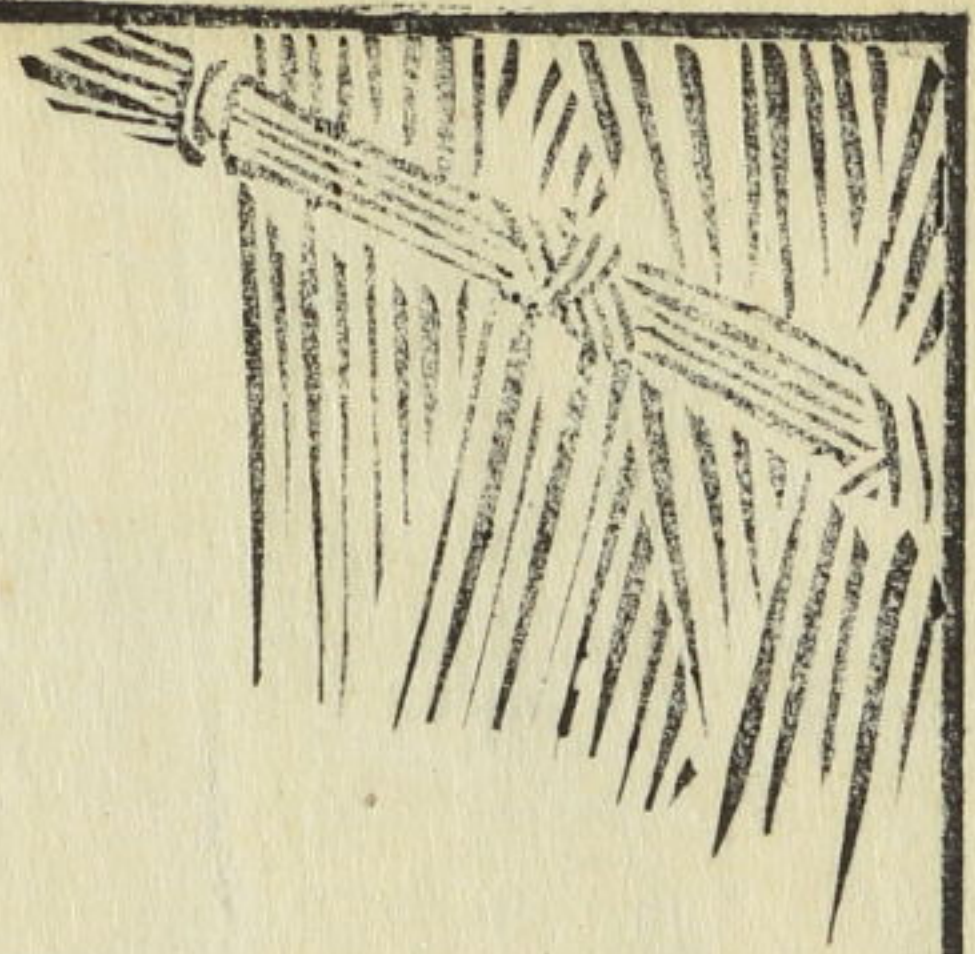
と
す

月
丸

山
の
峰



村
飯



侍

解り

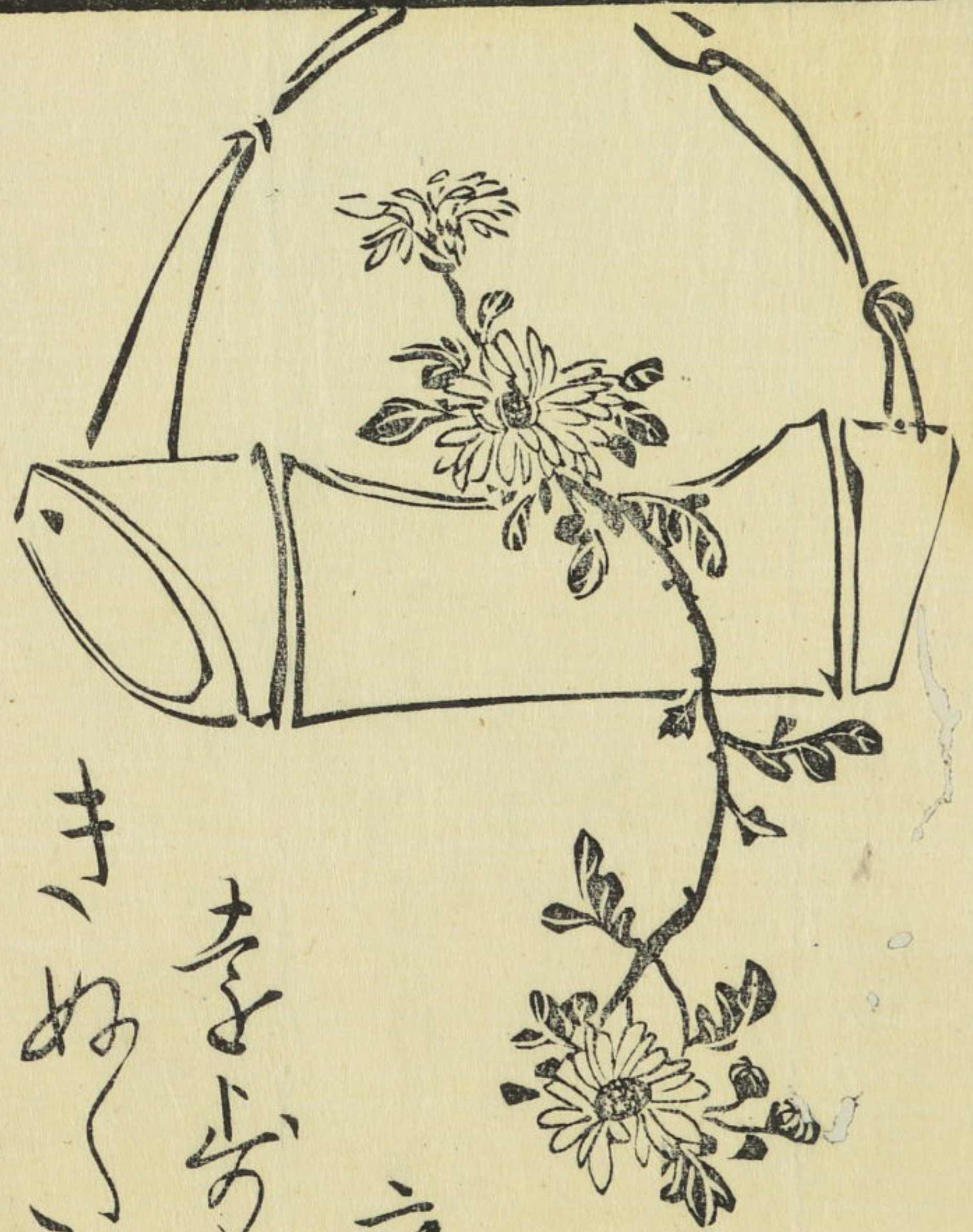
口説

人

あき



木奴

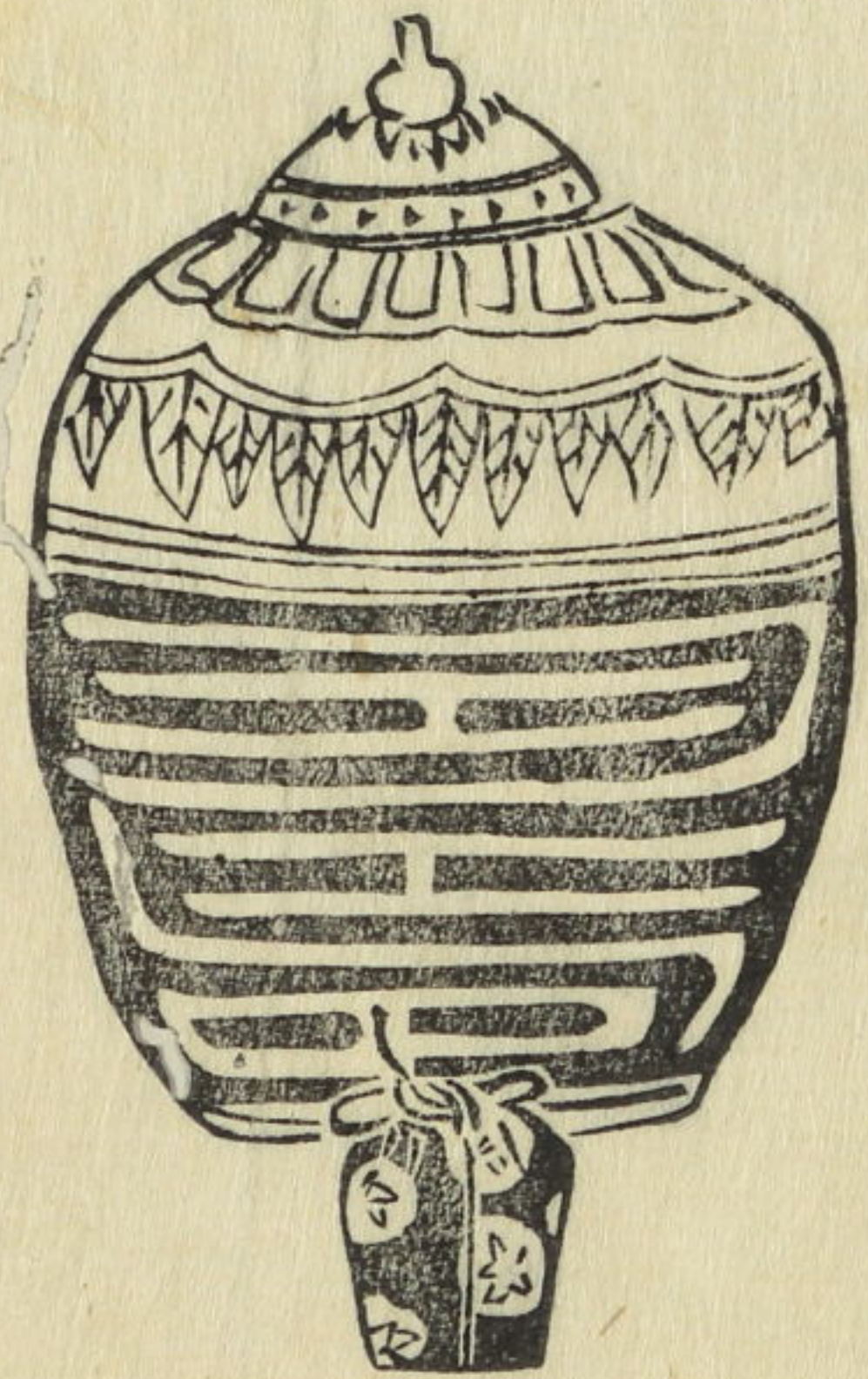


み飲の席

き好の

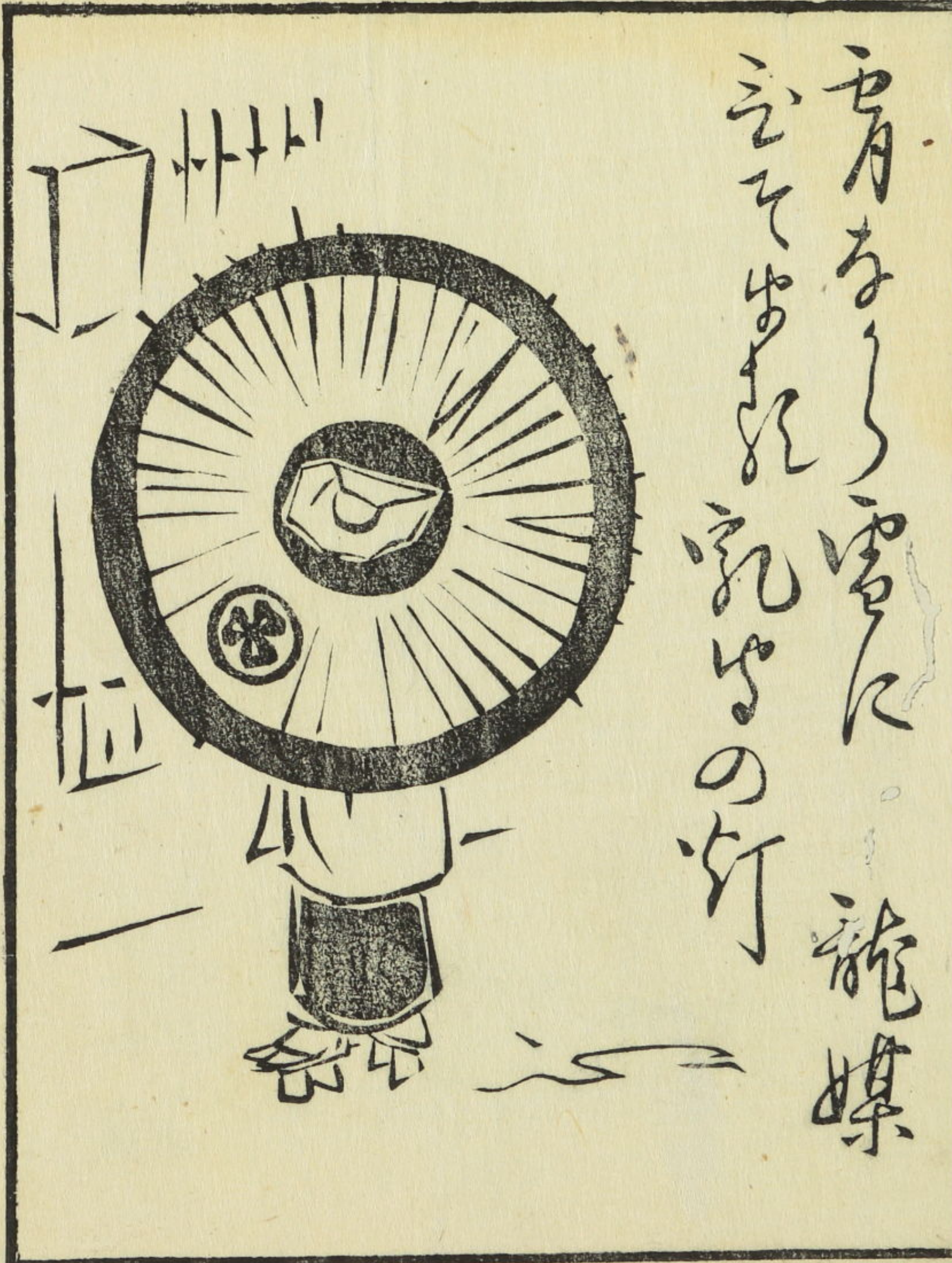
きよあし

廉和



水仙の葉の
風流は
御

女之



正月なうし雪に
龍媒
をそよませ
龍の灯

雲の峰ふりし月

馬紅



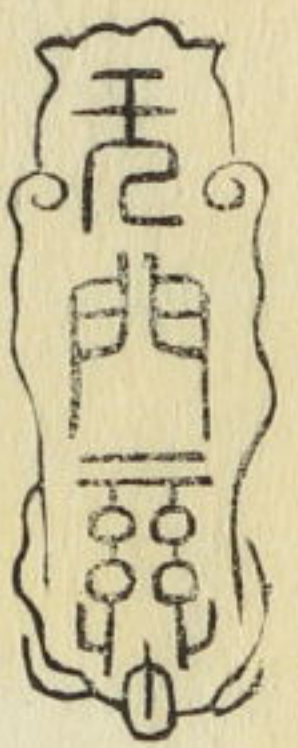
あしに

浅き方々奥に

双の鳥

左琴

末畧



三子、様、義、入、序、一、説、の
集、法、一、お、り、古、と、妙、一、ら、に、起、る
る、た、時、一、一、幻、術、の、者、一、た、は、
句、一、一、一、一、じ、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、

そほけのあふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの
あけに霞あふみはなほうの

此集母をぬらしたるに
はるるるるるるるるるる
其の母其の母の母の母
術の術の術の術の術の術
友の友の友の友の友の友
此の此の此の此の此の此
あらー誠子空舞はるるる
幻の幻の幻の幻の幻の幻
文の文の文の文の文の文
ならあやふと態ーと舞の舞
し中一教子教子の教子の
是も是も是も是も是も

